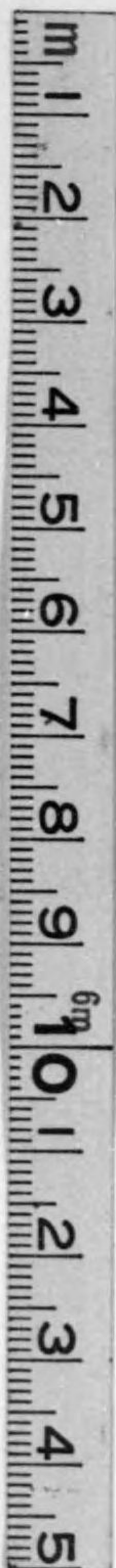


始



14.2  
332

大正十四年十一月

大正十三年度業務年報

福岡縣立農事試驗場



14.21-3321

# 大正十三年度業務年報目次

## 種藝之部

### 甲、普通栽培ニ關スル試驗

#### 第一、水 稻

- 一、耕種梗概.....(一)
- 一、豊凶考照試驗.....(一)
- 二、品種比較試驗.....(二)
- 三、品種比較豫備試驗.....(三)
- 四、耕起深淺對施肥量試驗.....(四)
- 五、苗代日數試驗.....(四)
- 六、牛力除草機使用試驗.....(六)
- 七、各種水田裏作物及稻經濟試驗.....(六)
- 八、稻增收試作.....(六)

- 第二、麥
- 一、耕種梗概.....(九)
- 一、豊凶考照試驗.....(九)
- 二、品種比較試驗.....(一〇)
- イ、稈.....(一〇)

14.12.3  
内交

### 正誤表

頁	行及段	誤	正
一八	終ヨリ四行目	乙種改良.....	乙、品種改良.....
四五	終ヨリ三行目	口瓜瓜	口糸南瓜
四五	終ヨリ二行目	糸瓜	糸南瓜
五二	七行目	三月上	三月上旬
一〇一	十六行目	聯測器	聯測器
一〇四	十行目一段	一日平均卵量	一顆平均卵量
一四一	二行目一段	全	早稻神力
一四一	五行目一段	早稻神力	全



口、小	麥	.....	(二)
三、品種比較豫備試驗	.....	(三)	
イ、稈	麥	.....	(三)
ロ、小	麥	.....	(三)
四、品種對多肥試驗	.....	(三)	
五、稈麥增收試作	.....	(三)	
六、小麥增收試作	.....	(四)	
七、耕起深淺對施肥量試驗	.....	(五)	
第三、藁	藁	.....	(六)
耕種梗概	.....	(六)	
一、藁基增收試作	.....	(七)	
二、藁基型ノ分離試驗	.....	(八)	
乙、品種改良ニ關スル試驗	.....	(八)	
第一、水	稻	.....	(八)
一、純系淘汰試驗	.....	(八)	
二、特性調査	.....	(九)	
三、各府縣原種比較	.....	(九)	
四、人工交配	.....	(一〇)	
五、未固定新品種試驗	.....	(一〇)	
六、新品種比較試驗	.....	(一三)	

第一、麥	.....	(三)	
一、純系淘汰試驗	.....	(三)	
二、特性調査	.....	(四)	
三、人工交配	.....	(五)	
四、新品種比較試驗	.....	(六)	
第二、新品種委託試驗	.....	(七)	
一、水	稻	.....	(七)
二、麥	.....	(九)	
三、藁	藁	.....	(三)
丙、米麥原種圃	.....	(三)	
第一、水稻原種圃	.....	(三)	
第二、麥原種圃	.....	(三)	
丁、綠肥ニ關スル試驗	.....	(四)	
第一、農商務省指定綠肥大豆改良増殖試驗	.....	(四)	
耕種梗概	.....	(四)	
一、品種比較試驗	.....	(五)	
二、豫備品種比較試驗	.....	(五)	
三、純系分離	.....	(六)	
四、麥間作播種時期試驗	.....	(七)	

交内



五、委託試驗.....(三七)

イ、麥間作試驗.....(三七)

ロ、桑園間作試驗.....(三八)

ハ、茶園間作試驗.....(三八)

ニ、梨園間作試驗.....(三九)

ホ、柑橘園間作試驗.....(三九)

戊、改良農具

第一、改良農具ノ陳列及實演.....(四〇)

第二、石油發動機取扱法傳習.....(四〇)

第三、石油發動機講習會.....(四〇)

第四、農具購入斡旋.....(四〇)

園藝之部

甲、本場

第一、蔬 菜.....(四一)

一、甘 藍.....(四一)

イ、甘藍品種比較試驗.....(四一)

ロ、甘藍採種試驗.....(四一)

二、結 球 白 菜.....(四二)

イ、品種比較試驗.....(四二)

ロ、直播對移植試驗.....(四二)

三、菜 類.....(四三)

イ、福岡白菜株間廣狹試驗.....(四三)

ロ、福岡白菜採收時期比較試驗.....(四四)

ハ、福岡白菜採種試驗.....(四四)

四、茄 子.....(四四)

イ、模範栽培.....(四四)

五、南 瓜.....(四五)

イ、模範栽培.....(四五)

ロ、糸南瓜模範栽培.....(四五)

六、胡 瓜.....(四五)

イ、模範栽培.....(四五)

七、西 瓜.....(四五)

イ、模範栽培.....(四五)

八、葱 頭.....(四五)

耕種梗概.....(四六)

イ、模範栽培.....(四六)

ロ、採種試驗.....(四七)

九、葱.....(四八)

耕種梗概.....(四八)

イ、模範栽培.....(四九)



10、蘿	葡	模範栽培	(五〇)
1、模範栽培	芋	耕種梗概	(五〇)
二、里	芋	模範栽培	(五〇)
1、模範栽培	樹	耕種梗概	(五〇)
第一、果	樹	模範栽培	(五〇)
一、葡萄硝子室栽培		耕種梗概	(五〇)
二、柑橘依托試驗		模範栽培	(五〇)
1、肥料配合試驗		耕種梗概	(五〇)
1、剪定法比較試驗		模範栽培	(五〇)
三、落葉果樹經濟調查依托試驗		耕種梗概	(五〇)
第二、花	卉	模範栽培	(五〇)
乙、豐前園藝分場		耕種梗概	(五〇)
第一、蔬	菜	模範栽培	(六一)
一、甘	藍	耕種梗概	(六一)
1、甘藍硫黃華施用試驗		模範栽培	(六一)
二、茄	子	耕種梗概	(六一)
1、模範栽培		模範栽培	(六一)

1、模範栽培試驗	瓜	耕種梗概	(六四)
三、胡	瓜	模範栽培	(六四)
1、仕立法比較試驗		耕種梗概	(六四)
1、露菌病豫防藥劑效果比較試驗		模範栽培	(六四)
四、南	瓜	耕種梗概	(六四)
1、模範栽培試驗		模範栽培	(六四)
五、西	瓜	耕種梗概	(六八)
1、品種比較試驗		模範栽培	(六八)
六、甘	藷	耕種梗概	(七〇)
1、品種比較試驗		模範栽培	(七〇)
七、結	球白菜	耕種梗概	(七一)
1、品種比較試驗		模範栽培	(七一)
1、模範栽培試驗		播種期比較試驗	(七三)
八、縮	菜類	耕種梗概	(七四)
1、模範栽培		模範栽培	(七四)



イ、模範栽培試験	.....	(七五)
ロ、品種比較試験	.....	(七五)
九、蘿	.....	(七六)
耕種梗概	.....	(七六)
イ、模範栽培試験	.....	(七七)

農藝化學之部

第一、肥料委託試験	.....	(七九)
-----------	-------	------

一、三要素試験	.....	(七九)
二、主要窒素肥料肥効試験	.....	(七九)

第二、肥料試験	.....	(八〇)
---------	-------	------

一、木框試験	.....	(八〇)
イ、石灰窒素肥効試験	.....	(八〇)
ロ、窒素質肥料連用試験	.....	(八〇)
ハ、窒素質肥料麥作肥効試験	.....	(八一)
ニ、石灰連用試験	.....	(八一)
二、土管試験	.....	(八二)
イ、磷酸質肥料連用試験	.....	(八二)
ロ、加里肥料肥効試験	.....	(八三)
ハ、諸種磷酸肥料肥効試験	.....	(八三)

ニ、鶏糞肥効試験	.....	(八四)
ホ、ザートウキツケン施用法試験	.....	(八五)
ヘ、大豆粕施用法試験	.....	(八五)
三、「ポット」試験	.....	(八六)
イ、促肥素加用試験	.....	(八六)
ロ、「フオスフワゾット」肥料窒素肥効試験	.....	(八七)
ハ、「フオスフワゾット」肥料磷酸肥効試験	.....	(八八)
四、圃場試験	.....	(八九)
イ、硫酸加里肥効試験	.....	(八九)
ロ、過磷酸石灰肥効試験	.....	(八九)
ハ、有機質及無機質肥料連用試験	.....	(九〇)
第三、研究分析	.....	(九一)
一、有機性窒素質肥料分解速度比較試験	.....	(九一)
二、過磷酸石灰還元作用試験	.....	(九三)
第四、依頼及場用分析	.....	(九五)
一、依頼分析	.....	(九五)
二、場用分析	.....	(九五)

畜産之部

第一、豚	.....	(九七)
------	-------	------



飼養管理……………(九七)

一、種豚血統……………(九七)

二、種豚配付及種付回数……………(九八)

第二、家禽……………(九八)

飼養管理……………(九八)

イ、種禽飼料……………(九九)

ロ、種禽管理……………(九九)

ハ、雛鶏飼料……………(一〇〇)

ニ、雛鶏管理……………(一〇〇)

ホ、孵化概要……………(一〇一)

一、種禽ノ品種並ニ其飼養數……………(一〇一)

二、種禽種卵ノ配付……………(一〇一)

三、孵化成績……………(一〇二)

四、試験調査事項……………(一〇三)

イ、鶏種試驗……………(一〇三)

ロ、産卵能率増進試驗……………(一〇五)

ハ、鶏卵貯藏試驗……………(一〇八)

### 病虫害之部

第一、病理ニ關スル試驗……………(一〇九)

一、柑橘類潰瘍病豫防試驗……………(一〇九)

### 第二、害虫ニ關スル試驗

一、螟蛾發生豫察燈成績……………(一一六)

二、螟虫卵寄生蜂保護器ニ關スル調査……………(一一八)

三、螟虫卵寄生蜂ノ寄主調査……………(一二〇)

四、稻生育時期ト葉鞘變色莖摘採トノ關係試驗……………(一二〇)

五、葉鞘變色莖摘採回数試驗……………(一二一)

六、二化性螟虫ノ葉鞘變色莖摘採ノ効果及工程ニ關スル調査……………(一二三)

七、螟虫卵寄生蜂ノ器外飛出ニ關スル實驗……………(一二三)

八、益蜂保護器ト寄生率トノ關係調査……………(一二三)

九、苗代採卵工程ニ關スル調査……………(一二四)

一〇、螟虫ノ苗ニ於ケル産卵位置調査……………(一二五)

一一、螟蛾發生期調査……………(一二六)

一二、螟虫卵寄生蜂寄生歩合調査……………(一二八)

一三、益蜂保護ト寄生率トノ關係調査……………(一三〇)

一四、螟虫對水稻特性試驗……………(一三〇)

一五、螟虫對插秧期比較試驗……………(一四一)

一六、採卵及被害莖摘採ニ關スル効果比較試驗調査表……………(一四四)



一七、麥萎縮病豫防試驗……………(一四五)

一八、梨鋸蜂驅除試驗……………(一四五)

一九、野鼠チフス菌配付……………(一四五)

二〇、べだりあ瓢虫配付……………(一四六)

雜 之 部

第一、見習生ノ養成……………(一四七)

第二、委託試驗擔任者……………(一四八)

第三、講習會……………(一五一)

第四、出張……………(一五一)

第五、印刷物……………(一五二)

第六、種苗、種畜、種禽、種卵ノ配付……………(一五三)

第七、質問應答……………(一五三)

第八、文書收發……………(一五三)

第九、參觀人……………(一五四)

第十、職員異動……………(一五四)

第十一、建 物……………(一五五)

第十二、面 積……………(一五七)

第十三、大正十三年度豫算……………(一五八)

第十四、現在職員……………(一五九)

種 藝 之 部



# 大正十三年度業務年報

## 種藝之部

### 甲普通栽培ニ關スル試驗

#### 第一、水 稻

##### 耕 種 梗 概

當場水稻作試驗ノ耕種法ハ特殊ノ試驗ヲ除ク外總テ左ノ耕種法ニ準據ス

- 一、選種法唐箕撰施行後鹽水選ヲ行フ(比重無芒粳一、一五有芒粳一、一二糯一、一〇)
- 一、浸種法六晝夜間桶中ニ浸種シ毎日換水ス
- 一、苗代整地法苗代ハ三月上旬耕起シ四月中旬土塊ヲ碎キ五月上旬更ニ土塊ヲ細碎シ畦割ノ後肥料ヲ施シ灌水後馬糞ニテ代搔キヲ爲シ其ノ後常ニ湛水ス五月下旬落水シ木灰ヲ撒布シ馬糞ニテ高底ナキ様縱横ニ代搔ヲナシ東西ニ床巾四尺ニ一尺巾ノ溝ヲ設ケ床面ヲ作ル
- 一、苗代ノ肥料苗代ニ施セル肥料ノ種類及反當施用量含有成分並ニ施用法左ノ如シ

肥料名	反當施用量	空 同			施 用 法
		氮	磷	鉀	
堆肥	三〇〇、〇〇〇	一、五〇〇	〇、七八〇	一、八九〇	畦割ノ際撒布ス
油粕	二〇、〇〇〇	一、〇〇八	〇、四〇〇	〇、二六〇	代搔前床面ニ撒布ス
過磷酸石灰	八、〇〇〇	—	〇、七五〇	—	代搔前床面ニ施用ス



木	計	一〇、〇〇〇	二、五〇八	〇、三九八	一、一〇〇	三、二五〇	播種前床面ニ撒布ス
---	---	--------	-------	-------	-------	-------	-----------

一、播種法五月下旬整地ヲ終リテ床面稍乾燥スルヲ待チテ一坪ニ付三合ノ種子ヲ厚薄ナキ様丁寧ニ播下シ  
 鍬ヲ以テ種子ノ見エザル程度ニ塗込ミヲナス  
 一、苗代ノ管理播種後發芽マデハ可成床面ニ水ノ上ラザル程度ニ溝ノミニ灌水シ發芽ヲ促進セシメ其後ハ  
 常ニ淺水トシ時々落水ス病虫害ノ驅除豫防等ハ機宜ノ處置ヲナス  
 一、本田施肥法六月下旬麥及ビ薯蓣跡ノ畦上ニ原肥ヲ施シテ畦ヲ耕起シ灌水シテ畔塗ヲナシ馬糞ニテ縱横  
 ニ代掻ヲナス  
 一、本田ノ肥料本田ニ施用セル肥料ノ種類及反當施用量左ノ如シ

肥料名	反當施用量	空		成		加		分		元		追		法
		素	機	酸	成	分	里	元	肥	肥	肥			
堆肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五二〇	〇、二六〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	〇、〇〇〇
大豆粕	二〇、〇〇〇	一、四〇〇	〇、二〇〇	〇、四〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	〇、四〇〇	〇、四〇〇	〇、四〇〇	〇、四〇〇	〇、四〇〇	〇、四〇〇	〇、四〇〇	〇、〇〇〇
過燐石灰	八、〇〇〇	〇、〇〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、二〇〇	〇、〇〇〇
木灰	一〇、〇〇〇	二、四〇〇	〇、三九〇	一、一七〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	〇、〇〇〇
計		二、四〇〇	〇、三九〇	一、一七〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	二、三二〇	〇、〇〇〇

一、播種七月上旬一坪五十六株トシ一株二、三本挿シ縱横正條植ヲナス  
 一、管理常ニ淺水トシ中耕除草毎ニ落水シ移植後十五日目ニ雁爪打ヲ行ヒ其後手取除草器交互ニ四回ノ除  
 草ヲ行ヒ螟虫被害莖ノ拔キ取り及浮塵子ノ注油驅除等機宜ノ處置ヲナシ穂ノ下垂スル頃落水ス

一、豐凶考照試驗

目的、毎年同一ノ地區ニ於テ同一肥培管理ヲ以テ早中晩各二品種宛ヲ栽培シ一定ノ時期ニ於テ生育狀況及  
 收量ヲ調査シ當年ノ豐凶ヲ考照セントスルニアリ

成績

播種後晴天持續シ爲メ頗ル強剛ナル發育ヲナシ八月九月ニ暴風アリ早稻ニアリテハ被害ヲ見タル  
 モ中晩稻ハ葉先ヲ損傷シタルノミニテ大害ナク病害虫ノ被害モ少クシテ平年ニ比シ早稻ハ一割三分  
 ノ減收ヲ示シ中稻ハ三分三厘晚稻ハ四分一厘ノ增收ナリ

一、品種比較試驗

目的 本場ニ於テ從來試驗ノ結果成績優良ト認メタル左ノ品種ヲ選抜シ詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ本縣所適  
 ノ優良品種ヲ選定セントスルニアリ

品名	出穗期	成熟期	草丈	莖數	大正十三年 玄米反當收量	粒形品質	標準ニ對スル玄米收量歩合		
							大正十一年	大正十二年	大正十三年
標準 (改良神力) (八區平均)	九、二一	一一、月一	三、〇五	一七、九	一、六六〇	中粒中ノ中	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇
愛場	八、二七	一一、〇一	三、一〇	一一、七	一、六六四	小粒中ノ下	八五、七	六八、三	六一、四
大玉	九、三	一一、〇一	三、〇四	一一、七	二、二〇九	中粒中ノ上	八八、五	七九、〇	八一、五
白作	九、五	一一、〇一	三、八六	一一、〇	二、二〇四	大粒上ノ上	八四、二	九三、五	八三、二
萬町	九、六	一一、〇一	三、八六	一一、〇	二、一七四	大粒上ノ中	八九、六	八七、一	八二、一
雄慶	九、七	一一、〇一	三、七〇	一一、七	二、二一三	大粒上ノ中	八五、二	九四、七	八三、三
辨慶	九、五	一一、〇一	三、二八	一一、三	二、二五四	中粒中ノ上	八五、二	九四、七	八三、三
神力	九、〇	一一、〇一	三、一〇	一一、〇	二、八三五	中粒中ノ中	一〇一、九	一〇四、七	一〇六、五
福間晚稻	九、〇	一一、〇一	三、〇四	一一、〇	二、八五三	中粒中ノ中	一〇四、七	一〇八、一	一一〇、七
宮力	九、一〇	一一、〇一	三、九〇	一一、七	二、五九七	中粒中ノ中	一〇八、一	一一〇、七	一一〇、七
青撰	九、一〇	一一、〇一	三、九〇	一一、七	二、五九七	中粒中ノ中	一〇八、一	一一〇、七	一一〇、七
九州晚稻	九、一四	一一、〇一	三、二〇	一一、四	二、四四二	中粒中ノ上	一〇〇、九	一〇〇、九	九七、九
福間晚稻	九、一四	一一、〇一	三、二〇	一一、四	二、四四二	中粒中ノ上	一〇〇、九	一〇〇、九	九七、九
旭選	九、一〇	一一、〇一	三、〇六	一一、六	二、五三九	中粒中ノ下	九四、七	九四、七	九三、九
青選	九、一〇	一一、〇一	三、〇六	一一、六	二、五三九	中粒中ノ下	九四、七	九四、七	九三、九
青選	九、一〇	一一、〇一	三、〇六	一一、六	二、五三九	中粒中ノ下	九四、七	九四、七	九三、九
青選	九、一〇	一一、〇一	三、〇六	一一、六	二、五三九	中粒中ノ下	九四、七	九四、七	九三、九



### 三、品種比較豫備試驗

目的 在來品種並ニ新品種中ヨリ優良ナル品種ヲ選拔シ品種比較試驗ニ供スルニアリ  
 成績 本年栽培品種ハ十六品種ニシテ成績優良ト認ムルモノ左ノ如シ  
 幾第二一四號

### 四、耕起深淺對施肥量試驗

目的 耕起ノ深淺ト施肥ノ多寡ハ收量ニ如何ナル關係アルカヲ知ルニアリ  
 成績

試驗區	支米反當收量
六寸耕肥料五割増 (普通肥料ニ對シ)	三、一二〇
三寸耕肥料五割増 (普通肥料ニ對シ)	二、八二一
六寸耕普通肥料	二、九〇〇
三寸耕普通肥料	二、七五〇

### 五、苗代日數試驗

目的 苗代日數ノ長短ハ收量ニ如何ナル關係アルカヲ知ルニアリ  
 成績

區名	播種期	支米收量(反當)
四十日苗 (標三區平均)	五月二十五日	二、五五二
五十日苗	五月十五日	二、六三二

四十五日苗	五月二十日	二、六八六
三十五日苗	五月三十日	二、五九三
三十日苗	六月五日	二、四九七

附記 供試品種ハ神力トス

### 六、牛力除草機使用試驗

目的 牛力除草機使用ト在來ノ方法ニ依ル除草ノ場合トニ付所要勞力工程回數及收量ニ及ボス影響ヲ知ラ  
 成績

區名	株間	標準區ニ對スル他區ノ勞力歩合(時間)	支米反當收量	標準ニ對スル收量歩合
雁爪除草機取	四一四寸	一〇〇、〇	二、六二五〇	一〇〇、〇〇
牛力除草機取	四一四寸	七一、〇	二、六五四一	一〇一、二九
牛力除草機取	三三三寸	五六、六	二、五〇九七	九五、六九
牛力除草機取	三三三寸	一〇、六	二、五五二八	九七、三三
牛力除草機取	三三三寸	一六、九	二、五五二三	九五、九〇
雁爪除草機取	四一四寸	一〇〇、〇	二、六二〇三	一〇〇、〇〇



七、各種水田裏作物及稻經濟試驗

目的 各種水田裏作物ヲ栽培シ其ノ跡地ニ水稻ヲ栽培シ相關連セル收支經濟ノ比較ヲ見ルニアリ。

成績 (反當)

區名	作物名	收入	全上内譯		支出	全上内譯		差引損益
			收量	單價		種苗代	備人代肥料代	
第一區	蕎麥	二八、四一	一、三三九	一石	三二、五二	一、五〇	一五、二〇	一五、八二
	晚稻神力	九九、七五	二、七七七	一石	三一、九五	一、六〇	一七、三五	一三、〇〇
計		一二七、八七		三六	六四、四七		一三、〇〇	六七、八〇
第二區	甘藍	一八二、九三	九四、六五〇	一、二〇	八二、四六	二〇、〇〇	二四、八〇	三七、六六
	晚稻神力	九九、三九	二、七六一	一石	二五、九二	一、六〇	一七、〇〇	七、三二
計		二九二、三二		三六	一〇八、三八		七、三二	一七三、九四
第三區	葱頭	一五二、四〇	七六、〇〇〇	一、二〇	九八、三〇	二〇、一〇	一六、三五	四一、三〇
	晚稻神力	九六、〇一	二、六六七	一石	二六、三二	一、六〇	一七、四〇	七、三二
計		二四八、四一		三六	一二四、六三		七、三二	一二三、七九

區名	作物名	收入	全上内譯		支出	全上内譯		差引損益
			收量	單價		種苗代	備人代肥料代	
第四區	馬鈴薯	六一、七六	三三、三〇〇	一、一七	四八、七五	九、三〇	一六、三五	二二、一〇
	晚稻神力	九九、八二	二、七七三	一石	二八、一五	一、六〇	一七、三五	九、二〇
計		一六一、五八		三六	七六、九〇		九、二〇	八四、六八
第五區	紫萁英	一七、九四	七八〇	生草十、二三	四、四〇	一、五五	一、九五	九〇
	晚稻神力	九九、七九	二、七七二	一石	四五、一三	一、六〇	二〇、三四	二二、一九
計		一一七、七二		三六	四九、五三		二二、一九	五四、六六
第六區	ザードウ井ケン	二一、三二	八二〇	生草十、二六	六、〇二	二、二〇	二、九二	九〇
	晚稻神力	九五、五〇	二、六五三	一石	四八、五五	一、六〇	二〇、三八	二六、五七
計		一一六、八二		三六	五四、五七		二六、五七	四六、九五
第七區	稞麥竹下	四一、五六	二、五九八	一、一六	四八、八八	二、二五	二二、七八	二五、八五
	晚稻神力	九九、〇〇	二、七五〇	一石	三三、五二	一、六〇	一六、六七	一四、二五
計		一四〇、五六		三六	八一、四〇		一四、二五	六六、四八
第八區	小麥江島神力	四六、一三	二、六八二	一、一七	四六、〇一	三、〇〇	二一、五六	二四、一五
	計			一、二二				五九、一六
								七、三二



八	晚稻神力	九七、二七	二、七〇二	石	三六	三二、五二	一、六〇	一六、六七	一四、二五	六四、七五
計		一四三、四〇				七八、五三				六四、八七

備考

一、人夫賃ハ男一日壹圓五拾錢女壹圓トシテ算出ス  
 一、馬耕ハ一日賃金ヲ四圓トス。

### 八、稻增收試作

目的 本場ノ土地ニ於テ最高ノ收量ヲ得ントスルニアリ  
 供試品種 神力四十一號 宮神力  
 反當施肥量左ノ如シ

肥料名	總量	元肥	追肥	空		成分
				全	上	
堆肥	三〇〇	三〇〇	七、五	一、五〇〇	一、五〇〇	一、二六〇
大豆粕	一五	七、五	七月下旬	一、〇五〇	一、〇五〇	三、〇〇〇
米糠	三〇	三〇、〇	七、五	一、〇五〇	一、〇五〇	四、五九九
骨粉	五	五、〇		二、〇〇〇	一、〇五〇	一、一〇〇
木灰	一〇	五、〇	一、〇〇		七、八〇	一、二六〇
硫酸加里	三	三、〇		三、三七四	三、三七四	四、三七九
計						

右施行ノ結果反當玄米收量左ノ如シ

神力四十一號 三石五斗八舛  
 宮神力 三石三斗八舛

### 第二麥

#### 耕種梗概

當場麥作試驗ノ耕種方法ハ特殊ノ試驗ヲ除ク外ハ總ノ左ノ耕種法ニ準據ス

- 一、撰種方法唐箕撰ノ後稷麥及ビ小麥ハ比重一、二〇大麥ハ比重一、一三ノ塩水ニテ撰種シタル後麥奴豫防ノ目的ヲ以テ冷水温湯浸法ヲ施行ス
- 一、整地ノ方法水田稻株切断後畦幅五尺ニ深耕シ土塊ヲ粉碎シ高サ六寸ノ角畦ヲ構成シ畦上三尺トシ畦幅六寸ノ二條縦雁岐トス
- 一、播種期作條ニ下肥ヲ施シテ小麥ハ十一月中旬稈麥及ビ大麥ハ十一月下旬ニ反當稈麥小麥ハ三升大麥ハ四升ヲ播種シ元肥ヲ施シテ後覆土ス
- 一、施肥量 肥料ノ種類反當施用含有成分施肥法左ノ如シ

肥料名	反當施肥量	同		成分	元肥	追肥	備考
		空	素				
堆肥	二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二六〇	二〇〇	一、〇〇〇	播種後直ニ施用
大豆粕	一五	一、〇五〇	一、〇五〇	三、〇〇〇	一五	一、〇〇〇	堆肥ノ上ニ施用
大木	一八	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一八	一、〇〇〇	堆肥ノ上ニ施用
過燐酸石灰	一〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇	追肥トシテ麥ノ上ニ施用
木灰	一〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇	播種前一回播種後追肥トシテ二回ニ分施ス
下木	一四〇	七、八九	一、八二	三、七八	四〇	一〇〇	







金比羅	五、三	六、一四	三、九六	軍配狀	一、七八六	中粒中ノ下	一一六、六
早小麥	四、二六	六、八	三、八〇	紡錘狀	一、九四一	中粒中ノ中	一二六、八
伊賀筑後オレゴン	四、二六	六、八	三、八五	紡錘狀	二、〇〇一	中粒中ノ中	一三〇、七
伊賀筑後	四、二六	六、八	三、六九	軍配狀	一、九五三	中粒中ノ下	一二九、八
三州小竹	四、三〇	六、一二	三、六三	錐狀	一、九五三	中粒中ノ下	一二九、八
島田小麥	四、二五	六、八	三、八七	錐狀	二、一七二	中粒中ノ中	一四二、八

### 三、品種比較豫備試驗

イ、稈 麥

目的 優良品種ト認メラレタル品種ニ付其ノ適否ヲ比較シ以テ品種比較試驗ニ供スベキ品種ヲ撰定スルニアリ

成績

栽培品種數

六 品種

成績優良ナル品種名

第三六號(但シ畿内支場新品種)

目的 稈麥ニ同ジ

成績

栽培品種數

六

成績良好ナル品種名

筑摩第二九號 伊賀筑後一號

### 四、品種對多肥試驗

目的 優良品種ノ耐肥性ヲ判定セントス

品 種 名	草 丈	倒 伏 程 度	反 當 收 量
赤坊主	三、九五	五 割	二、〇五二
江島	四、〇九	一 割	二、三八一
早小麥	三、五三	一 割	二、四七七
畿内	四、〇〇	四 割	一、九三九
三	三、七三	一 割	二、五七六

栽培法及施肥量ハ次ノ小麥增收試作ニ準ズ

### 五、稈麥增收試作

目的 本場ノ土地ニ於テ最高ノ收量ヲ得ントスルニアリ設計水田五畝歩ニ稈麥竹下ヲ以テ左ノ如ク試作ス

一、整地六寸ノ深サニ耕返シ塊割ニテ土塊ヲ粉碎シ更ニ耕返シヲナシ土塊ヲ碎キ馬糞ニテ上ヲ平面ニ搔キ均シ畦巾四尺トシ一尺ノ平雁岐ヲ縱ニ切ル

一、播種及施肥作條ニ人糞尿ヲ施シ反當二升ノ種子ヲ厚薄ナキ様丁寧ニ播種ヲナス播下ノ後堆肥ヲ施シ其ノ上ニ他ノ元肥ヲ施用シテ四五分ノ厚サニ覆土ヲナス

一、手入播種後三十日ヲ經テ第一回ノ手入ヲ行ヒ二十日乃至二十五日ヲ經ル毎ニ次ギノ如ク手入レヲ行フ

第一回	挾土	第一回	鎮壓
第二回	挾土	第二回	鎮壓
第三回	挾土	第三回	鎮壓
第四回	挾土		
第五回	挾土		



一、肥料 反當施肥量左ノ如シ

肥料名	元肥	一回追肥	二回追肥	總量	窒素	磷酸	加里
堆肥	三〇〇	五〇		三〇〇	一、五〇〇	七九〇	一、八九〇
下豆粕	二〇〇	一〇〇		三〇〇	一、五六四	一、三〇〇	二、一〇〇
大豆粕	一〇〇	一〇〇		二〇〇	二、一〇〇	三〇〇	六〇〇
硫酸アンモニア	一〇			一〇	四〇〇	三〇〇	一、六八〇
過磷酸石灰	一〇			一〇	三〇〇	一〇〇	一、二〇〇
硫酸加里	四〇			四〇	四、二〇〇	四、二〇〇	一、二〇〇
木灰		二〇		二〇	四、二〇〇	四、二〇〇	五、五八〇
計							

六、小麥增收試作

目的 本場ノ土地ニ於テ最高ノ收量ヲ收メントスルニアリ

設計水田五畝歩ニ小麥江島神力ヲ以テ左ノ如ク試作ス

一、整地及播種 稈麥增收試作ニ同ジ

一、手入 播種後三十日ヲ經テ第一回ノ手入ヲ行ヒ其後二十日乃至二十五日ヲ經ル毎ニ次ノ通リ手入ヲナス

- 第一回 挾土 二三分 第一回 鎮壓
- 第二回 挾土 四五分 第二回 鎮壓
- 第三回 挾土 七八分
- 第四回 挾土 二寸

一、肥料反當施肥量左ノ如シ

肥料名	元肥	一回追肥	二回追肥	總量	窒素	磷酸	加里
堆肥	三〇〇	五〇		三〇〇	一、五〇〇	七五〇	一、八九〇
人糞	二〇			二〇	一、五六四	一、三〇〇	二、一〇〇
大豆粕	一〇			一〇	一、四〇〇	二〇〇	〇、四〇〇
硫酸アンモニア	一〇			一〇	四〇〇	一〇〇	一、六八〇
過磷酸石灰	一〇			一〇	三〇〇	一〇〇	一、二〇〇
硫酸加里	四〇			四〇	四、二〇〇	四、二〇〇	一、二〇〇
木灰		二〇		二〇	四、二〇〇	四、二〇〇	五、三八〇
計							

七、耕起深淺對施肥量試驗

目的 耕起ノ深淺及ビ施肥量ノ多寡ニヨリ其ノ收量ヲ判定スルニアリ

成績

區名	反當	收量
六寸耕 多肥 (普通肥料)	五割増	一、三〇三
六寸耕 多肥 (普通肥料)	五割増	一、一三三
六寸耕 普通肥料		一、二四三
三寸耕 普通肥料		一、一三三



### 第三、薯 臺

#### 耕 種 梗 概

苗 床

- 一、整地 九月中旬畑地ヲ耕起シ十月上旬再耕シテ土塊ヲ粉碎シ畦巾五尺高サ四寸ノ角畦ヲ成形シ四條ノ平雁岐ヲ切ル
- 二、播種法 十月上旬苗床一畝歩ニ五勺ノ種子ヲ條播ス
- 三、肥料 一畝歩ニ對シ左ノ肥料ヲ施用ス

肥料名	元 肥	第一回追肥	第二回追肥	第三回追肥	總 量
堆肥	一五〇〇〇				一五〇〇〇
油粕	一〇〇〇〇				一〇〇〇〇
人糞	五〇〇〇〇				五〇〇〇〇
木灰	二〇〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	二〇〇〇〇
總 量		五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	二〇〇〇〇

附記 第一回追肥ハ十月中旬第二回追肥十月下旬第三回ハ十一月月上旬ニ施肥ス

- 一、手 入 十月中旬十月下旬ノ二回間引ヲナス十月中旬十月下旬十一月月上旬ノ三回ニ中耕ヲナス
- 本 田
- 一、整地法 水田稻作跡ヲ畦幅五尺ニ深耕シ土塊ヲ碎キ高サ六寸ノ角畦ヲ成形ス
- 一、移植及移植法 十二月上旬型ノ分離試験ハ二尺ノ互ノ目ニ一本植其他ノモノハ一尺五寸ノ互ノ目ニ一本植トス
- 一、肥料 反當施肥量左ノ如シ

肥料名	總 量	元 肥	第一回追肥	第二回追肥	窒 素	磷 素	熾 酸	加 里
堆肥	三〇〇〇				一、五〇〇	一、四〇〇	七、九〇〇	一、八九〇
大豆粕	二〇〇〇				一、四〇〇	一、四〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇
人糞	一四〇〇				一、四〇〇	一、四〇〇	一、八二〇	三、七七八
過燐酸石灰	一〇〇〇				一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二〇〇	一、一七〇
木灰	一〇〇〇				三、六八九	二、七八九	二、七六二	三、八三八
總 量					五	五	五	五

一、手 入 左ノ如シ

摘心 四月四五日頃主梗一尺五寸位ニ抽出シタル時摘心ヲ行フ

追肥 一月下旬 三月上旬ノ二回ニ分施ス

中耕 一月下旬中土入三月上旬肩上ケ三月下旬

目的 本場ノ土地ニ於テ最高ノ收量ヲ得ントスルニアリ  
反當施肥量左ノ如シ

肥料名	元 肥	第一回追肥	第二回追肥	總 量	窒 素	熾 酸	加 里
堆肥	三〇〇〇			三〇〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	七、九〇〇
大豆粕	二〇〇〇			二〇〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二、〇〇〇
人糞	一四〇〇			一四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、八二〇
過燐酸石灰	一〇〇〇			一〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二〇〇
木灰	一〇〇〇			一〇〇〇	三、六八九	二、七八九	二、七六二
總 量					五	五	五



右試作ノ結果反當二石三斗八升ノ收穫ヲ得タリ

二、莖臺型ノ分離試驗

目的 前年度ニ於テ選定シタル系統間ノ栽培價值ヲ比較シ最優良ノ系統ヲ決定スルニアリ

成績 第四年目

系統番號	開花期	成熟期	反當收量	標準ニ對スル收量歩合
標準(三三號三區平均)	四月四日	六月一日	一、二〇七	一〇〇、〇%
二	四月四日	六月一日	一、一六三	一〇〇、〇%
三	四月二日	六月一日	一、二二四	九六、九%
一	四月四日	六月二日	一、〇二〇	八七、九%
一	四月六日	五月二五	、六七五	五八、一%
二	四月八日	五、二八	、九三六	七三、四%
二	四月四日	六月一日	一、二一〇	九四、九%
二	四月四日	六月一日	一、一七七	九二、三%
三	四月四日	六月一日	一、〇二三	八〇、三%
四	四月四日	六月一日	一、一三八	八九、三%
四	四月四日	六月一日	一、三六六	一〇七、二%

乙種改良ニ關スル試驗  
第一、水 稻

一、純系淘汰試驗

在來水稻品種中本縣下ニ廣ク栽培セラレ優良ト認メタルモノニ就キ種子ヲ汎ク縣内農家ニ求メ純系淘汰ニヨ

リ最優良ナル純系統ヲ選出セントス而シテ本年作業ヲ示セバ次ノ如シ

品種	イ、第一年目	系統數
三井神力	イ、第一年目	一
品種	ロ、第二年目	系統數
手野神力	ロ、第二年目	二
永糯田	ロ、第二年目	八
太郎兵衛糯	ロ、第二年目	八
品種	ハ、第三年目	系統數
中生神力	ハ、第三年目	四
品種	ニ、第四年目	系統數
山北坊主	ニ、第四年目	二
穗隱神力	ニ、第四年目	八〇
品種	ホ、第五年目	系統數
西ノ宮	ホ、第五年目	八〇

系統番號	出穂期	成熟期	草丈	莖數	三年目反當收量	四年目反當收量	五年目反當收量	全上三ヶ年平均收量	全上標準ニ對スル收量歩合
標準(神力)	九月九日	十一月二日	三、二五	一六、七	二、七〇一	二、三四〇	二、六七〇	二、五七〇	一〇〇、〇%
八	九月九日	十一月二日	三、二九	一五、三	二、七五三	二、四三〇	二、八〇二	二、六六二	一〇三、六%
一	九月四日	十一月二日	三、三一	一四、九	二、七〇一	二、五六二	二、七四八	二、六七〇	一〇三、九%



右成績ニヨリ次ノ系統ヲ選抜セリ

系統番號

一二一〇

備考  
多收

## 二、特性調査

目的、各品種ノ特性ヲ調査シ以テ人工交配ノ資料トナシ且ツ從來ノ品種ヲ保存セントス。  
供試品種、水稻粳百六十六種、水稻糯四十四種、

## 三、各府縣原種比較

目的、各府縣ニ於ケル原種ヲ蒐集シ以テ本縣ニ適スル優良品種ヲ見出サントス。  
供試品種、水稻粳二十五種、

## 四、人工交配

目的 優良新品種ノ育成ニアリ。

イ、人工交配第一年

母父名、

母名 父名

(1)改良神力白一本

(2)改良神力宮崎二號

ロ、人工交配第二年

母父名及栽植株數

母名 父名

栽植株數

## 母父名及栽植系統數

旭一號	竹成一七四號	一、三五〇株
改良神力	晚白笹	一、五八〇
辨一〇四五	無芒愛國	九八〇
辨一〇四五	静岡愛國	一、一三〇
万作	愛國	七八〇
万作	静岡愛國	四二〇

## ハ、人工交配第三年

## 母父名及栽植系統數

早稻神力一號	白	父名	栽植系統數
大場	福岡晚稻五七號	玉	一四
大場	白	玉	一六
福岡晚稻五七號	晚白	笹	二九
福岡晚稻五七號	晚	千本	四九
辨一〇四五	福岡晚稻五七號	千本	三三
改良神力	晚	千本	四四

## 五、未固定新品種試驗

目的、人工交配第四年若シクハ五年ニ於テ元農商務省農事試驗場畿内支場ヨリ分譲ヲ受ケタルモノニシテ之レヲ本場ニ繼續栽培シ以テ優良系統ヲ選抜セントス。

母父名及栽植系統數。



晚四號	北	父名	北	部	五	栽植系統數
晚三號	大	父名	大	關	九	
晚三號	山	父名	山	田	一四	
晚三號	高野坊主神力新關取	父名	高野坊主神力新關取	玉	二	

六、新品種比較試驗

目的、本場ニ於テ人工交配ニヨリ育成セル新品種ノ優劣ヲ比較セントスルニアリ。  
 成績、供試品種ハ五十一品種ニシテ調査ノ結果優良ト認ムベキモノ二十一品種ヲ選抜セリ而シテ右二十一  
 品種中三ヶ年以上比較試驗ヲ行ヘル十六品種ノ成績ヲ示セバ次ノ如シ。

品種名	出穂期	成熟期	草丈(全長)	莖數	品支	米質	標準神力ニ對スル收量歩合			
							大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
標準 神力	九、一	二、三	三、四	一七、九	中ノ中	100%	100%	100%	100%	
信州金子穗増二號	八、三	二、八	三、五	一三、六	中ノ下	100%	100%	100%	100%	
信濃早生早神力八號	九、五	二、八	三、九	一九、六	中ノ上	100%	100%	100%	100%	
信濃早生早神力六號	九、六	二、八	二、八	二〇、〇	上ノ下	100%	100%	100%	100%	
雄町信州金子二四號	九、〇	二、三	三、五	一八、七	中ノ中	100%	100%	100%	100%	
福岡晚稻六十九號	九、〇	二、一	三、四	二〇、九	中ノ中	100%	100%	100%	100%	
福岡晚稻七十一號	九、二	二、二	三、二	一九、九	中ノ中	100%	100%	100%	100%	
福岡晚稻七十號	九、〇	二、一	三、〇	一九、六	中ノ中	100%	100%	100%	100%	
信州金子大場五一號	九、一	二、四	三、四	一五、三	中ノ中	100%	100%	100%	100%	
信州金子穀長都六號	八、三	二、八	三、五	一一、三	中ノ下	100%	100%	100%	100%	
雄町信州金子六二號	八、三	二、四	三、四	一八、〇	中ノ上	100%	100%	100%	100%	

雄町信州金子六五號	九、七	二、三	三、三	一九、〇	中ノ中	100%	100%	100%	100%
雄町信州金子六六號	九、九	二、〇	三、〇	一九、一	中ノ中	100%	100%	100%	100%
雄町信州金子六八號	九、二	二、〇	三、〇	一九、七	中ノ上	100%	100%	100%	100%
器量長辨天九四號	九、五	二、一	二、八	一九、九	中ノ下	100%	100%	100%	100%
器量長辨天九八號	九、三	二、〇	二、九	一九、七	中ノ上	100%	100%	100%	100%
器量長辨天一〇〇號	九、五	二、〇	二、九	一九、七	中ノ上	100%	100%	100%	100%

備考、右表中福岡晚稻六十九號ハ昨年度ニ於ケル福岡晚五十七號ノ二六ヲ福岡晚稻七十號ハ福岡晚五十七號ノ四一ヲ又福岡晚稻七十一號ハ福岡晚五十七號ノ三二ヲ夫々改稱セルモノナリ。

第一麥 一、純系淘汰試驗

在來種中本縣下ニ廣ク栽培セラレ且ツ有望ト認メラレタルモノニ就キ種子ヲ廣ク縣内農家ニ求メ純系淘汰法ニヨリ最優良ノ純系統ヲ選出スルニアリ

品種名	栽植系統
ゴールデンメロン	一五
品種名	栽植系統
神 力 八	四
膝 八	四
成績、膝入	



系統番號	出穂期 月日	成熟期 月日	草丈 尺	三年反當收量 目	四年反當收量 目	五年反當收量 目	全上三ヶ年平均 目	全上標準ニ對スル收量歩合 %
標準竹下(三區平均)	四、二六	六、二	三、〇八	一、八三六	一、八五六	一、八五九	一、八四九	100.00
四八	四、二五	五、三二	二、七八	一、六四五	一、九五五	一、八七五	一、八九二	九八、六九
六六	四、二五	五、三二	二、七六	一、六四五	一、九一三	一、九五五	一、八七五	101、八〇
六九	四、二四	五、三二	二、七二	一、六七七	二、〇〇七	一、八三六	一、九二二	101、〇七
九一	四、二四	五、三二	二、七三	一、八三三	二、〇一九	一、七四〇	一、八四五	101、二五

右ノ成績ニヨリ次ノ系統ヲ選抜セリ

系統番號

備考

六六

成績 神力 稈

多收

系統番號	出穂期 月日	成熟期 月日	草丈 尺	三年反當收量 目	四年反當收量 目	五年反當收量 目	全上三ヶ年平均 目	全上標準ニ對スル收量歩合 %
標準竹下(三區平均)	四、二七	六、三	三、二	一、九二九	一、六九二	一、八九〇	一、八七七	100.00
一一九	四、二六	六、一	二、七二	一、五八八	二、二四二	一、八九五	一九〇二	101、〇五
一二八	四、二六	六、一	二、七五	一、六六九	二、二二五	一、九三五	一九〇六	101、〇七
一四八	四、二四	六、一	二、八五	二、〇〇〇	二、二六五	一、八九五	二、〇六〇	111、一
一五〇	四、二四	六、一	二、八三	一、六五五	二、〇九五	一、八六〇	一、八六八	101、七

右成績ニヨリ次ノ系統ヲ選抜セリ

系統番號

備考

一四八

多收

二、特性調査

目的、各品種ノ特性ヲ調査シ以テ人工交配ノ資料トナシ且ツ從來ノ品種ヲ保存セントス。

供試品種、大麥貳拾九種、稈麥參拾七種、小麥五拾四種、

三、人工交配

目的、優良新品種ノ育成ニアリ。

イ、人工交配第一年

父母名。

母名 父名

大麥 三島、ゴールデンメロン

大麥 三月子、ゴールデンメロン

小麥 オーダー、三節

小麥 濠二號、三節

小麥 濠三〇號、三節

ロ、人工交配第二年

母父名及栽植株數。

母名 父名

小麥 早小麥、畿内銹シラズ

小麥 三節、江島神力

母父名及栽植系統數。

母名 父名

稈麥 膝八仁田稈

栽植系統數

六三



稈麥 竹下 仁田 稈

二、人工交配第四年

母父名及栽植系統數。

小麥 江島 三節

栽植系統數

一四九

五二

二六

### 四、新品種比較試驗

目的、本場ニ於テ人工交配ニヨリ育成セル小麥及稈麥新品種ノ優劣ヲ比較セントス。成績。供試品種ハ小麥貳拾七品種、稈麥九品種ニシテ就中三ヶ年間繼續試驗セルモノノ成績ヲ示セバ次ノ如シ。

品種名	出穂期	成熟期	草丈(全長)	作條一尺間數	子實	標準赤坊主ニ對スル收量歩合	
						大正十年	大正十一年
概準赤坊主	四月	六月	三八七	九八二	中ノ下	100.0%	100.0%
江島神力	四月	六月	三九三	一〇二	中ノ上	100.0%	100.0%
福福小麥二號	四月	六月	三九五	一〇二	中ノ上	100.0%	100.0%
福福小麥三號	四月	六月	三九五	一〇二	中ノ上	100.0%	100.0%
福福小麥四號	四月	六月	三九五	一〇二	中ノ上	100.0%	100.0%
福福小麥五號	四月	六月	三九五	一〇二	中ノ上	100.0%	100.0%
福福小麥六號	四月	六月	三九五	一〇二	中ノ上	100.0%	100.0%
福福小麥七號	四月	六月	三九五	一〇二	中ノ上	100.0%	100.0%
福福小麥八號	四月	六月	三九五	一〇二	中ノ上	100.0%	100.0%
福福小麥九號	四月	六月	三九五	一〇二	中ノ上	100.0%	100.0%

品種名	出穂期	成熟期	草丈(全長)	作條一尺間數	子實	大正十年	大正十一年	第一區	第二區
福岡小麥一〇號	四月	六月	三三二	一〇四	中ノ中	109.1	115.9	111.8	108.3
福岡小麥一一號	四月	六月	三三二	一〇四	中ノ中	109.1	115.9	111.8	108.3
福岡小麥一二號	四月	六月	三三二	一〇四	中ノ中	109.1	115.9	111.8	108.3
福岡小麥一三號	四月	六月	三三二	一〇四	中ノ中	109.1	115.9	111.8	108.3

### 第三、新品種委託試驗

一、水 稻

(大正十三年度)

試驗目的、本場育成新品種ノ各地ニ於ケル栽培價值ヲ知ラムトスルニアリ。試驗成績、(其一)

品種名	改良神力(標準)	神力四十一號	福岡晚稻二十八號	福岡晚稻三十七號	福岡晚稻三十八號	福岡晚稻五十五號
稻 屋 像	二、四七〇	二、四七〇	二、四七〇	二、四七〇	二、四七〇	二、四七〇
宗 賀	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇	二、八三〇
遠 賀	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇
鞍 手	二、四七〇	二、四七〇	二、四七〇	二、四七〇	二、四七〇	二、四七〇
嘉 穂	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇
朝 倉	二、八七〇	二、八七〇	二、八七〇	二、八七〇	二、八七〇	二、八七〇
筑 紫	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
早 良	三、〇四〇	三、〇四〇	三、〇四〇	三、〇四〇	三、〇四〇	三、〇四〇
系 島	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇
浮 羽	三、六五〇	三、六五〇	三、六五〇	三、六五〇	三、六五〇	三、六五〇







郡名	品名	赤坊主 (標準)		江島		早小		小麥		在來種	
		收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合
浮糸	羽井瀧女門池救川都上均場	1,920	98.4	1,890	98.4	1,920	100.0	1,890	98.4	1,890	98.4
三三	同上	1,590	102.5	1,630	102.5	1,580	99.4	1,580	99.4	1,580	99.4
八三	同上	1,710	101.4	1,780	104.1	1,780	100.0	1,780	100.0	1,780	100.0
山三	同上	1,440	95.1	1,350	93.8	1,490	103.4	1,490	103.4	1,490	103.4
企三	同上	1,660	99.1	1,650	99.4	1,620	98.8	1,620	98.8	1,620	98.8
京田	同上	1,600	101.9	1,650	103.1	1,500	96.7	1,500	96.7	1,500	96.7
築平	同上	1,300	97.4	1,470	113.1	1,500	100.0	1,500	100.0	1,500	100.0
本平	同上	1,740	103.3	1,750	103.4	1,690	99.4	1,690	99.4	1,690	99.4

(其二小麥)

郡名	品名	赤坊主 (標準)		江島		早小		小麥		在來種	
		收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合
浮糸	羽井瀧女門池救川都上均場	1,920	98.4	1,890	98.4	1,920	100.0	1,890	98.4	1,890	98.4
三三	同上	1,590	102.5	1,630	102.5	1,580	99.4	1,580	99.4	1,580	99.4
八三	同上	1,710	101.4	1,780	104.1	1,780	100.0	1,780	100.0	1,780	100.0
山三	同上	1,440	95.1	1,350	93.8	1,490	103.4	1,490	103.4	1,490	103.4
企三	同上	1,660	99.1	1,650	99.4	1,620	98.8	1,620	98.8	1,620	98.8
京田	同上	1,600	101.9	1,650	103.1	1,500	96.7	1,500	96.7	1,500	96.7
築平	同上	1,300	97.4	1,470	113.1	1,500	100.0	1,500	100.0	1,500	100.0
本平	同上	1,740	103.3	1,750	103.4	1,690	99.4	1,690	99.4	1,690	99.4

郡名	品名	赤坊主 (標準)		江島		早小		小麥		在來種	
		收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合
浮糸	羽井瀧女門池救川都上均場	1,920	98.4	1,890	98.4	1,920	100.0	1,890	98.4	1,890	98.4
三三	同上	1,590	102.5	1,630	102.5	1,580	99.4	1,580	99.4	1,580	99.4
八三	同上	1,710	101.4	1,780	104.1	1,780	100.0	1,780	100.0	1,780	100.0
山三	同上	1,440	95.1	1,350	93.8	1,490	103.4	1,490	103.4	1,490	103.4
企三	同上	1,660	99.1	1,650	99.4	1,620	98.8	1,620	98.8	1,620	98.8
京田	同上	1,600	101.9	1,650	103.1	1,500	96.7	1,500	96.7	1,500	96.7
築平	同上	1,300	97.4	1,470	113.1	1,500	100.0	1,500	100.0	1,500	100.0
本平	同上	1,740	103.3	1,750	103.4	1,690	99.4	1,690	99.4	1,690	99.4

三 薯 薯 (大正十二年度)

試驗目的、本場育成新品種ノ各地ニ於ケル栽培價值ヲ知ラムトスニアリ  
試驗成績

郡名	品名	在來種 (標準)		大朝鮮三十三號		大朝鮮三十六號		大朝鮮三號		大朝鮮十七號	
		收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合	收量	標準ニ對スル歩合
浮糸	羽井瀧女門池救川都上均場	1,920	98.4	1,890	98.4	1,920	100.0	1,890	98.4	1,890	98.4
三三	同上	1,590	102.5	1,630	102.5	1,580	99.4	1,580	99.4	1,580	99.4
八三	同上	1,710	101.4	1,780	104.1	1,780	100.0	1,780	100.0	1,780	100.0
山三	同上	1,440	95.1	1,350	93.8	1,490	103.4	1,490	103.4	1,490	103.4
企三	同上	1,660	99.1	1,650	99.4	1,620	98.8	1,620	98.8	1,620	98.8
京田	同上	1,600	101.9	1,650	103.1	1,500	96.7	1,500	96.7	1,500	96.7
築平	同上	1,300	97.4	1,470	113.1	1,500	100.0	1,500	100.0	1,500	100.0
本平	同上	1,740	103.3	1,750	103.4	1,690	99.4	1,690	99.4	1,690	99.4



淨羽井門池均場	三山	山門	三池	平均	本場
一、三五五	一、四〇〇	一、四〇五	一、四六五	一、四八二	一、四九〇
一、三三〇	一、三〇〇	一、三〇七	一、三〇七	一、三〇三	一、三〇〇
一、六一〇	一、五〇〇	九二、九	一、八六〇	一、二五二	一、三六二
一、四三三	一、七〇〇	一〇七、五	一、五四五	九六、〇	一、四九五
一、二二〇	一、五三三	一〇三、七	一、五三八	一〇五、二	一、三九四
			〇、八九二		一、二二四
					一、三九四
					九六、三
					一、四九五
					〇、九九〇
					一、二五〇
					〇、六七五
					八、一、九

丙、米麥原種圃

第一、水稻原種圃

原種作付反別、

- 一、改良神力五反四畝步。
- 一、改良雄町壹反貳畝步。
- 一、早神力貳畝步。
- 一、宮神力貳反九畝步。
- 一、大場都壹反壹畝步。

原種生産量、

- 嚴密ナル母本ノ選擇並ニ調製ノ結果左記ノ通り合計參拾貳石四斗四升ノ種子粃ヲ得タリ。
- 一、改良神力拾六石六斗
- 一、改良雄町參石四斗八升
- 一、早神力貳斗七升
- 一、宮神力八石九斗七升
- 一、大場都參石壹斗貳升

原種配付

郡農會採種圃用トシテ縣農會へ交付セシモノハ一升入ノ小袋トナシ總量參石八斗四升ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

- 一、改良神力 壹石七斗貳升
- 一、改良雄町 參斗五升
- 一、早神力 參升
- 一、宮神力 壹石七斗貳升
- 一、大場都 貳升

第二、麥原種圃

原種作付反別

- 一、稗麥、竹下參反六畝步
- 一、小麥、江島神力參反步
- 一、小麥白坊主、參畝步
- 一、稗麥浮羽白、八畝步
- 一、小麥、赤坊主、壹反壹畝步
- 一、大麥ゴールデンメロン壹反步
- 一、稗麥、三島參畝步
- 一、小麥、畿内銹シラズ七畝步

原種生産量

- 母本ノ選擇並ニ調製ノ結果左記ノ通り合計拾壹石貳斗貳升ノ種子ヲ得タリ其ノ内譯次ノ如シ。
- 一、稗麥竹下參石六斗
- 一、小麥江島神力參石貳斗
- 一、小麥白坊主貳斗八升
- 一、稗麥浮羽白七斗八升
- 一、小麥赤坊主壹石壹斗
- 一、大麥ゴールデンメロン壹石貳斗七升
- 一、稗麥三島貳斗
- 一、小麥畿内銹シラズ七斗九升

原種配付

- 郡農會採種圃用トシテ縣農會へ交付セルモノハ一袋一升入トシ總量四石參升ニシテ内譯左ノ如シ。
- 一、稗麥竹下壹石五斗四升
- 一、小麥赤坊主四斗七升
- 一、小麥白坊主參升
- 一、稗麥浮羽白壹斗貳升
- 一、小麥江島神力九斗七升
- 一、大麥ゴールデンメロン七斗
- 一、小麥畿内銹シラズ壹斗壹升
- 直接當業者其他ニ配付セルモノ七石壹斗九升



### 丁、綠肥ニ關スル試驗

第一、農商務省指定綠肥大豆改良増殖試驗

春作耕種梗概

撰種法 唐箕撰  
 撰種期 四月上旬  
 播種量 反當八升  
 播種法 麥ノ作條間ニ横雁岐ヲ切り條播ス  
 肥料 左記肥料ヲ使用シ全部元肥トス

肥料名 反當施用量

同 上 成分

堆肥	一〇〇、〇	窒素	〇、五八〇	磷酸	〇、三〇〇	加里	〇、五〇〇
木灰	一三、〇				〇、五七〇		〇、五二一
過磷酸石灰	四、一				〇、六〇〇		
計			〇、五八〇		一、四七〇		一、〇二一

收穫 六月下旬

夏作耕種梗概

撰種法 唐箕撰  
 撰種期 六尺ノ平畦ニ耕起シ一尺五寸距ニ横雁岐ヲ切ル  
 收穫 七月上旬

播種法 條間一尺五寸株間八寸トシ三粒宛播下シ發芽後間引キテ一本トス

肥料名 全部元肥

同 上 成分

肥料名	反當用量	窒素	磷酸	加里
木灰	一七、		〇、七五〇	二、〇〇〇
過磷酸石灰	五		〇、七五〇	二、〇〇〇
計			一、五〇〇	

管理 隨時除草中耕ヲ行フ

#### 一、品種比較試驗

目的 綠肥大豆ノ優良ナル品種ヲ撰擇スルニアリ

品種名	取寄先	刈取時草丈	反當生草量	標準ニ對スル生草收量歩合	成熟期	反當子實收量
黒千石三號	靜岡縣	二、一六	三二五	一四九、五	一、一、五	一、〇七〇
同 三號	同	一、六九	二八五	一三九、〇	一、一、五	〇、八九五
宮崎黒大豆	宮崎縣	二、〇七	一九七	九六、五	一、一、〇	〇、九五一
茶崎黒大豆	岐阜縣	一、七七	二六五	一三〇、五	一、一、〇	一、一八二
岐阜黒大豆	同	二、〇七	二五五	一三五、五	一、一、〇	〇、三九一
イサリ大豆	岡山縣	一、七〇	二二二	一二一、五	一、一、〇	一、二四〇
白大八輪	廣島縣	二、一七	一七〇	九二、五	一、一、〇	〇、七五〇
山椒大八輪	縣内	一、二一	二三五	一三七、〇	一、一、〇	一、三〇二
友枝秋大豆	同	一、九〇	二二〇	一二三、五	一、一、八	〇、七一三



千求秋大豆	同島縣	一、八一	一八五	一〇九、五	一一、二五	一、一一〇
英黑秋大豆	德島縣	一、八九	二三五	一三六、〇	一一、二五	〇、八九〇
鳥取黑大豆	鳥取縣	二、〇三	三二〇	二一七、〇	一一、〇〇	一、三六〇
美濃新切	三重縣	一、八七	二一五	一四五、五	一一、〇〇	一、三三〇
三井黑大豆	縣內三井郡	一、八一	一八七	一四六、〇	一一、二九	〇、八二〇
晚大	愛知縣	一、八〇	二〇七	一二八、〇	一一、一五	一、四四〇
標準黃色秋大豆	福岡縣	一、七〇	一八〇	一〇〇、〇	一一、二五	

摘要 右ノ成績ニ依レバ草態蔓性ノモノニアリテハ黑千石三號、茶千石、イザリ大豆、鳥取黑大豆等優良ニシテ草態直立性ノモノニアリテハ山椒秋大豆、友枝秋大豆、英黑秋大豆、美濃新切等ヲ優良ナリト認メタルモ尙繼續試驗ノ豫定ナリ

### 二、豫備品種比較試驗

目的 品種比較試驗ニ供スベキ綠肥大豆優良品種ノ豫備撰擇ヲ行フニアリ  
 成績 本年度ノ供試品種數ハ二十ニシテ有望ト認メタルモノハイザリ二號、宮永秋大豆、白猫、黃綠肥大豆等ナリ

### 三、純系分離

目的 純系分離ニ依リ綠肥用大豆ノ優良ナル系統ヲ得ントスルニアリ  
 供試品種 甲第一年目 いざり大豆 約九〇〇個体  
 乙第三年目 茶千石 三五系統  
 丙第四年目 青大豆 二〇系統  
 成績 第一年目ヨリ一〇〇系統、第三年目ヨリ十九系統、第四年目ヨリ七系統、夫レ々優良系統ノ撰擇ヲ行ヘリ

### 四、麥間作播種時期試驗

目的 麥間作青刈大豆ノ最適播種期ヲ決定セントス

播種時期	發芽	刈取時草丈	反當生草量
三月十一日	四月四日	一、六九尺	三九〇、〇貫
三月二十一日	四月一四日	一、六八尺	二七二、〇貫
三月三十一日	四月一五日	一、六七尺	三五七、〇貫
四月十日	四月一六日	一、六五尺	三六〇、〇貫
四月二十日	四月二二日	一、六四尺	三六一、五貫
四月三十日	五月二日	一、四六尺	三二四、〇貫
	五月八日	一、三七尺	二八〇、五貫

### 五、委託試驗

イ、麥間作試驗

目的 本場ニ於テ選拔セル優良品種ヲ麥間作トシテ委託栽培シ地方的栽培價值ヲ知ルト同時ニ本場綠肥試驗ノ參考ニ資セントス

試驗地	土質	播種時期	刈取時期	反當生草量
山門郡	埴質壤土	二月六日	五月二八日	一四三貫
朝倉郡	砂質壤土	二月六日、二月十三日	六月二日	一四三貫
			六月十五日	一四三貫
			六月三十日	一四三貫



八女郡	筑紫郡	糸島郡	鞍手郡	京都市	浮羽郡
壤質土	砂質壤土	同	同	同	同
一、二、三〇	一、二、二九	一、一、二一	一、一、二五	一、二、二五	一、二、二五
四、一、三三	四、一、三三	三、二、二九	三、二、二五	四、一、一五	四、一、八
五、二、二八	六、一、三	六、一、〇	六、一、〇	六、一、	六、一、
六、二、二五	六、二、〇	六、二、〇	六、二、七	六、二、二	六、二、二
一、一、四	一、一、三	一、一、三	二、五、一	六、一、	六、一、
一、〇、二	二、〇、四	二、〇、四	二、八、〇	二、八、〇	二、八、〇

目的 桑園間作トシテ青刈大豆ノ綠肥價值ヲ知ラントス

ロ、桑園間作試験  
成績

試驗地	土質	播種期	刈取期	反當生草收量
朝倉郡	粘質壤土	三月三日	七月八日	黄色秋大豆 二一六貫 黒千石三號 二二七貫
築上郡	赤粘質土	三月二十六日	七月十五日	黄色秋大豆 四三〇貫 黒千石三號 三〇五貫

摘要 右ノ成績ニ依レバ本試験地ノ如キ桑園ニ於テハ反當二百貫乃至四百貫ノ生草ヲ得ベシ。  
目的 茶園間作トシテ青刈大豆ノ綠肥價值ヲ知ラントス  
ハ、茶園間作試験  
成績

試驗地	土質	播種期	刈取期	反當生草收量
八女郡	赤粘質土	四月上旬	八月中旬	黄色秋大豆 二四〇貫 黒千石三號 二〇六貫

摘要 右ノ成績ニ依レバ本試験地ノ如キ茶園ニ於テハ大豆ヲ間作シテ反當二百貫乃至二百四十貫ノ生草ヲ得ベシ  
ニ、梨園間作試験  
目的 梨園間作トシテ青刈大豆ノ綠肥價值ヲ知ラントス  
成績

試驗地	土質	播種期	刈取期	反當生草收量
三井郡	砂質壤土	四月上旬	九月八日	黄色秋大豆 一、二六〇貫 黒千石三號 一、三八〇貫
宗像郡	粘質壤土	四月八日	七月二十三日	黄色秋大豆 二〇〇貫 黒千石三號 二五五貫

摘要 右ノ成績ニ依レバ本試験地ノ如キ梨園ニ於テハ大豆ヲ間作シテ反當二百五十貫乃至千三百貫ノ生草ヲ得ベシ。  
ホ、柑橘園間作試験  
目的 柑橘園間作トシテ青刈大豆ノ綠肥價值ヲ知ラントス  
成績

試驗地	土質	播種期	刈取期	反當生草收量
八女郡	粘質土	四月二十二日	八月十九日	黄色秋大豆 四〇〇貫 黒千石三號 四七〇貫
鞍手郡	赤粘質土	五月三日	八月二十五日	黄色秋大豆 六〇〇貫 黒千石三號 六五二貫

摘要 右ノ成績ニ依レバ本試験地ノ如キ柑橘園ニ於テハ大豆ヲ間作シテ反當四〇〇貫乃至六五〇貫ノ生草ヲ得ベシ。



## 成、改良農具

四〇

- 第一、改良農具ノ陳列及實演  
各種改良農具石油發動機自働耕耘機電動機等ヲ陳列シ且之レヲ實演シテ一般來觀者ニ觀覽セシム
- 第二、石油發動機取扱法傳習  
新ニ石油發動機ヲ購入セントスル者ニシテ豫メ其取扱法ヲ知ラント欲スル者ニ對シテハ其申出テニ應シ本場ニ於テ之ガ取扱方ヲ傳習セシム
- 第三、石油發動機講習會縣内四ヶ所ニ於テ開催セリ講習員ハ一ヶ所三四十名宛ニシテ教材タル石油發動機ハ本場備付ノモノ並ニ發動機製造會社若シクハ其販賣店ヨリ使用方ヲ委托サレタルモノ六臺ヲ搬出セリ
- 第四、農具購入斡旋  
一般當業者ノ申出ニヨリ之ガ購入ヲ斡旋セリ

## 園藝之部



# 園藝之部

甲、本場

第一、蔬菜

一、甘藍

イ 甘藍品種比較試験

目的 本試験ハ品種ノ優劣ヲ比較スルニアリ

品 種 名	收 穫 期		重 量	個 数
	始	終		
サクセツション (本場採種)	六月 四日	六月 二十日	一、二〇八	一、六八〇
中野 早生	五月 二十三日	六月 十三日	八七、八〇〇	二、〇八〇
野崎 早生	五月 二十三日	六月 十五日	九四、六〇〇	二、〇八〇

ロ 甘藍採種試験

目的 甘藍採種法ヲ實地ニ示スト共ニ優良種子ノ配付ヲナスニアリ  
播種期 七月二十日



定植 八月三十日(畦巾五尺、株間二尺、二條互ノ目植)  
 撰球 十二月二十三日結球良好ニシテ品質固有ノモノヲ撰別シ別圃ニ植替ヲナス(畦巾五尺、株間三尺、二條互植トス)  
 成切 二月二十六日植替タル母球ヲ十字形ニ庖丁ヲ以テ切開シ抽苔ニ使ナラシム

品種名	刈取	調製	反當收量
サクセツション(本場採種)	六月十九日	六月二十三日	六斗九升一合

種子配付 栽培面積ハ二畝十五歩ニシテ生産種子量一斗三升ハ各郡、市、農會ヲ經テ當業者ヘ配付ス

### 二、結球白菜

イ、品種比較試験

目的 本試験ハ左記品種ノ優劣ヲ比較スルニアリ

品種名	收穫期	收量(反當)
包頭蓮菜	十二月六日	一〇五六.〇〇〇貫
愛知白菜		一、一〇〇.〇〇〇貫
金州白菜		九四四.〇〇〇貫
芝菜		六五六.〇〇〇貫

ロ 直播對移植試験

目的 本試験ハ結球白菜栽培ニ當リ直播ト移植トハ收量ニ如何ナル關係アルヤヲ檢スルニアリ  
 供試品種 芝菜白菜

試驗區別	移植期	收穫期	收量(反當)
八月二十七日直播	九月五日	十二月十二日	一〇三三.〇〇〇貫
八月十五日鉢播	九月五日		一、五五〇.〇〇〇貫
八月十五日床播	九月五日		一、一五〇.一〇〇貫

### 三、菜類

イ 福岡白菜株間廣狹試験

目的 福岡白菜栽培ニ當リ株間ノ廣狹ハ收量ニ如何ナル關係アルカラ檢スルニアリ

區別	收穫期	重收量(反當)	株數
第一區株間四寸	十二月一日	一、五九〇.〇〇〇貫	一、七六〇株
第二區株間六寸		一、二一六.〇〇〇貫	二、〇一〇株
第三區株間八寸		一、〇六六.〇〇〇貫	二、七七〇株
第四區株間一尺		一、〇四〇.〇〇〇貫	三、一三〇株
第五區株間一尺二寸		九六六.〇〇〇貫	三、三三〇株



成目績

福岡白菜栽培ニ當リ採收時期ノ早晚ハ其ノ收量ニ如何ナル差異アルカヲ檢スルニアリ

福岡白菜收時期比較試驗

採收時期	重量	株數
十一月十五日採取	1,108.250 貫	2,350 株
十一月二十五日採取	1,301.840 貫	2,164 株
十二月五日採取	1,469.250 貫	2,163 株

ハ福岡白菜採種試驗

成目績

白菜採種法ヲ實地ニ示スト共ニ優良種子ノ配付ヲナスニアリ  
播種期 十月十三日

品種名	刈取	調製	反當收量
福岡白菜	五月二十七日	六月三日	七斗六升

種子配付

採種面積ハ一反二畝歩ニシテ生産種子量九斗一升ハ各郡市農會ヲ經テ當業者ヘ配付ス

四、茄

イ模範栽培

成目績

本栽培ハ茄ニ對スル栽培ノ模範ヲ示スニアリ

品種名	收穫期	重量	(反當) 個數
久留米長茄	七月十四日	1,011.000 貫	2,793 個
博多長茄	七月十四日	922.000 貫	2,320 個
東京山茄	七月三日	925.000 貫	2,520 個

五、南瓜

イ模範栽培

成目績

本栽培ハ南瓜ニ對スル栽培ノ模範ヲ示スニアリ

品種名	收穫期	重量	(反當) 個數
本場小南瓜	六月二十五日	523.000 貫	1,485 個
	八月九日		

ロ瓜瓜模範栽培

成目績

本栽培ハ系瓜ニ對スル栽培ノ模範ヲ示スニアリ



品名	收穫期		收穫量 (反當)	一株平均收穫量
	始	終		
糸南瓜	七月三日	八月二十二日	七、六〇〇 個	一、六七〇 個

四六

### 六、胡瓜

イ、模範栽培

成績的 本栽培ハ胡瓜ニ對スル栽培ノ模範ヲ示スニアリ

品名	收穫期		收穫量	(反當)
	始	終		
博多青大胡瓜	六月十五日	八月十八日	一、四三六、八〇〇 貫	二〇、五六〇 個
刈羽成胡瓜	六月十一日	八月十二日	三〇七、二〇〇	五、五三〇 個
促成用節成胡瓜	六月十三日	八月二十二日	七五五、二〇〇	八、六〇〇 個
落合胡瓜	六月十五日	八月二十二日	七九八、〇〇〇	九、八八〇 個
三枚目節成胡瓜	六月十五日	八月二十二日	六三〇、〇〇〇	一〇、五五〇 個

### 七、西瓜

イ、模範栽培

成績的 本栽培ハ西瓜ニ對スル栽培ノ模範ヲ示スニアリ

品名	收穫期		收穫量	(反當)
	始	終		
アイスクリムム	八月八日	八月十九日	六五、六三五 貫	六七五 個

### 八、葱頭

耕種梗概

播種期 十月上旬  
播種量 反當六合  
苗床及育苗法 大要甘藍ニ準ズ  
定植 一月上旬圃地ハ充分耕耨シ元肥ヲ施シ幅四尺五寸ノ高畦ニ整地シ六寸間隔ノ楕圓木トナシ一雁木  
八本植

反當施肥量

肥料名	總量	追肥					窒素	磷酸	加里
		第一回	第二回	第三回	第四回	第五回			
堆肥	100,000 貫					1,000 貫	0,500 貫	1,200 貫	
大豆	10,000 貫					1,700 貫	0,500 貫	0,500 貫	
過磷酸	10,000 貫						1,500 貫	0,500 貫	
木炭	10,000 貫						0,700 貫	0,500 貫	
人糞	100,000 貫	300,000 貫	500,000 貫	500,000 貫	650,000 貫	1,700 貫	3,300 貫	4,800 貫	
合計						4,400 貫	3,500 貫	7,700 貫	

四七



手入、中耕二三回追肥四五回トス  
イ、模範栽培

目的 本栽培ハ葱頭ニ對スル栽培ノ模範ヲ示スニアリ

品名	收量 (反當)		最大一球ノ高さ	太サ
	重量	個數		
本場採種扁圓黃葱頭	一、九四、八四〇 貫	三、四〇〇 個	一、三寸	二、五寸
				〇、二五 貫

ロ、採種試驗

目的 葱頭採種法ヲ實地ニ示スト共ニ優良種子ノ配付ヲナスニアリ、母球撰擇 黃葱葱ニシテ品質固有ノ性質ヲ有スル扁圓腰高ノモノヲ母球トナセリ  
植付 十月十一日畦巾四尺五寸ノ高畦ニ整地シ元肥ヲ施シ縱二條株間一尺ノ互目植トス

品名	刈取日	調製日	反當收量
エーローダンバース	七月廿九日	八月十八日	五斗五升六合二勺

九、葱

播種期 三月下旬

耕種梗概

種子配付 採種面積ハ四畝歩ニシテ生産種子二斗六升ハ各郡市農會ヲ經テ當業者へ配付ス

播種量 反當六合  
苗床及育苗法 大要葱頭ニ準ズ  
定植 七月上旬幅三尺ノ距離(排水良好ナル土地ニ於テハ二尺五寸)ヲ以テ東西ニ長ク深サ幅何レモ約八寸ノ植溝ヲ作り其溝底ヲ唐鍬ニテ打起シ元肥ヲ施シ長ク土ト混シ溝ノ北側ニ沿フテ四寸ノ間隔ヲ以テ一株二本宛植付タリ

反當施肥量

肥料名	總量	元肥	追肥				窒素	磷酸	加里
			第一回	第二回	第三回	第四回			
堆肥	四〇〇、〇〇〇 貫	四〇〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	二、〇〇〇 貫	一、〇〇〇 貫	二、五〇〇 貫	
大豆粕	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	二、〇〇〇 貫	一、〇〇〇 貫	〇、〇〇〇 貫	
人糞	一〇〇、〇〇〇 貫	五〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一、〇〇〇 貫	〇、二〇〇 貫	〇、五〇〇 貫	
米糠	四〇、〇〇〇 貫	四〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	〇、八〇〇 貫	一、五〇〇 貫	〇、五〇〇 貫	
木灰	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	一〇、〇〇〇 貫	六、〇七三 貫	三、八九二 貫	二、三三〇 貫	
合計									

手入 活着后十一月中旬頃迄ニ追肥土寄四五回行ヒタリ  
イ模範栽培

目的 本栽培ハ葱ニ對スル栽培ノ模範ヲ示スニアリ



品名	東京根深太一本葱	收穫期	十一月二十八日	收穫量	八九五、二〇〇 貫
----	----------	-----	---------	-----	-----------

五〇

目的 本栽培ハ蘿蔔ニ對スル栽培ノ模範ヲ示スニアリ

一〇、蘿蔔  
イ、模範栽培

品名	宮重大根	收穫期	十二月一日	收穫量	一、四八七、五〇〇 貫
				(反當)	七、〇〇〇 本

一一、里芋

耕種梗概

栽植期 四月中旬  
下種量 反當三十貫  
整地 幅四尺五寸ノ畦ニ整地シ中央ニ一條ノ麥ヲ播種シ置キ其兩側ニ二尺ノ株間ヲ以テ栽植ノ位置ヲ定メテ下種シ元肥ヲ施シ覆土ヲ行ヘリ  
反當施肥量

肥料名	總量	元肥	追肥	窒素	磷	酸	加里
			第一回 第二回 第三回				

堆肥	大豆糞	人糞	米糠	木灰	合計
200,000 貫	15,000 貫	100,000 貫	20,000 貫	10,000 貫	345,000 貫
200,000 貫	5,000 貫	20,000 貫	10,000 貫	100,000 貫	235,000 貫
					110,000 貫
					5,000 貫
					1,020 貫
					0,150 貫
					0,250 貫
					0,500 貫
					0,500 貫
					0,500 貫
					0,780 貫
					3,740 貫
					2,520 貫
					2,340 貫
					6,260 貫

手入 追肥土寄三四回トス  
イ、模範栽培  
目的 本栽培ハ里芋ニ對スル栽培ノ模範ヲ示スニアリ

品名	早生芋(其一)	早生芋(其二)	長崎芋	親芋	子芋	合計	草丈(平均)
	十月十三日			13,950 貫	3,010 貫	16,960 貫	二、五二 尺
				11,500 貫	2,910 貫	14,410 貫	三、〇一 尺
				10,000 貫	2,970 貫	12,970 貫	二、六八 尺
				13,300 貫	1,800 貫	15,100 貫	三、〇五 尺

第一果樹

一、葡萄硝子室栽培  
硝子室ニ於ケル葡萄ノ栽培法ヲ實地ニ示スヲ目的トシ「マスカット、オブ、アレキサンドリア」及「ブラックハンブルク」種ヲ栽培セリ  
二、柑橘依托試験







施肥量 反當施肥量左ノ如シ  
第一區完全肥料區

肥料名	第一區完全肥料區		第二區在來肥料區	
	反當收量	個數	反當收量	個數
大豆	二五,000	二,四二五	二五,000	二,四二五
骨粉	一五,000	一,五〇〇	一五,000	一,五〇〇
煙草	一八,000	〇,五六一	一八,000	〇,五六一
石灰	三〇,000	五,〇八七	三〇,000	五,〇八七
合計				
大豆	二五,000	二,四二五	二五,000	二,四二五
骨粉	一五,000	一,五〇〇	一五,000	一,五〇〇
煙草	一八,000	〇,五六一	一八,000	〇,五六一
石灰	三〇,000	五,〇八七	三〇,000	五,〇八七
合計				

成績

區別	第一區完全肥料		第二區在來肥料	
	反當收量	個數	反當收量	個數
大豆	三,八三三	一,四三三	三,八三三	一,四三三
骨粉	三,二七五	九四八	三,二七五	九四八
煙草	三,八三三	一,四三三	三,八三三	一,四三三
石灰	三,二七五	九四八	三,二七五	九四八
合計				
大豆	三,八三三	一,四三三	三,八三三	一,四三三
骨粉	三,二七五	九四八	三,二七五	九四八
煙草	三,八三三	一,四三三	三,八三三	一,四三三
石灰	三,二七五	九四八	三,二七五	九四八
合計				

其三

供試品種並ニ樹齡  
土質及地勢  
施肥量  
第一區完全肥料  
ワシントンネーヴルオレンジ 十一年生  
砂質壤土ニシテ東南ニ面セル緩傾斜地  
反當施肥量左ノ如シ

肥料名	第一區完全肥料		第二區在來肥料	
	反當收量	個數	反當收量	個數
大豆	二〇,000	一,五五〇	二〇,000	一,五五〇
骨粉	一〇,000	〇,三八〇	一〇,000	〇,三八〇
煙草	一五,000	一,一〇〇	一五,000	一,一〇〇
石灰	三〇,000	四,〇四〇	三〇,000	四,〇四〇
合計				
大豆	二〇,000	一,五五〇	二〇,000	一,五五〇
骨粉	一〇,000	〇,三八〇	一〇,000	〇,三八〇
煙草	一五,000	一,一〇〇	一五,000	一,一〇〇
石灰	三〇,000	四,〇四〇	三〇,000	四,〇四〇
合計				

成績

區別	第一區完全肥料		第二區在來肥料	
	反當收量	個數	反當收量	個數
大豆	二,〇〇八	五,〇〇〇	二,〇〇八	五,〇〇〇
骨粉	九七〇	二,二五〇	九七〇	二,二五〇
煙草	二,〇〇八	五,〇〇〇	二,〇〇八	五,〇〇〇
石灰	四,〇二二	一,四五五	四,〇二二	一,四五五
合計				
大豆	二,〇〇八	五,〇〇〇	二,〇〇八	五,〇〇〇
骨粉	九七〇	二,二五〇	九七〇	二,二五〇
煙草	二,〇〇八	五,〇〇〇	二,〇〇八	五,〇〇〇
石灰	四,〇二二	一,四五五	四,〇二二	一,四五五
合計				



目的 本試験ハ剪定法ノ精粗ハ其收量品質ニ如何ナル差異アルカヲ比較スルニアリ  
 設計 1、完全剪定區(下枝、懷枝、枯枝及徒長枝等ヲ剪除シ結果枝及結果種枝ヲ剪定スルモノ)  
 2、在來剪定區(徒長枝及枯枝ノ剪除ヲナスモノ)  
 3、無剪定區(全ク剪定ヲ行ハザルモノ)

供試品種並ニ樹齡 温州蜜柑 十三年生  
 成績

區別	反當收量		大		果小		果		病虫被害果	
	個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一區完全剪定	二六、八五六	三、三五一	一八、六六七	二、五三七	七、五〇七	六八七	六八二	九四九	九七〇	八七
第二區在來剪定	一七、〇五五	三、〇二〇	一三、六三〇	一、八八四	二、四八〇	一、〇六六	六八二	九四九	九七〇	八七
第三區無剪定	三二、九六〇	三、一五四	一三、九〇〇	一、五四五	一七、一〇〇	一、五三三	一、五三三	九六〇	九六〇	八七

其二

供試品種 温州蜜柑 十五年生  
 成績

區別	反當收量		大		果小		果		病虫被害果	
	個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一區完全剪定	三三、〇一四	三、七三三	二二、五三二	一、七〇八	三、三六三	一、九一五	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	九六
第二區在來剪定	三三、〇一四	三、五五五	八、三三五	一、三三七	二、三二五	二、一七六	二、一七六	一、五三四	一、五三四	一五二
第三區無剪定	三七、九五四	三、六九九	七、六五五	九六	二、四七五	二、五七七	二、五七七	一、八四四	一、八四四	一七五

其三

供試品種並ニ樹齡ワシントンネーブルオレンジ十八年生  
 肥料 各區共ニ左ノ如シ(反當)

肥料名	施肥量	空同		素上		酸成		加分	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
大 罌	二五、〇〇〇								
煙 骨	四〇、〇〇〇								
米 石	三三、〇〇〇								
合 計	三〇、〇〇〇								

成績

區別	反當收量		大		果小		果		病虫被害果		落果數	
	個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一區完全剪定	一一、六九五	三、四三六	七、九〇五	二、七二二	三、四三〇	六七五	二九五	二九五	三九五	三九五	一七六	六六
第二區在來剪定	一一、三三二	三、五五〇	七、八八五	二、二九五	五、一〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一七六	六六

三、落葉果樹經濟調查依託試驗  
 大正十三年度ヨリ筑紫郡席田村ニ於テ之レガ依託試驗ヲ開始セリ、  
 其一、梨樹栽培收支計算  
 樹齡十一年生  
 品種名 廿世紀



總收入金七百七拾七圓五拾貳錢五厘  
 總支出金四百參拾七圓九拾貳錢五厘  
 差引金參百四拾圓拾錢(益)

收入內譯

項	品	目	數	量	單	價	金	額	摘	要
合實果計	大玉(八十多平均) 中玉(六十多平均) 小玉及被害果	一、七五〇	斤	百斤	二四圓內外	四一、五〇〇	全	間屋手數量差引	全	
		一、三三五		一八圓內外	二四八、五〇〇					
		六五、四 三、五三、九		一三圓乃至五圓	四七、四七五 七七、五三五					

品 種 名 博多青  
 其二、梨樹栽培收支計算  
 樹齡十二年生  
 總收入金五百拾貳圓八拾錢  
 總支出金貳百五拾七圓

差引金貳百五拾五圓八拾錢(益)

收入內譯

項	肥	雜	勞	其	合
目	料	品	力	他	計
金額	費	費	費	計	計
一、二〇、一一〇	大豆粕、雜魚粕、蒸製骨粉、煙草灰				
七〇、六九〇	袋代五三、〇六五藥劑一七、六二五				
二〇一、一二五	施肥一三、六二五剪定一五、〇〇〇除草中耕一、五〇〇摘果八、五〇〇袋掛五一、〇〇〇病虫害驅除五〇、〇〇〇棚修理三、〇〇〇採收一三、五〇〇荷造販賣三五、五〇〇				
四五、〇〇〇	器具損料五、〇〇〇小作料一五、〇〇〇利子二〇、〇〇〇雜費五、〇〇〇				
四三七、四二五					

項	目	品	目	數	量	單	價	金	額	摘	要
合實果計	大玉(八十多平均) 中玉(六十多平均) 小玉及被害果	一、七五〇	斤	百斤	二六、〇〇〇	全	間屋手數量差引	全			
		一、四四〇		二、〇〇〇	一七三、八〇〇						
		一、一〇〇		六圓乃至四圓	六〇、〇〇〇 五二、八〇〇						

品 種 名 土用水蜜桃  
 其三、桃栽培收支計算  
 樹齡 七年生  
 總收入金貳百八拾九圓拾錢  
 總支出金百四拾圓拾錢  
 差引金百四拾九圓(益)

收入內譯

項	目	金額	摘	要
合其勞雜肥	計他費費費	五〇、八〇〇	大豆粕、過磷酸石灰、米糠	
		七九、七〇〇	袋代五四、五〇〇藥劑八、八〇〇棚材料一六、四〇〇	
		九一、五〇〇	施肥六、五〇〇剪定六、〇〇〇除草中耕六、〇〇〇摘果五、〇〇〇袋掛二六、〇〇〇病虫害驅除一二、五〇〇棚修理四、五〇〇採收八、五〇〇荷造販賣一三、五〇〇器具損料五、〇〇〇小作料一五、〇〇〇利子一〇、〇〇〇雜費五、〇〇〇	
二五七、〇〇〇				



項目	品目	數量	單價	金額	摘要
合計	果	大玉(五十匁平均) 中玉(三十匁平均) 小玉(二十匁平均)	個	二,〇〇〇 四,〇〇〇 四,〇〇〇	問屋手数料差引
	實	被害果	個	〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇	全
合計				二六,一〇〇	全

支出内譯

項目	金額	摘要
肥料	二五,一〇〇	米糠、過燐酸石灰木灰
雜品	二四,五〇〇	袋代二、五〇〇 藥劑二、〇〇〇
勞力	六〇,五〇〇	施肥五,〇〇〇 剪定三,〇〇〇 除草中耕七,〇〇〇 摘果七,〇〇〇 袋掛二〇,〇〇〇 病虫害驅除五,〇〇〇 採取七,〇〇〇 荷造販賣六,五〇〇
其他	三〇,〇〇〇	器具損料五,〇〇〇 小作料一五,〇〇〇 利子五,〇〇〇 雜費五,〇〇〇
合計	一四〇,一〇〇	

第三、花卉

花卉園藝ハ世人生活ト密接ナル關係ヲ有シ之レガ栽培ハ趣味トシテ又實利ヲ目的トシテ有望ナル事業ニシテ文化ノ向上ト共ニ花卉園藝ノ發達ヲ圖ルコトノ必要ナルハ論ヲ俟タザ處ナリ  
本場ニ於テハ栽培最モ容易ニシテ切花ニ適當ナル花卉ヲ栽培シ諸種ノ調査ヲ行ヒ斯業經營ノ參考ニ供スルト共ニ之レガ種苗ノ配布ヲナセリ。

乙、豐前園藝分場

第一蔬菜

一、甘藍

耕種梗概  
播種期 十月六日  
播種量 反當五匁  
育苗法 冷床巾四尺長適宜トシ元肥ヲ施シ能ク土ト混和シ上表ヲ平坦ナラシメ三寸五分ノ距離ヲ以テ條播シ發芽後ハ密生部ヲ間引キ本葉三枚ノ時一回假植ヲ行フ  
苗床坪當リ施肥量左ノ如シ  
堆肥半荷種油粕八十匁過燐酸石灰六十匁木灰百五十匁  
人糞尿一貫匁  
畦巾五尺ノ高畦トシ之ニ元肥ヲ施シ縱二條株間二尺トス

肥料名稱 總量 元肥  
堆肥 500,000 價  
大豆粕 10,000 價  
油粕 11,000 價  
米糠 100,000 價  
硫酸安母尼亞 50,000 價  
硫酸加里 5,110 價

肥料名稱	總量	元肥	追肥					窒素	磷	構成	酸	加	分
			一回	二回	三回	四回	五回						
堆肥	500,000	500,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大豆粕	10,000	10,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
油粕	11,000	11,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
米糠	100,000	100,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
硫酸安母尼亞	50,000	50,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
硫酸加里	5,110	5,110	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000



補肥中耕期

第一回補肥中耕 二月十七日  
 第二回補肥 三月四日  
 第三回補肥中耕 三月二十八日  
 第四回補肥 四月二十日  
 第五回補肥 五月六日

イ、甘藍硫黃華施用試験

目的 本試験ハ甘藍栽培ニ當リ硫黃華ヲ施用スルトキハ其品質收量ニ如何ナル影響アルヤヲ驗知セン

供試品種 サクセツシヨン  
 トスルニアリ

施用法 畦上ニ硫黃華ヲ撒布攪拌シ土壤ト混合シ後定植ス

試驗成績

試驗區名	收穫期	反當數	收量	平均	球ノ高	太サ	重	結球	品質
硫黃華無加用區	六月十一日	二、一〇九	八七、二七三	二、一三	四、二	四、二	三、九七	真	良
硫黃華三貫匁區	全	二、〇七	八四、八七六	二、一三	四、二	四、二	三、九七	真	良
硫黃華五貫匁區	全	二、一〇	九六、八四〇	二、一六	四、四	四、四	四、四九	全	全
硫黃華七貫匁區	全	二、一〇	八六、七七一	二、一八	四、七	四、七	四、五七	全	全

二、茄子

耕種梗概

播種期 二月十二日

床 低設温床ニシテ之ヲ設クル要領左ノ如シ

1 温床ハ混凝土温床ニシテ長サ十二尺巾五尺前高八寸後高一尺七寸側面ハ之ニ準ヌ被覆物ハ硝子障子四枚蕪蕪四枚トス

2 醸熱材料 稻藁五十貫米糠十貫水七荷  
 3 床土堆肥四分畑土五分砂一分  
 4 肥料油粕百匁過石六十匁木灰百五十匁ニシテ別ニ追肥トシテ油粕腐熟液ヲ稀薄シテ使用ス

播種法 食塩水ニ一晝夜浸漬シ二寸條播トス  
 發芽後ノ管理 發芽後ハ密生部ノ間引ヲ行ヒ本葉二枚ノ時一回假植ヲ行フ  
 整地 畦巾五尺ノ高畦ニ整地シ株間三尺縱二條互ノ目ヲ以テ栽植ノ位置ヲ定メ定植二週間前待肥ヲ行フ

定植期 五月七日  
 反當施肥量

中耕補肥

肥料名	總量	追肥					含有三成分		
		第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	窒素	磷	酸加里
堆肥	100,000				100,000				2,500
大豆油	20,000								0,500
種油	20,000								0,500
過石	20,000								0,500
石灰	18,000								1,500
木灰	18,000								1,500
人糞	200,000								1,000
計	400,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	6,500

第一回補肥 五月十九日  
 第二回補肥中耕 六月十日  
 第三回補肥 六月二十七日  
 第四回補肥中耕 七月十九日  
 第五回補肥 七月二十六日



イ、模範栽培試験  
 目的 本試験ハ茄子栽培ニ當リ經濟的模範栽培ヲ實地ニ示スニアリ

品名	採收	終期	個	株	平均	重量	反	當	收	量
博久留米	七月五日	八月十九日	三〇個	二個	〇、九七	三、一〇	三、一〇	個	一、二〇	三、〇〇
博多米	七月三日	八月十九日	三〇個	二個	〇、八七	三、四九	三、四九	個	一、二〇	三、〇〇

三、胡瓜

耕種 梗概

苗床及育苗法 大要茄子ニ準ス

播種期 二月二十六日

假植期 三月十二日、四月十四日

定植期 五月二日

反當施肥量

肥料名	總量	肥				含有				
		第一回	第二回	第三回	第四回	空	三	酸	成	
堆肥	200,000	100,000	100,000							
大豆	100,000									
油粕	100,000									
石	10,500									
灰	4,500									
尿	200,000	50,000	100,000	50,000	50,000	100,000	50,000	50,000	50,000	50,000

追肥並ニ中耕期

第一回追肥 五月十六日

第二回追肥 五月三十一日

第三回追肥 六月廿七日

第四回追肥 七月十日

イ、仕立法比較設験

目的 本試験ハ胡瓜栽培ニ當リ仕立法ノ優劣ヲ比較シ實用的整枝法ヲ査定セントスルニアリ

供品 博多青大胡瓜

試驗區別

第一區 簡易仕立 幅三尺畦 株間二尺 一本植 中央一條  
 第二區 可掌仕立 幅五尺畦 株間二尺 一本植 二條  
 第三區 葡伏仕立 幅五尺畦 株間四尺 二本植 中央一條  
 支柱建設様式 五月十九日

摘心法 第一區及第二區ニアリテハ本葉五六枚ノ時ニ四葉ヲ殘シ摘心上端二枝ヲ分岐セシメ伸長スルニ從ヒ誘引ス  
 第三區ハ本葉六七枚ノ時四葉ヲ殘シ摘心シ四枝ヲ分岐葡伏セシム

成績



試驗區別	反當栽植株數	採收期		平均一株結果量	反當數	反當收量	形狀
		始	終				
簡易立	一、八〇〇	六月七日	八月一日	七、六	一、二六五	二、三六〇	正
合掌立	二、一〇〇	六月二日	八月一日	六、八	一、八〇〇	二、三三〇	正
匍伏立	一、〇〇〇	六月七日	七月二十二日	四、三	一、四九四	一、七七八	不正

六六

〇、露菌病豫防藥劑效果比較試驗

目的 本試驗ハ胡瓜栽培ニ當リ露菌病豫防トシテ銅石鹼液及石灰ボルドー液ヲ使用シ其效果ヲ比較スルニアリ

仕立法 胡瓜仕立法試驗合掌仕立區ニ準ズ  
藥劑撒布回数並ニ期日

成績  
博多青大胡瓜

第一回	五月十七日	第二回	五月二十八日	第三回	六月九日
第四回	六月十八日	第五回	六月二十七日	第六回	七月五日

試驗區別	反當栽植株數	採收期		平均一株結果量	反當數	反當收量
		始	終			
三斗式石灰ボルドー液撒布區	二〇〇	六月七日	八月一日	五、五	二、一八〇	二、一七〇
八匁式銅石鹼液撒布區	三〇〇	六月七日	八月一日	五、八	二、〇六五	二、一七〇

府中胡瓜

試驗區別	反當栽植株數	採收期		平均一株結果量	反當數	反當收量
		始	終			
三斗式石灰ボルドー液撒布區	二〇〇	六月七日	八月一日	四、〇	一、四七〇	一、四七〇
八匁式銅石鹼液撒布區	三〇〇	六月十一日	八月一日	五、五	一、六七九	一、六八〇

四、南 瓜

耕種梗概

播種期 三月十九日

播種量 反當五合

假植期 四月四日 四月十五日

定植期 五月七日

整地並待肥 本圃ハ豫メ幅五尺ノ高畦ニ整地シ其兩側ニ縱ニ條ニ麥ヲ作付シ中央ニ株間四尺ヲ以テ栽植ノ位置ヲ定メ定植三週間前待肥ヲ行フ  
反當リ施肥量

肥料名	總量	元肥	追肥			窒素	含有三成分
			第一回	第二回	第三回		
堆肥	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇				一、八九〇	
大豆	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇				〇、七六〇	
油粕	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇				〇、一七〇	
過石	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇				一、〇五〇	
木灰	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇				一、〇五〇	
人糞	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇				一、一八〇	
計						四、〇〇〇	

六七



補肥中耕期 第一回補肥 五月二十七日 第二回補肥中耕 六月十六日 第三回補肥 七月九日  
 敷 藁 期 六月四日 六月二十八日

試驗目的 本試驗ハ南瓜ノ栽培ニ當リ經濟的模範栽培ヲ行フニアリ  
 成績

1、模範栽培試驗

品 種 名	採 收 期		一株當平均採收量	反 當 收 量
	始	終		
內藤南瓜	七月十一日	八月五日	三・三	一・七八
縮南瓜	全	全	三・八	二・〇五
早生小南瓜	全	全	五・二	二・八八
			一・〇五	五・六一〇〇

五、西 瓜

耕種梗概  
 播種期 四月二十二日  
 播種量 反當三合  
 播種法 直播トシ最後ニ一ヶ所一本トス  
 整地並待肥 本圃ハ豫メ幅八尺ノ畦ニ整地シ其兩側ニ縱ニ條ニ麥ヲ作付シ置キタル中央ニ株間五尺ヲ以テ栽植ノ位置ヲ定メ播種三週間前元肥ヲ施ス  
 反當施肥量

肥料名	總 量	元 肥	追 肥					含有三成分
			第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	
堆肥	200.000	200.000						1.890
油粕	17.500	17.500						0.860
米糠	8.600	8.600						0.390
木灰	5.000	5.000						0.240
人糞	1.650	1.650						0.720
合計	232.750	232.750						3.700

補肥中耕期 第一回補肥 五月八日 第二回補肥中耕 五月二十三日 第三回補肥中耕 六月十三日 第四回補肥 七月十日  
 敷 藁 期 六月十四日 七月十日

目的 本試驗ハ西瓜栽培ニ當リ左記品種ノ優劣ヲ比較スルニアリ  
 成績

1、品種比較試驗

品 種 名	形 狀	果 皮 色	肉 色	收 穫 期		反 當 收 量	一個平均重量
				始	終		
スイトサイベリアン	長楕圓	濃綠色	橙黃色	八月八日	八月十九日	六・三	一・八二
原西瓜	楕圓	暗綠色ノ地ニ綠 色雲紋狀	淡紅色	八月一日	八月十八日	五・〇	一・〇二
アイスクリム	圓	白	淡紅色	八月一日	八月十九日	三・四六	一・六六
高 更 内	圓	綠	紅色	八月八日	八月十九日	三・五九	一・五三六



### 六、甘 藷

耕種梗概

苗 床 幅五尺長サ十二尺前一尺後一尺八寸東西ハ之ニ準ジテ藁圍ヲ作製シ之ニ厩肥ヲ五寸厚ミニ踏込  
ミ肥土五寸ヲ入レ之ニ一尺平方ニ一個ノ割合ヲ以テ種藷ノ頭部ヲ北方ニ稍高ク横斜ニ伏セ込ミ  
古俵ノ如キモノヲ以テ防寒防露ノ爲メ覆ヒヲナス發芽後ハ被覆物ヲ除去シ二三回下肥ヲ施用ス  
種芋ハ頭部ヲ直徑五分内外ノ大サニ切斷シ木灰ヲ塗沫ス

種 芋 量 反當貳拾貫  
蒔 伏 期 三月十七日

整地並ニ播苗法 畦幅三尺ノ高畦トナシ之ニ縱二條一尺三寸ノ株間ヲ以テ船底植ノ變形ナル地方在來植ニシ  
テ苗ハ直取苗トス

插 苗 期 五月二十二日

蔓 返 期 七月四日 七月二十八日

八月二十五日

收 穫 期 十一月十二日

反當施肥量

肥料名	總量	元	含有成分		
			窒素	磷	鉀
堆肥	100,000貫	100,000	0.5%	0.5%	1.5%
米加里	62,500貫	62,500	1.0%	1.0%	1.0%
硫酸	10,000貫	10,000	1.0%	1.0%	1.0%
計	172,500貫	172,500	0.8%	0.8%	1.2%

試驗目的 本試驗ハ左記甘藷品種ノ收量並ニ品質ヲ驗セントスルニアリ  
成績

區 別	上 層		中 層		下 層		合 計
	個數	重 量	個數	重 量	個數	重 量	
ナシ	八五〇	七五、〇〇〇	二七〇	二七、〇〇〇	三〇〇	三〇、〇〇〇	一、四二〇
イ	一〇八〇	七九、〇〇〇	四九〇	四九、〇〇〇	六〇〇	六〇、〇〇〇	一、八七〇
ラ	一五〇〇	八五、〇〇〇	三七〇	三七、〇〇〇	五二〇	五二、〇〇〇	二、一四〇
マ	一五〇〇	八五、〇〇〇	三七〇	三七、〇〇〇	五二〇	五二、〇〇〇	二、一四〇

### 七、結 球 白 菜

耕種梗概  
播種期發芽期並ニ間引期

播種期	發芽期	試驗區別		
		品種比較試驗區	模範栽培試驗區	播種期比較試驗區
第一回	八月二十三日	八月二十八日	八月二十五日	九月五日
第二回	八月二十九日	八月三十一日	八月二十七日	九月八日
第三回	九月十六日	九月四日	八月三十日	九月十二日
第四回	九月二十二日	九月十六日	九月十六日	九月二十六日
間引期	十月二日	十月三日	九月二十二日	十月三日
			十月二日	十月十四日
				十月二十日

播種量 反當二合  
播種法 幅五尺ノ高畦ニ整地シ之ニ縱二條左記株間ヲ以テ互ノ目ニ點播ス



反當施肥量  
早生種一尺三寸  
晚生種一尺八寸

肥料名	總量	元肥	追肥					窒素	構成
			一回	二回	三回	四回	五回		
堆肥	300,000	300,000							
大豆	10,000	10,000							
油粕	15,000	15,000							
米糠	50,000	50,000							
石灰	10,100	10,100							
木灰	19,450	19,450							
硫酸	6,000	6,000							
人糞	100,000	50,000							
合計	600,000	500,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	

補肥中耕並結果期

補肥期	試驗區別	品種比較試驗區	模範試驗區	播種期比較試驗區		
				一區	二區	三區
第一回補肥期	九月二日	九月四日	九月二日	九月十七日	九月十七日	九月二十六日
第二回補肥中耕期	九月十七日	九月十七日	九月十七日	九月十七日	九月十七日	九月十七日
第三回補肥中耕期	十月二日	九月二十五日	十月二日	十月二日	十月二日	十月二日
第四回補肥期	十月二十一日	十月二十一日	十月二十一日	十月二十一日	十月二十一日	十月二十一日
第五回補肥期	十月二十九日	十一月八日	十一月八日	十一月八日	十一月八日	十一月八日
結果期	十一月八日	十一月十一日	十一月八日	十一月八日	十一月八日	十一月八日

イ、品種比較試驗

目的 本試験ハ各種結球白菜ノ特徴並ニ優劣ヲ比較スルニアリ  
成績

試驗區別	收穫期	反當收量	平均一株ノ太サ		大十株平均太サ	
			株數	重量	周圍	高さ
包頭蓮	十二月十五日	2200	148	0.87	180	0.92
茨城	十二月十五日	2400	150	0.85	185	0.90
直結球	十二月十五日	2200	148	0.87	180	0.92
山東	十二月十五日	2300	150	0.85	185	0.90
野崎一號	十二月十五日	2300	150	0.85	185	0.90
野崎二號	十二月十五日	2300	150	0.85	185	0.90
愛知	十二月十五日	2300	150	0.85	185	0.90

目的 本試験ハ結球白菜ノ模範栽培ヲ實地ニ示スニアリ  
成績

ロ、模範栽培試驗

品種名	收穫期	反當收量	平均一株ノ太サ		大十株平均太サ	
			株數	重量	周圍	高さ
山東結球白菜	十二月十五日	2200	148	0.87	180	0.92
包頭蓮白菜	十二月十五日	2400	150	0.85	185	0.90
直結球白菜	十二月十五日	2200	148	0.87	180	0.92

目的 本試験ハ結球白菜栽培ニ於テ播種期ノ早晚カ品質並ニ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知セン  
ハ、播種期比較試驗



トスルニアリ

供試品種 山東結球白菜

成績

試験區別	播種期	發芽期	收穫期	反當收量		平均一株ノ大サ		大十株平均大サ	
				株數	重量	重量	周圍高サ	重量	周圍高サ
八月二十五日播	九月五日播	九月十五日播	十二月十七日	二、八八〇	九、三〇〇	〇、三五	一、五六	四、九三	一、七六
九月五日播	九月十五日播	九月廿七日	十二月十七日	二、八八〇	九、三〇〇	〇、三三〇	一、四七	四、五六	一、七五
九月十五日播	九月廿一日	九月二十五日	一月十三日	二、八八〇	八、六、一〇〇	〇、二八三	一、二三	三、三三	一、五五

### 八、縮菜類

耕種梗概

試験區別	播種期	發芽期	間引期			補肥		中耕		補肥
			第一回	第二回	第三回	補肥	補肥中耕	補肥中耕		
模範栽培區	九月二日	九月五日	九月八日	九月二十日	十月九日	九月八日	九月十七日	十月九日	十月二十九日	
品種比較試驗區	九月十八日	九月廿一日	九月二十五日	十月二日	十月十日	九月廿七日	十月六日	十月十五日	十月二十九日	

播種量 反當四合

播種法 幅五尺ノ高畦ニ整地シ之ニ縱二條ノ條播トス

反當施肥量

肥料名	總量	元肥	追肥				三要素	成酸	加分
			第一回	第二回	第三回	第四回			
堆肥	100.000	100.000					1.000	0.510	1.510
大豆	33.860	33.860					1.240	0.130	1.370
米糠	30.000	30.000					0.210	1.100	1.310
石灰	8.000	8.000							1.000
木灰	8.000	8.000							1.000
人糞	300.000	300.000	50.000	50.000	50.000	50.000	50.000	50.000	2.000
計			50.000	50.000	50.000	50.000	1.760	1.290	2.000

### イ、模範栽培試験

目的 本試験ハ縮菜ノ模範栽培ヲ實地ニ示スニアリ

品種名	收穫期	反當收量		平均一株ノ大サ		大株十個平均大サ	
		株數	重量	重量	高サ	重量	高サ
長崎白菜	十一月二十六日	六七五〇	二、三九、〇〇〇	〇、一八八	一、尺	〇、四六八	一、五五
熊野白菜	十一月二十六日	六七五〇	二、三九、〇〇〇	〇、一八八	一、尺	〇、四六八	一、五五

### ロ、品種比較試験

目的 本試験ハ各種縮菜類ノ特徴並ニ優劣ヲ比較スルニアリ



品名	收穫期	株數	反當收量	平均一株ノ大サ		大株十個平均大サ
				重量	高さ	
縮緬白菜	十二月十日	七八〇〇	1101,100	0,154	105分	0,29
長崎白菜	十二月十日	八五五〇	1411,050	0,171	107分	0,20
福岡白菜	十二月十日	一一〇〇〇	1454,100	0,131	110分	0,29
熊野白菜	十二月十日	一一七〇〇	1281,700	0,101	101分	0,23
東郷白菜	十二月十日	九三〇〇	1050,900	0,113	115分	0,23

七六

九、蘿 蔔

耕種梗概

播種期 九月十六日  
 播種量 反當五合  
 整地 幅五尺ノ高畦トシ之ニ縱二條ノ雁木ヲ設ケテ條播ス  
 反當施肥量

肥料名	總量	元肥	追肥				三要素	成酸	加分
			一回	二回	三回	四回			
堆肥	100,000	100,000							
大油粕	15,000	15,000							
米糠	11,800	6,800							
石灰	30,000	30,000							
木灰	3,300	1,350							
下計	200,000	200,000	60,000	60,000	60,000	70,000	5,000	1,710	

間引期 第一回九月二十二日 第二回十月三日 第三回十月十三日  
 補肥中耕期 第一回補肥九月二十六日 第二回補肥中耕、十月三日 第三回補肥中耕十月十四日 第四回補肥十月二十七日  
 目的 本試驗ハ蘿蔔ノ模範栽培ヲ實地ニ示スニアリ  
 成績

品名	收穫期	反當收量		平均一本ノ大サ		大十本平均大サ
		本數	重量	重量	高さ	
美濃早生	十二月二十日	6,000	1,666,000	0,271	1,08	3,55
堀江	十二月二十日	6,000	1,633,100	0,253	1,05	3,50
改良澤庵	十二月二十日	6,000	1,577,100	0,261	1,02	3,07

七七



農藝化學之部

Table of contents or index page with faint text and a table structure.



# 農藝化學之部

## 第一、肥料委託試驗

沖積土施肥改良試驗

目的 縣内主要河川ニ由來スル沖積土ニ於ケル三要素並ニ主要窒素肥料ノ肥効ヲ試驗セント欲シ大正十一年度ヨリ三潞郡田口村ニ於テ水稻ニ對スル框試驗ヲ開始セリ

一、三要素試驗 (第三回)

試驗區別	一 框 稻 重 量	一 框 葉 重 量	三ヶ年 平均 稻 重 量
完全肥料	五六三、八	七六二、九	六五九、七
無窒素	四〇三、六	四七七、八	四九四、七
無磷	五二五、三	七二四、三	六二八、九
無加里	五六九、三	七一五、四	六五五、三
無肥料	三九五、〇	四三八、七	四六〇、二

右成績ニヨレバ本土壤ニ對シテハ窒素質肥料ハ最モ効果大ニシテ磷酸質之ニ次ギ加里質ハ肥効少ナキガ如シ

試驗成績左ノ如シ

二、主素窒素質肥料肥効試驗

(第三回)

試驗區別	一 框 稻 重 量	一 框 葉 重 量	三ヶ年 平均 稻 重 量
硫酸安母尼亞	五四二、一	七四八、二	六三七、五
大豆粕	六二五、五	八〇三、〇	六七九、二



菜種油	五七七、六	七八二、〇	六六九、八
紫雲英	六〇八、三	八二九、〇	六七八、二
菜種油	五五〇、七	六六二、八	六一九、四

右成績ニヨレバ大豆粕ハ收量最モ多ク且ツ經濟的ニシテ鯨搾粕及菜種油粕ハ肥効大ナレドモ經濟的ナラズ

### 第二、肥料試驗

本場内ニ於テ木框、土管及圃場ヲ以テ各種肥料試驗ヲ行フ

#### 一、木框試驗

三尺平方無底木框ヲ圃場ニ埋設シ木框三個ヲ以テ一區トナス

#### イ、石灰窒素肥効試驗 (第十六回)

目的 石灰窒素ヲ連用シ其肥効ヲ試驗セン爲メ明治四十二年以來繼續ス  
大正十三年水稻作

試驗區別	一 框 稻 重 量	一 框 麥 重 量	一 框 薯 重 量
石灰窒素 〔過磷酸〕 加石里	三九四、八	四一三、三	四二二、二
石灰窒素 〔過磷酸〕 加曹里	四一一、四	三九二、八	三九二、八
石灰窒素 〔過磷酸〕 加曹里	四〇四、三	四四〇、八	四四〇、八
石灰窒素 〔過磷酸〕 加曹里	三五七、六	三五七、六	三九〇、〇

右成績ニヨレバ石灰窒素ハ硫酸安母尼亞ニ比シテ肥効伯仲シ經濟上却ツテ有利ナルカ如シ  
ロ、窒素質肥料連用試驗 (第十六回)

目的 主要窒素質肥料ノ連用ガ水稻作及地力ニ及ボス影響ヲ檢知セントシ明治四十二年以來繼續ス  
大正十三年度水稻作

試驗區別	一 框 稻 重 量	一 框 麥 重 量	十四ヶ年平均 一 框 稻 重 量
無肥	一四六、八	一三五、三	一〇一、六
紫雲英	二八五、〇	二八五、九	三〇二、一
硫酸安母尼亞	三六七、二	四〇一、二	三二七、六
鯨搾粕	三三五、二	三八九、一	三三六、六
蠶豆	三四九、八	三五八、〇	三二五、四
大豆	三七〇、六	四〇四、九	三三五、九
大豆粕	三八七、三	四一〇、一	三五四、八

右成績ニヨレバ大豆粕區最モ優良ニシテ紫雲英區特ニ不良ヲ示ス硫酸安母尼亞區ハ土壤ノ酸度漸次増加シ收量漸減ノ傾向アリ

#### ハ、窒素質肥料麥作肥効試驗 (第二回)

目的 本場畑地ニ於テ主要窒素質肥料ノ麥作ニ對スル肥効ヲ査定セントス  
肥料 三要素ハ反當各三貫トス

硫酸安母尼亞ハ全量ノ三分ノ二ヲ元肥、三分ノ一ヲ追肥トシ智利硝石ハ全量ノ三分ノ一ヲ元肥、三分ノ二ヲ追肥トシテ二回ニ分施ス、其他ノ肥料ハ全部元肥トシ共通肥料トシテ過磷酸石灰及硫酸加里ヲ用ユ

試驗成績左ノ如シ

試驗區別	一 框 種 實 重 量	一 框 桿 重 量	二ヶ年平均 一 框 種 實 重 量
無窒素	一三二、二	一一一、一	一一九、三



大豆	三三八、八	三三九、六	三〇九、六
智利硝石	四〇八、一	四〇四、二	三四六、八
硫酸安母尼亞	三七九、〇	三二五、〇	三四八、八

右成績ニヨレバ智利硝石及硫酸安母尼亞相似シ大豆粕ハ肥効劣ル

ニ、石灰連用試験 (第十六回)

目的 永年ニ渉ル石灰ノ連用ガ水稻作及地力ニ及ボス影響ヲ檢知セントシ明治四十二年以來繼續ス  
大正十三年度水稻作

試驗區別	一 概 穀 重 量	一 概 葉 重 量	十六ヶ年平均 一 概 穀 重 量
無石	三〇四、〇	三〇九、二	二六四、四
石灰反當二十五貫	三五一、八	三三六、八	三〇二、五
全 五十貫	三四〇、八	三一四、二	三〇五、七
全 百貫	三五八、七	三三二、三	三〇二、五
全 二百貫	二二三、二	二二六、三	二三四、八
全 三百貫	二一〇、七	二一九、二	一四七、五

右成績ニヨレバ二十五貫區、五十貫區、百貫區ハ收量略同ジク無石灰區ニ比シ何レモ優レニ百貫區、三百貫區ハ成績遙カニ劣レリ

二、土管試驗

内徑二尺深サ三尺ノ無底土管ヲ圃場ニ埋設シ木框試驗ト同一方法ニ依リ試驗ヲ行フ

イ、磷酸質肥料連用試験 (第十六回)

目的 主要磷酸質肥料ノ連用ガ水稻作及地力ニ及ボス影響ヲ檢知セントシ明治四十二年以來繼續ス  
大正十三年度水稻作

試驗區別	一 土 管 穀 重 量	一 土 管 葉 重 量	十五ヶ年平均 一 土 管 穀 重 量
無磷	一五〇、六	一六〇、二	一三五、五
米糠	一六二、〇	一六三、七	一五九、九
骨粉	一六一、九	一七六、五	一四三、六
磷酸曹達	一五四、五	一七六、三	一三三、九
過磷酸石灰	一三五、一	一四五、一	一二七、四

右成績ニヨレバ本場土壤ニ於テハ有機質磷酸肥料ハ無機質磷酸肥料ニ比シ常ニ肥効大ナリ、過磷酸石灰區ノ成績不良ナルハ酸度ノ増加ト有機質ノ減少トニ起因スルガ如シ

ロ、加里肥料肥効試験 (第六回)

目的 諸種加里質肥料ノ肥効ヲ檢知セントシ大正八年以來繼續ス  
大正十三年度水稻作

試驗區別	一 土 管 穀 重 量	一 土 管 葉 重 量	六ヶ年平均 一 土 管 穀 重 量
無加里	一二八、六	一二七、四	一一一、二
化學用硫酸加里	一三七、二	一五一、三	一四八、六
肥料用硫酸加里	一五四、七	一六七、〇	一五二、七
木灰	一五七、三	一六五、八	一四八、一
糞灰	一七二、一	一九四、四	一四八、一
全印加里肥料(煙草灰)	一六三、七	一七七、九	一五四、二

右成績ニヨレバ葉灰區、煙草灰區ハ收量最モ多ク無加里區最モ劣レリ

ハ、諸種磷酸質肥料肥効試験 (第四回)

目的 諸種磷酸質肥料ノ水稻ニ對スル肥効ヲ査定セントシ大正十年ヨリ着手セリ



大正十三年度水稻作

試験區別	一土管糶重量	一土管葉重量	四ヶ年平均一土管糶重量
無磷	一四九、一	一七六、九	一五六、〇
米糠	一五〇、三	一六六、〇	一六四、二
麥糠	一八六、八	一八二、〇	一六四、七
過磷酸石灰	一五一、六	一七二、二	一五〇、三
磷酸アルミナ	一六三、八	一九五、一	一六〇、〇
アンモニア	一七四、九	二〇五、二	一五五、九

右成績ニヨレバ本場土壤ニ於テハ糠類ノ收量最モ多ク過磷酸石灰ハ成績遙カニ劣レリ

ニ、鶏糞肥効試験 (第一回)

目的 本場土壤ヲ以テ水稻ニ對スル鶏糞ノ肥料の價値並ニ施用法ヲ試験セントス  
 三要素量 三要素反當ニ貫五百匁宛ノ割トシ標準區ハ大豆粕、過磷酸石灰、木灰ヲ用ヒ鶏糞使用ノ三區ハ鶏糞ヲ以テ窒素二貫五百匁ヲ供給シ外ニ堆肥、木灰ヲ配合ス  
 肥料ハ元肥ニ施用ス但シ大豆粕ノミハ半量元肥、半量追肥トス  
 大正十三年度水稻作

試験區別	一土管糶重量	一土管葉重量	一土管糶重量
標準	一五七、五	一七四、九	一三四、〇
生糞	一〇四、五	一四〇、八	九四、三
乾糞	一二〇、五	一四二、〇	一二四、三
生糞ヲ堆肥ト共ニ醗酵セシメテ施用	一一一、五	一四一、二	一一六、一

右成績ニヨレバ鶏糞ハ乾燥シテ貯藏シ置キ使用スル方肥効最モ大ナルガ如シ、尙試験ヲ重ネテ報告セントス

ホ、ザイトウキツケン施用法試験 (第二回)

目的 綠肥「ザイトウキツケン」ノ施用法如何ガ水稻ニ對スル肥料の價値ヲ異ニスルヤヲ檢知セントス  
 ザイトウキツケンハ反當生草四百匁ノ割ヲ以テ乾草トシテ施用ス  
 大正十三年度水稻作

試験區別	一土管糶重量	一土管葉重量	二ヶ年平均一土管糶重量
挿秧一週間前施用	一三六、〇	一四四、九	一三四、二
全上石灰加用	一二九、二	一四〇、八	一三二、二
元肥トシ挿秧一日前施用	一三三、三	一四五、四	一三三、九
全上石灰加用	一四二、四	一四三、〇	一三五、五
半量元肥トシテ施用	一二五、五	一四四、八	一二一、五
半量追肥トシテ施用	一三六、四	一三〇、〇	一二五、八
全上石灰加用	一四二、一	一四八、九	一三一、二
追肥トシテ施用	一三三、三	一四一、二	一三五、七
全上石灰加用			

右成績ニヨレバ本年度ハ第四區、第七區ノ收量最モ多シ、一般ニ石灰加用區ハ無加用區ニ比シ成績良好ナリ

ヘ、大豆粕施用法試験 (第二回)

目的 大豆粕ノ施用法ヲ異ニスルコトニヨリ水稻ニ對スル肥効如何ヲ檢知セントス  
 大正十三年度水稻作

試験區別	一土管糶重量	一土管葉重量	二ヶ年平均一土管糶重量
大豆粕元肥施用	一四八、〇	一四〇、一	一二七、二
半量元肥施用	一三四、六	一二三、二	一三〇、〇



全	追肥施用	一二六、九	一〇八、八	一〇九、三
全	腐熟堆肥ト混和シ二週間 醗酵セシメテ元肥ニ施用	一二八、一	一三二、五	一〇八、五
全	水ニ浸シテ二週間醗酵セ シメテ元肥ニ施用	一一一、三	一一四、九	一〇四、七

右成績ニヨレバ本年度ハ元肥施用區最モ收量多ク豫メ醗酵セシメタルモノハ何レモ成績不良ヲ示ス

### 三、「ボット」試験

「ワグネル氏ボット」(一反歩ノ二萬分ノ一)ヲ用ヒテ栽培試験ヲナシ何レモ「ボット」三個ヲ以テ一試験區トナス

#### イ、促肥素加用試験 (第二回)

目的 本場土壤ヲ以テ水稻及稗麥ニ對スル促肥素(膠質珪酸マグネシウム)ノ肥効如何ヲ檢知セントス  
本試験ハ同一土壤ヲ以テ大正十二年度水稻ヨリ開始シ冬作ニ稗麥ヲ栽培シ試験ヲ繼續ス  
大正十三年度水稻作

試驗區別	一ボット種實重量	一ボット莖稈重量	二ヶ年平均一ボット種實重量
標準(促肥素無加用)	二六、八瓦	三三、八瓦	三〇、四瓦
促肥素元肥加用	二五、七	三七、三	二八、〇
全量追肥加用	三一、六	三二、〇	三二、七
半量追肥加用	三〇、八	二九、五	三二、四
全量追肥加用	二八、九	三三、三	三二、五
全量追肥加用	二四、四	二九、三	三〇、五

但シ促肥素ハ「ボット」ニ對シテ〇・五瓦宛使用セリ

右成績ニヨレバ促肥素ヲ加用セルモノハ標準區ニ對シ幾分收量多シ而シテ移植當初ノ生育ハ加用區ノモノ標準ニ比シテ稍ヤ迅速ナリシヲ認メタリ  
大正十三年度稗麥作

試驗區別	一ボット種實重量	一ボット莖稈重量	二ヶ年平均一ボット種實重量
標準(促肥素無加用)	二四、八瓦	一九、五瓦	二四、〇瓦
促肥素元肥加用	二二、〇	一八、三	二一、三
全量追肥加用	二二、〇	一八、〇	二〇、三
半量追肥加用	二五、一	一八、〇	二二、三
全量追肥加用	二五、五	一八、六	二一、二
全量追肥加用	二二、三	一七、七	一九、八

右成績ニヨレバ結果區々ニシテ顯著ナル肥効ヲ認メ難シ

#### ロ、「フォスフワゾット」肥料窒素肥効試験 (第一回)

目的 本場土壤ニ於テ米麥作ニ對スル新肥料「フォスフワゾット」ノ窒素ノ肥料の價値ヲ試驗セントス  
肥料 三要素反當各三貫宛ノ割ニテ窒素ハ硫酸安母尼亞及大豆粕ト比較シ共通肥料トシテ磷酸曹達及炭酸加里ヲ用フ  
大正十三年度水稻作

試驗區別	一ボット種實重量	一ボット莖稈重量	一ボット葉重量
硫酸安母尼亞	二〇、三瓦	一一、七	三四、四瓦
大豆粕	二三、七	一一、〇	三〇、九
フォスフワゾット其儘施用	二〇、〇	一一、七	二九、一
フォスフワゾット分解後施用	二一、七	一一、七	二九、四



大正十三年度麥作

試驗區別	一ポット種實重量	一ポット莖稈重量
硫酸安母尼亞 大豆粕 フオスフワゾート	二八、八 二四、九 二五、四	二二、三 二〇、三 二一、四

右成績ニヨレバ「フオスフワゾート」ハ硫酸安母尼亞ニ比シテ水稻ニ於テ相伯仲シ麥ニ於テ稍ヤ劣ルヲ見タリ  
尙試驗ヲ重テ報告セントス

ハ、「フオスフワゾート」肥料磷酸肥効試驗 (第一回)

目的 本場土壤ニ於テ米麥作ニ對スル新肥料「フオスフワゾート」ノ磷酸ノ肥料の價值ヲ檢知セントス  
肥料 三要素ハ反當各三貫宛ノ割ヲ以テ磷酸ハ過磷酸石灰ト比較シ共通肥料トシテ硫酸安母尼亞及炭酸加里ヲ用ユ

大正十三年度水稻作

試驗區別	一ポット種實重量	一ポット莖稈重量
過磷酸石灰 フオスフワゾート	一七、三 一九、三	三四、六 三一、二

大正十三年度麥作

試驗區別	一ポット種實重量	一ポット莖稈重量
過磷酸石灰 フオスフワゾート	二六、一 二一、〇	一九、〇 二〇、六

右成績ニヨレバ「フオスフワゾート」ハ過磷酸石灰ニ比シテ水稻ニ於テ幾分優麥ニ於テ劣ルヲ見タリ、尙繼續  
試驗セントス

四、圃場試驗

イ、硫酸加里肥効試驗 (第六回)

目的 本場水田土壤ニ於テ米麥作ニ對スル硫酸加里ノ肥効ヲ査定セントス  
大正十二年度麥作

成績 (反當收量)

試驗區別	種實容量	一升重量	五ヶ年平均種實容量
無加里 完全肥料	石 〇、九七三 一、〇四一		石 一、〇五五 一、一五六

大正十三年度水稻作

成績 (反當收量)

試驗區別	玄米容量	一升重量	六ヶ年平均玄米容量
無加里 完全肥料	石 二、五四四 二、五九二		石 二、三四九 二、四六四

右成績ニヨレバ米麥作共ニ平均反當一斗余ノ增收ヲ示ス

ロ、過磷酸石灰肥効試驗 (第六回)

目的 本場水田土壤ニ於テ米麥作ニ對スル過磷酸石灰ノ肥効ヲ査定セントス



大正十二年度麥作

成績 (反當收量)

試驗區別	種實容量	一升重量	五ヶ年平均種實容量
完全肥料	〇、八九五 一、〇二六	三六六、〇 三六二、七	一、〇八六 一、一二五
無機質肥料	〇、九〇八 一、三三九	三六三 三六三	一、三五六 一、四九六

大正十三年度水稻作

成績 (反當收量)

試驗區別	玄米容量	一升重量	六ヶ年平均玄米容量
完全肥料	二、七四一 二、二八三	四〇〇 四〇二	二、三六二 二、四四四
無機質肥料	二、七四一 二、二八三	四〇〇 四〇二	二、三六二 二、四四四

右成績ニヨレバ過磷酸石灰加用ニヨリ米作ニ於テ平均八升、麥作ニ於テ平均四升ノ增收ヲ示シ本場土壤ニ對シテハ過磷酸石灰ノ効果大ナラズ

ハ、有機質及無機質肥料連用試驗 (第八回)

目的 本場水田土壤ニ於テ米麥作ニ對シ有機質及無機質肥料ヲ連用シ其肥効ヲ比較考查シ且ツ永年ニ涉リテ地力ニ及ボス影響ヲ試驗セントス

大正十二年度麥作

成績 (反當收量)

試驗區別	種實容量	一升重量	七ヶ年平均種實容量
完全肥料	〇、九〇八 一、三三九	三六三 三六三	一、三五六 一、四九六
無機質肥料	〇、九〇八 一、三三九	三六三 三六三	一、三五六 一、四九六

大正十三年度水稻作

成績 (反當收量)

試驗區別	玄米容量	一升重量	八ヶ年平均玄米容量
完全肥料	二、七四一 二、二八三	三九七 四〇三	二、七八二 二、六九〇
無機質肥料	二、七四一 二、二八三	三九七 四〇三	二、七八二 二、六九〇

右成績ニヨレバ水稻ニ對シテハ有機質肥料收量多ク麥作ニ對シテハ無機質肥料ノ方優良ナル結果ヲ示ス

第三、研究分析

一、有機性窒素質肥料分解速度比較試驗

目的 有機性窒素質肥料が水田狀態ニ於テ腐敗シ其窒素ガ「アンモニア」態ニ變化スル遲速ヲ比較シ且ツ溶液反應ノ變化狀態ヲ知ラントス

供試肥料 鯨搾粕、大豆粕、菜種油粕、米糠、醬油粕、蒸製骨粉、紫雲英(乾燥態)

試驗方法 梗概供試肥料ノ分析成績ニ基キ各窒素ニ〇瓦ニ相當スル重量ヲ夫々「ワグネル氏ポット」ニ容レ一定量ノ蒸溜水ヲ滿シ「ポット」ハ半バ土中ニ埋メ木蓋ヲ以テ之ヲ覆ヒ揮發成分ノ蒸發及雨水ノ浸入ヲ防ギ時々攪拌シテ五日間毎ニ溶液一定量宛ヲ採取シテ濾過シ化成セル「アンモニア」性窒素ヲ分析定量セリ、但シ分析ニ供セル溶液及蒸發量ハ其都度補給シテ「ポット」内ノ溶液量ヲ一定ナラシメ置ケリ



試驗成績左表ノ如シ

(一) 各肥料窒素分解速度並分解百分率

調査月日	試驗區別	窒素分解速度 (%)	分解百分率 (%)
七月十七日 試驗着手	練搾粕	二〇、二	二〇、二
全、二十一	大豆粕	二、九	二、九
全、二十六	菜種油粕	三、〇	三、〇
全、三十一	米	五、九	五、九
全、八月	糠	八、九	八、九
全、八月	醬油粕	一〇、〇	一〇、〇
全、八月	蒸製骨粉	一〇、一	一〇、一
全、八月	紫雲英	一〇、八	一〇、八
全、八月	練搾粕	四、七	四、七
全、八月	大豆粕	三、四	三、四
全、八月	菜種油粕	三、四	三、四
全、八月	米	一、〇	一、〇
全、八月	糠	一、一	一、一
全、八月	醬油粕	一、二	一、二
全、八月	蒸製骨粉	一、三	一、三
全、八月	紫雲英	一、四	一、四
全、八月	練搾粕	四、七	四、七
全、八月	大豆粕	三、四	三、四
全、八月	菜種油粕	三、四	三、四
全、八月	米	一、〇	一、〇
全、八月	糠	一、一	一、一
全、八月	醬油粕	一、二	一、二
全、八月	蒸製骨粉	一、三	一、三
全、八月	紫雲英	一、四	一、四
全、八月	練搾粕	四、七	四、七
全、八月	大豆粕	三、四	三、四
全、八月	菜種油粕	三、四	三、四
全、八月	米	一、〇	一、〇
全、八月	糠	一、一	一、一
全、八月	醬油粕	一、二	一、二
全、八月	蒸製骨粉	一、三	一、三
全、八月	紫雲英	一、四	一、四

(二) 各肥料溶液反應

調査月日	試驗區別	溶液反應
七月十七日 試驗着手	練搾粕	中性
全、二十一	大豆粕	強酸性
全、二十六	菜種油粕	中酸性
全、三十一	米	中酸性
全、八月	糠	中酸性
全、八月	醬油粕	中酸性
全、八月	蒸製骨粉	中酸性
全、八月	紫雲英	中酸性
全、八月	練搾粕	弱酸性
全、八月	大豆粕	弱酸性
全、八月	菜種油粕	弱酸性
全、八月	米	弱酸性
全、八月	糠	弱酸性
全、八月	醬油粕	弱酸性
全、八月	蒸製骨粉	弱酸性
全、八月	紫雲英	弱酸性
全、八月	練搾粕	弱酸性
全、八月	大豆粕	弱酸性
全、八月	菜種油粕	弱酸性
全、八月	米	弱酸性
全、八月	糠	弱酸性
全、八月	醬油粕	弱酸性
全、八月	蒸製骨粉	弱酸性
全、八月	紫雲英	弱酸性

右比較成績ニヨレバ骨粉、練搾粕等ハ最モ分解速カニシテ大豆粕ハ十日間以後ニ於テ急激ニ分解進ミ約一ヶ月ニシテ大半ノ分解ヲ終リ菜種油粕、米糠等之ニ次ギ醬油粕、紫雲英等最モ分解遅シ而シテ溶液ノ反應ハ分解程度ノ進ムニ從ヒ酸性ヨリ塩基性ニ變スベク其變化ノ速度ハ大凡分解速度ニ比例セルガ如シ

二、過磷酸石灰還元作用試驗  
目的 過磷酸石灰ヲ灰類ト混和シ置ク場合ニ其水溶性磷酸ガ還元セラレテ不溶性ニ變化スル程度ヲ試驗セントス

試驗方法 過磷酸石灰一定量ニ對シ其十割或ハ五割量ノ木灰或ハ藁灰ヲ混和シ一ハ乾燥態、他ハ濕潤態ニ放置シテ一定時日ヲ經テ分析ニヨリ其水溶性磷酸量ヲ定量シ以テ還元割合ヲ算出ス



試驗成績左表ノ如シ

(一) 木灰ヲ混和セシ場合

試驗區別	水溶性磷酸量 混和始メ	水溶性磷酸量 混和終リ	還元量	還元割合
過燐酸石灰 (標準)	一六、三三〇%	一六、三三〇%	—	—
木灰十割對乾燥態 (十五日置)	全	〇、五八六八	一五、七四二	九六、四〇%
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
木灰五割對乾燥態 (全)	全	〇、二八〇六	一六、〇五〇	九八、二八
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
木灰十割對乾燥態 (三十日置)	全	〇、四四六五	一五、八四五	九七、二六
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
木灰五割對乾燥態 (全)	全	〇、三三一一	一六、二〇九八	九九、二五
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
木灰十割對乾燥態 (全)	全	一、三三一一	一五、〇九九	九二、四六
全 濕潤態 (全)	全	〇、〇六五〇	一五、七五〇	九六、二八

(二) 藁灰ヲ混和セシ場合

試驗區別	水溶性磷酸量 混和始メ	水溶性磷酸量 混和終リ	還元量	還元割合
過燐酸石灰 (標準)	一六、三三〇%	一六、三三〇%	—	—
藁灰十割對乾燥態 (三十日置)	全	九、二八八	七、〇四九	四三、一六%
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
藁灰五割對乾燥態 (全)	全	五、八三七〇	一〇、四四四	六四、二六
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
藁灰十割對乾燥態 (六十日置)	全	一三、二四九八	三、〇八二	二八、八七
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
藁灰五割對乾燥態 (全)	全	一、一七五七〇	七、五七四〇	二八、〇八
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
藁灰十割對乾燥態 (全)	全	八、八四一七	七、四八九三	四五、八六
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
藁灰五割對乾燥態 (全)	全	一五、二四三四	三、〇八七六	一八、九〇
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
藁灰十割對乾燥態 (全)	全	五、三三〇	一一、〇一四	六七、四一
全 濕潤態 (全)	全	—	—	—
藁灰五割對乾燥態 (全)	全	二、二七五二	四、〇五九	二八、二〇

右分析成績ニヨレバ過燐酸石灰ニ木灰ヲ混和セシ場合ニハ水溶性磷酸ハ短時日間ニ殆ンド全部還元セラレ藁灰ヲ混和セシ場合ニハ二ヶ月間ニ其六割餘還元セラレシヲ知ル、亦乾燥態ニ比シ濕潤態ニ於テ何レモ還元割合ヲ増スガ如シ

第四、依頼及場用分析



# 畜 産 之 部

一、依 頼 分 析  
 本年度ニ於テ一般ヨリノ依頼ニ應ジタル分析物件數左ノ如シ

合 灌 炭 肥 土	件 數	分 析 成 分 數
溉 坑		
計 水 水 料 壤		
	四 九	一 二 三 四 一
		一 二 〇 二 二 七 三 九

二、場 用 分 析  
 本場試驗研究ノ目的ヲ以テセル分析物件數左ノ如シ

合 米 綠 肥 土	件 數	分 析 成 分 數
計 肥 料 壤		
	一 二 〇	一 四 六
	一 六 四	三 九
	二 一	六 四
	三 四	一 〇
	二 〇	二 〇



# 畜産之部

## 第一 豚

優良系統ニ屬スル「パークシャー」及中「ヨークシャー」種ヲ飼養シ之レガ普及ヲ圖ランガタメ仔豚ハ生後二ヶ月育成シテ學校、農事團體又ハ一般當業者ニ種豚トシテ有償配付ヲ行ヒ又當業者ニ對シテハ無料ニテ種付ノ請求ニ應ゼリ

飼養、管理

飼料 種豚並ニ仔豚ニ對スル一日一頭當リ飼料配合量左ノ如シ

種別	米糠	醬油粕	穀	大豆粕	魚屑、骨粉、青菜
成 豚	一二合	七〇〇匁	一合	一匁	若 干
授乳母豚	一五	五〇〇	一〇	一〇〇	全
二ヶ月仔豚	四	二〇	二、	一〇、	全

右ノ飼料ニ米ノ磨汁ヲ多量加ヘ毎日成豚ハ三回授乳母豚、仔豚ハ四回ニ分與ス而シテ仔豚ハ生後三、四週間目頃ヨリ漸次飼料ニ慣ラシム

管 理、種牡豚ハ一坪半、牝豚ハ一坪ノ室ニ一頭宛收容シ晴天ニシテ温暖ナル日ハ務メテ舍外ニ出シ肥滿セザル様運動ヲ促ス而シテ冬期ハ舍内ニ乾燥セル稻藁ヲ毎日敷キ一週間乃至十日毎ニ取リ換ユ夏期ハ全ク藁ヲ敷カズシテ毎日一回掃除ヲ行フ豚體ノ手入トシテハ毎日刷毛ヲ擦ツテ膚垢ヲ取リ毛ヲ梳リ時ニハ水ヲ洗ツテ皮毛ヲ清潔ニス尙寒中ハ寒風ノ浸入セザル様豚舍ノ周圍ハ藁ヲ張リテ温暖ニシ夏ハ窓ヲ全部開放シテ清涼ナラシム

一、種豚血統  
パークシャー種



名 號	性	生 年 月	産 地	血 統
第一はやて號	牝	大正九年十二月	立川養豚場	父パロン號 母さくら號
第二さくら號	牝	大五九年十月	全	父イングラント號 母かき號
タイセイ號	牝	大正九年七月	濱名郡畜産組合	父ニータカ號 母レッドハーリー號
メリー號	牝	大正十年八月	全	父魁號 母玉椿號
第二八四號	牝	大正十三年三月	畜産試験場九州支場	父第九號 母第四メリアン
第二七八號	牝	大正十三年三月	全	父コバルト號 母ベツカー號

ヨークシャー種

名 號	性	生 年 月	産 地
大分號	牝	大正十一年二月	畜産試験場九州支場
フサミ號	牝	大正十一年四月	全
ベフ號	牝	全	全

二、種豚配付及種付回数

種豚配付數 四十三頭  
種付回数 十三頭

第二家 禽

農家ノ副業トシテ最モ適切ナル養鶏ノ普及ヲ圖リ且ツ鶏種改良ノ目的ヲ以テ實用ニ適スル品種ヲ選擇飼養シ  
學校、農事團體其他一般當業者ニ種禽種卵ノ配付ヲ行ヘリ

飼養、管理

イ、種禽飼料

練餌—米糠二、穀二、麥糠二、芽才二、玄粟二、魚粉一日一羽ニ付二匁青菜若干  
粒餌—小麥二、大麥二、

備考

- 一、大麥、小麥ハ前夜ヨリ浸積セルモノヲ夕餌トシ練餌ハ朝晝ノ二回ニ給與ス
- 一、飲料水ハ毎日清水ヲ鉢ニ容レテ隨時與フ
- 一、貝殻及石片ハ別器ニ盛り自由ニ啄食セシム尙時ニ仍リ木炭末ヲ飼料ニ混和スルコトアリ
- 一、冬期ニ於テハ大麥ヲ粃ニ換ユルコトアリ
- 一、夏期ニ於テハ練餌中米糠ヲ減シ穀ヲ増加ス

ロ、種禽管理

種禽ハ各種共雄一羽ニ對シ雌六羽乃至七羽ヲ配シテ一區劃間口一間、奥行一間半ノ鶏舎ニ收容シ晴天ニシテ風ナキ時ハ各區共三坪ノ運動場ニ出シテ運動ヲ促ス運動場ニハ桃樹、桐樹ヲ植エテ夏期日光ノ直射ヲ避ケ鶏舎及運動場ハ毎日一回掃除シテ清潔ニ勉メ、砂浴場ノ土ハ二、三日毎ニ取換ヘ又ハ打起シテ砂浴ニ便ナラシム而シテ砂浴場内ニハ石灰七、硫黃華三ノ割合ニテ混シタルモノヲ撒布シ、羽虱ノ發生ヲ防グ尙鶏舎及運動場ハ病害發生ノ豫防トシテ春秋ノ二回ニ「クレオリン」ノ五十倍液ヲ噴霧器ニテ消毒ヲ行フ

其他棲木、器具類ハ時々日光消毒或ハ洗滌ヲ行ヒ清潔ニス

夏期ハ舍内ヲ清涼ナラシムルタメ窓ヲ開放シ冬期ニ於テハ窓ヲ閉ヂ或ハ賊風ノ侵入ヲ防グタメ隙間ニハ紙ヲ張り防寒ノ設備ヲ行フ又夏期、冬期ニ於テ青菜ノ不足ヲ補フタメニハ常ニ鶏用搔葉大根、山東菜等ヲ栽培シテ充分給與ス



ハ、雛鶏飼料

餌付ヨリ三日間 玄米小米四、穀二、卵黃十羽ニ付一個青菜、貝殻若干  
 其 後 四週間 玄米小米三、穀三、魚粉一、青菜、貝殻若干尙煮沸セル玄粟ヲ夕餌ニ給與ス  
 其 後一ヶ月間 玄米小米三、穀三、魚粉一、青菜、貝殻若干尙夕餌トシテ煮沸セル玄粟、浸積セ  
 ル小麦ヲ給與ス  
 其 後一ヶ月間 玄米小米二、穀二、米糠二、魚粉一、青菜、貝殻若干、其他夕餌トシテ玄粟、小  
 麥ヲ給與ス

備考

- 一、粒餌ハ充分水ニ浸シテ用フ
- 一、生後一ヶ月以内飼ヲ用フル場合ハ煮沸シテ叩キ碎キタルモノヲ用フ
- 一、魚粉ハ田作り屑、又ハ鱈ノ粕ヲ用フ
- 一、餌付後ノ稚雛ニ對シテハ一時ニ多食セザル様注意シ一週間後ハ一回ノ分量ヲ増シ飽食セシム
- 一、毎夕雛ノ嚔嚔ヲ檢シテ滿腹セザルモノアル時ハ之レヲ隔離シテ充分粒餌ヲ啄食セシム
- 一、木炭末、砂粒ハ別器ニ客レ隨時與フ
- 一、飲料水ハ清水ヲ始メヨリ與フ

ニ、雛鶏管理

生後三週間乃至四週間ハ晝夜共假母器内ニテ育成シ其後一ヶ月間ハ土間ニ下シ晴天ニシテ風ナキ時  
 ハ舍外運動場ニ放テテ漸次日光浴ヲナサシメ夜ハ糶糠ヲ多量敷キタル石油箱内ニ就寢セシム而シテ  
 生後二ヶ月ニシテ鶏舎ニ放養シ夜ノミ敷島穴箱大ノ箱ニ就寢セシメ生後八十日乃至百日ニ至レバ棲  
 木ニ就カシム、假母器内又ハ室内ハ毎日奇麗ニ掃除シ、糶糠、切藁等ヲ撒布シテ運動ヲ促スト共ニ

清潔、乾燥ヲ圖ル

就寢温度ハ生後一週間マデハ平均九十度、二週間目ハ八十八度、三週間目ハ八十六度、其後ハ八十  
 四度内外トス本年度使用セシ假母器左ノ如シ

高橋式(給温育) 二臺  
 當場式(全) 二臺

ホ、孵化概要

1、人工孵化

器内温度―入卵後一週間華氏百〇二度以後百〇三度  
 回 轉―入卵後一週間ハ一日二回二週間目三回三週間目四回  
 放 冷―高温ノ場合ヲ除ク外放冷ナシ  
 濕 氣―入卵當時ヨリ水盤ヲ備ヘ乾燥ニ失スル場合ハ卵ニ霧吹き又ハ室内ニ水ヲ撒布ス  
 換 氣―換氣口ハ入卵後一週間ハ全部閉テ雛ノ發育スルニ從ヒ漸次開放ス但シ夏期ニ於テハ始メ  
 ヨリ全部開放ス

檢 卵―入卵後六日目ト十五日ノ二回ニ檢卵ス  
 温 源―石油ランプ  
 本年度使用セシ孵卵器左ノ如シ

高 橋 式	(三百五十卵入)	一 臺
サイフアー式	(百四十卵入)	一 臺
伴 田 式	(百二十卵入)	一 臺

2、母鶏孵化

抱卵數―一抱ニ付十五個宛



飼料—母鶏ハ毎日一回巢箱ヨリ出シ一羽ニ付玄米四勺水四勺ノ割合ニテ混合シ給與ス給與時間ハ春期ニ於テ二十分間  
害虫驅除—羽虱、ワグモ等ノ發生甚シキ場合ハ除虫菊粉ニ仍リテ驅除ヲ行フ  
一、種禽ノ品種並ニ其飼養數

右ノ内本年度購入ノモノ左ノ如シ

種名	種別	雄	雌	計	購入先
白色レガホーン	種	三羽	二羽	五羽	名古屋
黒色ミノルカ	種	一羽	一羽	二羽	名古屋
三河種	種	一羽	一羽	二羽	名古屋
横斑プリマスロツク	種	一羽	一羽	二羽	名古屋
名古屋種	種	一羽	一羽	二羽	名古屋
白色レガホーン	種	一羽	一羽	二羽	大分

二、種禽、種卵ノ配付

種禽	配付數	配付箇所
種禽	二八四、羽	八〇
種卵	三〇九、個	二八六

三、孵化成績

本年度使用ノ孵卵器及母鶏孵化成績左ノ如シ

孵卵器母鶏名	入卵月日	入卵數	無精卵	中死卵	死籠卵	孵化數	孵化歩合
高橋式	三月十七日	三〇〇	五二	四六	一三八	一九四	六五%
伴田式	九月一日	一一〇	二一	一一	一三	七三	六一%
全サイフアー式	十月十六日	一一六	一五	一一	一六	八四	七一%
全名古屋種母鶏	四月四日	一三五	一四	一一	一五	九四	七一%
全名古屋種母鶏	九月十日	一三七	一七	一八	一〇	九五	七一%
全名古屋種母鶏	二月二十六日	一四五	二二	一八	一一	九三	六六%
全名古屋種母鶏	五月一日	一四五	二二	一八	一一	九三	六六%
全名古屋種母鶏	六月一日	一三〇	二四	一二	一一	七八	八四%
全名古屋種母鶏	六月一日	一三〇	二四	一二	一一	七八	八四%

四、試験調査事項

イ、鶏種試験

本年度ニ於ケル一羽當リ平均産卵數左ノ如シ

月名	種類				名古屋種
	白色レガホーン	三河種	黒シノルカ	横斑プリマス	
四月	三三八	一八八	二二〇	一六八	一六八
五月	一八三	二二六	二二〇	九〇	一三三
六月	一〇七	二六八	一八六	七〇	一五四
七月	一七二	一〇〇	二四二	九三	二一八



年	月	計	一日平均卵量	繁殖性	體重	
					雄	雌(平均)
八	月	一四、六	一五、八	無	五七、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	四七、 <sup>五</sup> / <sub>五</sub>
九	月	一〇、〇	一〇、〇	無	六〇、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	四一、 <sup>六</sup> / <sub>六</sub>
十	月	二、八	四、〇	一羽繁殖	四七、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	三八、 <sup>六</sup> / <sub>六</sub>
十一	月	一、八	一、〇	稍多	七三、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	四七、 <sup>八</sup> / <sub>八</sub>
十二	月	一、五	四、二	無	八三、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	七〇、 <sup>八</sup> / <sub>三</sub>
一	月	四、八	六、二	稍多	七〇、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	五九、 <sup>三</sup> / <sub>三</sub>
二	月	一三、五	一三、五	無	八三、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	七〇、 <sup>八</sup> / <sub>三</sub>
三	月	一九、三	二一、六	稍多	七〇、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	五九、 <sup>三</sup> / <sub>三</sub>
計		一四〇、八	一三二、四	無	八三、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	七〇、 <sup>八</sup> / <sub>三</sub>
四	月	一三、五	一三、五	無	八三、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	七〇、 <sup>八</sup> / <sub>三</sub>
五	月	一五、八	一五、八	無	八三、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	七〇、 <sup>八</sup> / <sub>三</sub>
六	月	二一、一	二一、一	無	八三、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	七〇、 <sup>八</sup> / <sub>三</sub>
七	月	一八	一八	無	八三、 <sup>〇</sup> / <sub>〇</sub>	七〇、 <sup>八</sup> / <sub>三</sub>

ロ、産卵能率増進試験

目的 本試験ハ白色レグホーン、名古屋種ノ二種ニ付産卵能率ノ優レタル多産鶏ヲ選出セントスルニア

方法

1 供試 鶏數

白色レグホーン雌

十羽

名古屋種雌

六羽

2 産卵調査方法

各雌ノ脚ニハアルミニウム製レグバンドヲ附シ試験鶏舎ニハ各トラツブネストヲ設備シ各個體ノ産卵ヲ調査セリ

試験成績

白色レグホーン

月	番	名	號
七	月	一八	一〇一號
六	月	二一	一〇二號
五	月	二五	一〇三號
四	月	一五	一〇四號
			一〇五號
			一〇六號
			一〇八號
			一一一號
			五號
			一五〇號



月	四	五	六	七	八	九	十	十	一	二	三	月 名 番 號
號	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
五	二	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	五三號
六	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	五六號
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一三八號
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四八號
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四八號
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
十	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
十一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
十二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四九號

107

名古屋種

體	一	計	三	二	一	十	十	十	九	八	月
重	顆	重	月	月	月	月	月	月	月	月	
一二、一二	四七三	一六一	一八	一五	九	六	一	九	一三	一三	八
一二、二	五五五	一六、三	一五	七	一	一	一	一	一	一四	八
一〇、四	四九五	一四、四	一二	一三	一五	一	一	一	一五	二〇	八
一二、八	四〇一	一七、一	一九	一三	一	一	一	一	一三	一七	八
一一、四	三七一	一三、六	一九	一二	一二	一	一	一	一三	二〇	八
一一、四	四三七	一五、四	一四	一二	六	一	一	一	六	一六	八
一三、二	四二〇	一四、〇	一六	一一	一〇	一	一	一	一	一	八
一〇、四	四八五	一五、六	二〇	一七	八	一	一	一	一	一	八
一一、四	三九三	一四、八	一七	一一	五	一	一	一	一	一	八
一三、五	五四〇	一四、九	一三	一	一	一	一	一	一	一	八

106



# 病蟲害之部

孵化年月	體量	一顆卵量	計
一一、四	五五〇	一五、〇 <small>毎</small>	一二七
一一、四	五八五	一四、六 <small>毎</small>	一四九
一一、五	四二七	一四、七 <small>毎</small>	一二七
一一、五	五八〇	一四、二 <small>毎</small>	一五二
一三、三	五二〇	一四、七 <small>毎</small>	七一
一三、三	五〇〇	一五、〇 <small>毎</small>	五四

一〇八

## ハ、鶏卵貯藏試験

目的 本試験ハ硅酸曹達ト石灰水トノ貯藏力並ニ貯藏液濃度ト貯藏力トノ關係及貯藏價值ヲ明ニセントスルニアリ

試驗方法 硅酸曹達液——硅酸曹達一封度ヲ湯ニ升五合ニ溶解シテ甕ニ入レ冷却セシ後産卵當日ノモノヲ浸積ス

石灰水——生石灰百五十匁ヲ水五升ニ溶解シ上澄液ヲ採リタルモノヲ甕ニ入レ更ニ食塩五十匁ヲ解カシ産卵當日ノモノヲ毎日浸積ス

供試卵 白色レグホーン、名古屋ノ有精卵

試驗成績

貯藏日數ハ百二十日乃至百十日ニシテ九月四日檢卵ノ結果左ノ如シ

貯藏日數	内容殆ンド異 狀ナキモノ	生食用ニハ適セザルモ菓 子料理用ニ供シ得ルモノ	全ク腐敗 セルモノ
硅酸曹達液	六四個	五一個	二個
石灰水	六四	五八	四〔卵黃凝固セ ルモノ三個〕



赤 蟲 害 之 部

# 病 蟲 害 之 部

## 第一 病理ニ關スル試驗

一、柑橘類瘡痂病豫防試驗 (第四年目)

其一、藥劑効果比較試驗

各種藥劑ノ柑橘類瘡痂病ニ對スル豫防上ノ効果ヲ比較試驗セントス

供試品種 温州蜜柑 十五年生

試驗區數 四 區 一區十本

委託試驗地 粕屋郡青柳村 安松周藏所有園

試驗區別

區番號	區 名	供 試 藥 劑	濃 度	撒 布 時 期	備 考
第一區	石灰ホルドI液撒布區	三斗式等量石灰ホルドI	第一回ホIメ比重三度	四月上旬 五月下旬 六月上旬	各區共第一回四月上旬ハ發芽前 第二回五月下旬ハ落花直後第三 回六月上旬ハ果實大豆粒大ノ時 トス
第二區	石灰硫黄合劑撒布區	普通石灰硫黄合劑	第二回クク比重一度	四月上旬 五月下旬 六月上旬	
第三區	銅石鹼液撒布區	八匁式銅石鹼液	第三回ククO二度	四月上旬 五月下旬 六月上旬	
第四區	標準區			四月上旬 五月下旬 六月上旬	

撒布方法

撒布量ハ毎回一株三升宛トス、但樹ノ大小ニ依リ適宜調節ス  
撒布等ハ蓆ヨリ隣接區ノ樹ヲ掩ヒ藥劑ノ飛散シテ之ニ附着スルヲ防グ、噴霧器ハ牛田式トス

試驗成績

大正十三年度分左ノ如シ



區番號	區名	樹番號	全果數	健果數	全果數ニ對スル健果數ノ歩合%	病果數	全果數ニ對スル病果數ノ歩合%	標準區トノ分	有効歩合
第一區	石灰ホルドI液撒布區	(内三本枯) 二一三〇	三、一〇七	二、四五二	七六、元	七五個	二、三六二	二五、八八	五三、四九
第二區	石灰硫黃合劑撒布區	(三ナ除キ三ナ加フ) 三、一三〇	四、四六〇	二、二六五	五〇、七九	二、一九五	四九、三二	〇、二八	五、六六
第三區	銅石鹼液撒布區	(三ナ除キ三ナ加フ) 一、一〇〇	四、一七八	二、五二八	六〇、七	一、一六〇	三九、七三	九、七六	一九、七
第四區	標準區	(三ナ除キ三ナ加フ) 三、一四〇	三、四三五	一、七三〇	五〇、五二	一、六九五	四九、四九	—	—

備考 有効歩合トハ標準區ト他區トノ%ノ差ヲ標準區ノ病果ノ%ニテ除シタルモノヲ云フ

成績摘要

本年度本試驗成績ヲ見レバ、石灰ホルドI液撒布區最優良ノ結果ヲ示シ病果ノ五割二歩四厘九毛ハ之ヲ無被害トナシタル成績ヲ示シ銅石鹼液撒布區之ニ次ギ有効率一劑九步七厘二毛ヲ示シ石灰硫黃合劑最劣ノ成績ヲ示セルモ尙五步六厘六毛ノ効果ヲ示セリ  
 本試驗開始(大正十年度)以來本年度ニ至ル四ヶ年ノ成績ニ就テ通覽スルニ何レノ年モ豫防區ハ無豫防區ニ優ル成績ヲ示セルモ何レノ藥劑ガ最有效ナルカニ就テハ茲ニ論斷シ難ク繼續試驗施行ノ要ヲ認ム

其二、藥劑撒布回数試驗

目的 藥劑ノ撒布回数ヲ異ニスルコトニ依リ本病豫防上ニ如何ナル病果ヲ奏スルカヲ比較試驗セムト

供試品種 温州蜜柑 十五年生  
 試驗區數 四區 一區ニ付十本  
 委託試驗地 粕尾郡青柳村 安松周藏所有園  
 試驗區別

區番號	區名	供試藥劑	撒布時期	撒布方法
第一區	年二回撒布區	三斗式等量石灰ホルドI液	第一回 四月中旬 第二回 六月上旬	各區共撒布量ハ毎回一株三升宛トス但樹ノ大小ニ依リ適宜調節ス其他其一藥劑効果比較試驗ニ同シ
第二區	年三回撒布區	全	四月上旬 五月下旬 六月上旬	
第三區	年四回撒布區	全	六月中旬 六月下旬	
第四區	標準區	全	—	

試驗成績 大正十三年度分左ノ如シ

區番號	區名	樹番號	全果數	健果數	全果數ニ對スル健果數ノ歩合%	病果數	全果數ニ對スル病果數ノ歩合%	標準區トノ分	有効歩合
第一區	年二回撒布區	五一六〇	三、九七七	二、八八六	七二、五六	一、〇九二	二七、四四	二三、〇五	四四、五六
第二區	年三回撒布區	一一三〇	三、二二七	二、四三二	七六、元	七五五	二三、六二	二五、八八	五二、四九
第三區	年四回撒布區	四一五〇	五、四九七	四、六九〇	八五、三〇	八〇八	一四、七〇	三四、七九	七〇、二九
第四區	標準區	(三ナ除キ三ナ加フ) 三、一四〇	三、四三五	一、七三二	五〇、五二	一、六九五	四九、四九	—	—

備考 有効歩合トハ標準區ト他區トノ%ノ差ヲ標準區ノ病果ノ%ニテ除シタルモノヲ云フ

成績摘要

本年度本試驗ノ成績ヲ見レバ年四回撒布區最効果ヲ認メ病果ノ七割二厘九毛ヲ無被害ナラレメ年三回撒布區之ニ次ギ五割二歩四厘九毛年二回區最劣リタルモ尙四割四步五厘六毛ノ有効率ヲ示セリ  
 大正十年度本試驗開始以來四ヶ年間ノ成績ヲ見ルニ年ニ依リ差異マレモ撒布回数ノ多キモノ程一般ニ良好ノ結果ヲ示セルモ藥劑ノ効果ハ種々ノ因子ニヨリ或ハ發揚セラレ又減殺セラルルモノナルヲ以テ更ニ繼續施行シテの確ナル結論ニ到達センコトヲ期ス

二、柑橘類潰瘍病豫防試驗 (第四年目)



其一、藥劑效果比較試驗

目的 各種藥劑ノ柑橘類潰瘍病ニ對スル豫防上ノ效果ヲ比較試驗セムトス  
供試品種 ワシントン、ネーブル、オレンヂ、  
試驗區數 四 區 一區十本  
十九年生

委託試驗地 粕屋郡青柳村 清水泉藏所有園  
試驗區別

區番號	區名	供試藥劑	全上濃度	撒布時期				樹番號
				第一回	第二回	第三回	第四回	
第一區	石灰ボルドー液撒布區	等量式石灰ボルドー液	三斗式	五月下旬	六月中旬	七月上旬	七月下旬	三〇一、四六
第二區	石灰硫黃合劑撒布區	普通式石灰硫黃合劑	第一回ボルドー液 第二回ク 第三回ク 第四回ク	〇、二五度	〇、二五度	〇、二五度	〇、二五度	三二一、三四
第三區	銅石鹼液撒布區	八匁式銅石鹼液	〇、二五度	〇、二五度	〇、二五度	〇、二五度	〇、二五度	三九一、五八
第四區	標準區							三三、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇

撒布方法 撒布量ハ毎回一株ニ付約三升トス、但樹ノ大小ニヨリ調節ス、噴霧器ハ牛田式トス、撒布ノ時ハ葉ニテ隣接區ノ樹ヲオホヒ藥劑ノ飛散シテ之ニ附着スルヲ防グ

試驗成績

區番號	區名	全果數	健果數	全果數ニ對スル健果數ノ歩合%	病果數	全果數ニ對スル病果數ノ歩合%	標準區トノ分差	有効歩合
第一區	石灰ボルドー液撒布區	二、四四六	二、四三六	九九、五九	一〇	〇、四一	〇、七八	六五、五四
第二區	石灰硫黃合劑撒布區	一、三二九	一、三二四	九九、六三	五	〇、三八	〇、八二	六八、〇〇

區番號	區名	全果數	健果數	全果數ニ對スル健果數ノ歩合%	病果數	全果數ニ對スル病果數ノ歩合%	標準區トノ分差	有効歩合
第三區	銅石鹼液撒布區	一、四〇七	一、三九七	九九、八二	一〇	〇、七〇	〇、四九	四一、一八
第四區	標準區	一、九四八	一、九二五	九九、八二	二三	一、二九	一、	一、

備考 有効歩合トハ標準區ト他區トノ%ノ差ヲ標準區ノ病果ノ%ニテ除シタルモノヲ云フ

成績摘要 本成績ニ依リテ見レバ本年度ハ石灰硫黃合劑最良ノ成績ヲ示シ、有効歩合六割八歩二厘ヲ示シ石灰ボルドー液之ニ次ギ六割五歩五厘四毛、銅石鹼最劣リ四割一歩一厘八毛ノ被害豫防ノ成績ヲ示セリ  
大正十年度開始以來四ケ年ノ成績ニ就テ見ルニ概括的ニ云ヘバ、石灰ボルドー液ノ結果良好ナレトモ年ニヨリ差異アルヲ以テ更ニ繼續試驗施行ヲ要ス

其二、藥劑撒布回数試驗

目的 藥劑撒布ノ回数ヲ異ニスルコトニ依リテ本病豫防上如何ナル效果ヲ示スヤヲ比較試驗セントス  
供試品種 ワシントン、ネーブル、オレンヂ、  
試驗區數 四 區 一區十本  
十九年生

委託試驗地 粕屋郡青柳村 清水泉藏所有園  
試驗區別

區番號	區名	供試藥劑	撒布時期				樹番號
			第一回	第二回	第三回	第四回	
第一回	年二回撒布區	三斗式等量石灰ボルドー液	六月上旬	七月中旬	七月下旬	七月下旬	一三、一三
第二回	年三回撒布區	全	六月上旬	七月上旬	七月上旬	七月下旬	一一、〇〇
第三回	年四回撒布區	全	五月下旬	六月中旬	七月上旬	七月下旬	二、一三、三、四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇
第四回	標準區						三、四七、四八、四九、五〇



撒布方法 潰瘍病豫防試験其一二同ジ  
試験成績

區番號	區名	全果數	健果數	全果數ニ對スル健果數ノ歩合	病果數	全果數ニ對スル病果數ノ歩合	標準區トノ分差	有効歩合
第一區	年二回撒布區	1,009	1,008	99.8%	5	0.5%	0.6%	57.9%
第二區	年三回撒布區	1,335	1,333	99.9%	3	0.2%	0.3%	18.4%
第三區	年四回撒布區	2,446	2,436	99.6%	2	0.1%	0.3%	18.4%
第四區	標準區	1,948	1,935	99.3%	3	0.2%	0.6%	18.4%

備考 有効歩合トハ標準區ト他區トノ病害ノ%ノ差ヲ標準區ノ病果ノ%ニテ除シタルモノヲ云フ  
成績摘要

本年本試験ノ成績ニ依リテ見ルルハ年四回撒布區其成績最良好ニシテ有効歩合六割五歩五厘四毛ヲ示シ、年二回撒布區之ニ次ギ五割七歩九厘九毛ヲ示シ年三回撒布區最劣レリ、然レモ尙、一割八歩四厘八毛ノ有効歩合ヲ示ス

本試験開始以來四ヶ年ノ成績ヲ綜合考察スルニ年四回撒布區、最モ優レ年二回區之ニ次ギ年三回區最モ劣レリト雖年ニ依リ異同少カラス尙繼續試験ヲ施行スルノ要アリ

三、蘭草蛇紋病委託試験

蘭草蛇紋病豫防ニ對シ土壤消毒、苗消毒、藥劑撒布、肥料ノ配合等ノ効果ヲ知ラムガタメ試験ヲ三潞郡木佐木村及大莞村ニ於テ施行(第二年度)セルモ本年ハ發病一般ニ少ク試験地ニハ皆無ナリシヲ以テ成績ヲ得ズ尙藥劑撒布ニ對シ三斗式石灰ボルドー液ヲ使用セシモノハ著シク藥害ヲ呈シタリ

四、紫雲英菌核病ニ關スル試験

(本省委託試験三年目)

目的 (イ)、菌核ノ水田ニ於ケル死滅日數試験

紫雲英菌核ハ水田ニ埋没セル場合ニ幾何ノ日數ノ湛水ニヨリ死滅スルヤヲ知ラントスルニアリ  
經過及成績

田面ニ菌核ヲ播下シ三寸及五寸ノ深サニ耕起シ三ヶ月、三ヶ月半、四ヶ月、四ヶ月半、五ヶ月湛水セシニ三ヶ月湛水セルモノト雖モ子器ノ發生ヲ認メズ  
同様ワグネルポトニ於テ試験セルモノモ子器發生セズ、菌核ハ悉ク腐敗セルヲ認ム

(ロ)、菌核病發生ト連作トノ關係試験

目的

紫雲英連作ト菌核病發生トノ關係ヲ知ラムトスルニアリ  
經過及成績

連作區ハ各年發生ヲ認メ發病箇所モ多シ、一年及二年休閑區ハ箇所少キモ猶發病セリ  
五、農用藥品効果試験

目的

本試験ハ近來發賣ノ獨逸輸入藥品チランチン及ウスブルン及其レト類似ノ和製品ウベルチントニ付其植物生育上ニ及ボス効果及收量ニ付知ルヲ以テ目的トス  
經過及成績

蔬菜類米麥、豈科作物、花卉ニ使用シ其成績ノ一部ヲ得タルモ追テ纏メテ登載スベシ。概シテ生育上及ボス作用ニ付テハ認ムベキモ何レモ肉眼ニテハ識別困難ノ程度ノ場合多ク收量ニ及ボス影響モ僅少ナリ。

第二、害虫ニ關スル試験







計	自九月三十日	自九月廿八日	自九月廿七日	自九月廿三日	自九月十八日	自九月十二日	自九月七日	自九月三日	自八月廿九日
	二	二〇	二〇	一〇	一二	二〇	二〇	二〇	二〇
	二〇七三	一	一	一	一	一	一一	一八	一八
	五〇四一	一	一	三	五	三	七五	一五二	一五二
	七二一四	一	一	三	五	三	八六	一七〇	一七〇
	一七	一	一	一	一	九	一	一	一
	一七	一	一	一	一	九	一	一	一
	七二三一	一	一	三	五	二	八六	一七一	一七一

即チ總數七千三十一頭ニシテ其中三化性ハ十七頭ナリ猶雌雄ノ割合ハ二化性ニ於テ雌二千七十三頭雄五千四十一頭ニシテ雄ハ總數ノ約七十一%ニ當ル

二、螟虫卵寄生蜂保護器ニ關スル調査 (本省指定試驗三年目)

目的 簡易適切ナル保護器ヲ得ントスルニアリ

方法 香川縣型、三重縣型、岩壁式、小山式、水甕裝置等保護器十四個ニツキ左記事項ヲ調査セリ

- (一) 油水部ニ於ケル螟虫及卵寄生蜂ノ死滅數
- (二) 投卵部ニ於ケル螟虫及寄生蜂ノ死滅數

成績摘要

- (一) 普通ノ保護器ニ於テハ寄生蜂ノ油水部ニテ溺死スルモノ調査總卵粒數ニ對シ(螟虫卵一粒ニ寄生蜂一頭宛寄生スルモノト見做シテ)最多三七、九九%最少五%平均一三、九二%ナリ
  - (二) 同様投卵部ニ於テ死滅殘留スル蜂ハ最多一五、八八%最少一%平均七、七〇%ナリ
  - (三) 油水及投卵部ヲ舍スルキハ寄生蜂ノ總死滅數ハ最多三七、九五%最少二、七二%平均一二、七八%ナリ
  - (四) 香川縣型保護器ハ概シテ油水部中ノ溺死虫多ク三重縣型ハ投卵部中ノ死滅虫多キ傾アリ大體トシテ三重縣型死滅率低シ
  - (五) 改良型(本場ニ改良セルモノ)ハ概シテ成績良好ナリ、構造ニ於テ蓋ニ氣抜ヲ設ケタルモノ(第一號)ト然ラザル(第二號)トハ成績ニ於テ著シキ差ヲ認メズ寧ロ設ケザリシモノ優レリ
  - (六) 岩壁式保護器ハ通風宜シキヲ得ズ且油水溝及投卵部ヨリ窓迄ノ距離遠キニ過グルヲ以テ蜂ノ溺死スルモノ多シ
  - (七) 保護器ハ概シテ容積ノ大型ナルモノニ比シ小型ノモノハ蜂ノ死滅スルモノ少シ
  - (八) 保護器塗料ノ色ハ白色最モ良好ニシテ器内ノ温度ノ變化及蜂ノ死滅スルモノ概シテ少シ、青色之ニ亞ギ黑色一般ニ不良ナリ
  - (九) 保護器ニ於ケル蜂ノ死籠率ハ野外自然狀態ノモノニ比シ概シテ高キ傾アリ
- 殊ニ螟虫ノ死籠率ハ保護器ニ於テ著シク高シ。蜂ノ死籠率ハ野外ニ於テ調査總卵粒數ニ對シ五、二



四%ナルニ保護セルモノハ最多三五、五七%最少二、七五%平均一四、〇七%ナリ

(一〇)保護器ニ付キテハ蜂ノ死籠率ハ一般ニ香川縣型三重縣型ニ比シ稍高キヲ認ム、器ノ構造上器ノ設置期間中晴天持續スルハ香川縣型ハ器内ノ温度ノ昇騰ニ因リ死籠數増加スルモノ、如ク雨天ノ持續スルハ三重縣型ハ濕氣ノタメ死籠數増加スルガ如シ

(一一)螟虫卵一粒ニツキ寄生蜂ノ二頭以上寄生スルモノ、死籠セルモノニ付調査セシニ最多六、四二%最少〇、〇〇三%平均二、〇三%ナリ

(一二)本年ノ成績ニ於テ寄生蜂ノ油木部及投卵部ノ兩部ニ於テ死滅スルモノ約一二%内外卵粒中ニ死籠スルモノ一四%内外ニシテ一方六月中下旬ニ於ケルニ化性螟虫卵ニ對スル寄生率ハ平均四六%ナルヲ以テ保護器ヲ使用スルニ依リ平均蜂ノ寄生率中二〇%内外ハ器外ニ逸出スルモノト考フルヲ得ベキカ

三、螟虫卵寄生蜂ノ寄主調査 (本省指定試驗三年目)

目的

二、三化性螟虫以外ノ寄主ヲ知ラントスルニアリ

經過及成績

大正十年度ヨリ寄主トシテ實驗的ニ成功セル雜蛾二十三種ヲ得タリ

螟蛾科ノ雜蛾最モ多數ニシテ亞イデ尺蠖科、燈蛾科、葉捲科ナリ。野外自然ニ於テハ「あかたまごばち」ノ寄生セルモノハ稻ノ螟蛤卵最モ普通ニシテ稀ニ尺蠖科ノ卵ニ目撃サル

本縣下ニ於テハあかたまごばちハ主ニ雜蛾(螟蛾科及尺蠖科)ニ寄生シテ九月下旬ヨリ越冬ヲ始メ翌春四月下旬ニ羽化ヲ始ム

從テ螟虫卵ニ寄生スルニ至ルマデハ螟蛾科及尺蠖科ノ雜蛾ニ寄生シテ二代ヲ經過スルモノ、如シ。

四、稻生育時期ト葉鞘變色莖摘採トノ關係試驗(本省指定試驗三年目)

目的 稻ノ生育狀況ヨリシテ何レノ時期ガ摘採ノ效果最モ大ナルヤヲ知ラントスルニアリ

經過及成績 一區面積十五坪四區制トシ各期ニ於テ夫々二回ノ摘採ヲ施行シ標準ニ比較セル反當換算ノ收量ノ増減左ノ如シ

試驗區別	籾容量ノ増減	玄米容量ノ増減	一升重量ニヨル籾重量ノ増減	一升重量ニヨル玄米重量ノ増減	平均摘採莖數
穗孕前ヨリ穗孕初期	(増) 五、三〇升	(増) 一、〇〇升	(増) 九〇、一四〇 匁	(増) 八二、七、四 匁	一五〇本
出穂期	(増) 九、八〇	(増) 五、一〇	(増) 一四八、四	(増) 三二、二、七六	二八五本
開花期	(増) 三、三〇	(増) 一、六〇	(増) 一、一〇〇	(増) 一三〇、〇、八八	二二五本
乳熟期	(増) 八、八〇	(増) 二、四〇	(増) 二九四、〇	(増) 一三六、〇、八	九〇本
發生狀況ヨリ適期	(増) 五、〇〇	(増) 二、〇〇	(増) 九八、八	(増) 一六九、九六	三三五本

各區共ニ標準ニ對シ多少ノ增收ヲ認ムルモ出穂期ヨリ乳熟期ノ摘採ノ效果大ナリ然レモ三ヶ年ノ成績ニ付テミルニ必スシモ同一ノ傾向ヲ認メス

五、葉鞘變色莖摘採回数試驗 (本省指定試驗三年目)

目的 摘採施行ハ技術上經濟上何回ヲ以テ最モ適當トスルヤヲ知ラントスルニアリ

經過及成績 一區十五坪四區制トナシ一回ヨリ四回ニ亘リ摘採ヲ施行セルニ標準ニ對スル反當換算ノ收量ノ増減左ノ如シ

試驗區別	籾容量ノ増加	玄米容量ノ増加	一升重量ニヨル籾重量ノ増加	一升重量ニヨル玄米重量ノ増加	平均摘採莖數
一回摘採	(増) 三、三六斗	(増) 三、三六斗	(増) 一〇、六、八一 匁	(増) 一三、四、九七 匁	一五五本
二回摘採	(増) 三、三三斗	(増) 三、三三斗	(増) 七、七、七六 匁	(増) 一五、六、七二 匁	六五五本
三回摘採	(増) 三、三三斗	(増) 三、三三斗	(増) 六、五、七七 匁	(増) 一二、七、五三 匁	三九〇本
四回摘採	(増) 〇、一、四斗	(増) 一、四、八 斗	(増) 四、〇、三三 匁	(増) 五、九、九 匁	五二〇本







採卵月日	調査區別	脱出及死籠虫數計		脱出及死籠虫數%		蜂%ト標準トノ差
		螟虫	蜂	螟虫	蜂	
六月二十日	標保 準護 區區	六九四	一四六	三、三	八、九	(增) 四三、〇
六月廿三日	標保 準護 區區	五五四	七六九	四、六	六、九	(增) 三、七〇
六月廿六日	標保 準護 區區	二六三	八三六	二、七	六、〇	(減) 七、四六
六月廿九日	標保 準護 區區	二二五	二二五	三、四	五、八	(增) 一五、三九
七月六日	標保 準護 區區	二二五	三六八	三、五	七、八	(增) 三、三三

以上ノ成績ニ付考フルニ概シテ保護區ハ寄生率一般ニ増加スルヲ認ム。寄生率即チ蜂ノ活動ハ天候殊ニ降雨ト著シク關係シ苗代期間ニ降雨多キ時ハ寄生率低キ傾アリ。本年ハ成績良好ニシテ一五%—四〇%ノ増加ナリ全部ニ付%ヲトル時ハ

調査區別	螟虫計	蜂計	螟虫ト蜂トノ計	蜂%	保護區ト標準ノ差
保護區	三、四	四、五	八、〇	五、九	(增)
標準區	五、二	三、四	八、六	三、七	(增) 一九、二

九、苗代採卵工程ニ關スル調査

目的 苗代採卵ハ普通ノ作業ニ於テ幾何ノ程度ニ及フモノナルヤヲ知ラントスルニアリ  
(一) 一度採卵セシ后同ジ苗代ニ同ジ日ニ於テ他人夫ヲ以テ更ラシメ採卵セシニ其採卵率左表ノ如シ

採卵月日	第一回採卵	第二回採卵	第三回採卵	第一回採卵率	第二回採卵率	第三回採卵率
六月十九日	二六五塊	九五塊	—	七三、六%	二六、四%	—
六月廿一日	二〇四	一四〇	—	五九、三	四〇、七	—
全	一〇一	四二	—	二二、六	—	二三、一
六月廿三日	八一	八	—	八八、四	一一、六	—
全	一八七	一四二	—	五六、九	四三、一	—
六月廿六日	三三	一五	—	六九、〇	三四、〇	—

(二) 苗代田ニ於テ五回ノ摘採ヲ施行シ后苗全部ヲ引キ拔キ殘卵數ヲ調査ヒシニ

採卵回数	第一回採卵	第二回採卵	第三回採卵	第四回採卵	第五回採卵	第五回採卵 殘留卵數
採卵數	二、四	一、五	七、八	二、九	三、一	七、七
採卵%	二、六	九、六	三〇、六	一、八	一九、八	四九、〇

苗代田面積一畝 坪二合播

即チ五回ノ總採卵數一五七塊、殘卵七七塊、總產卵數二三四塊ニ對シ採卵率ハ六七パーセントニ當ル。一〇、螟虫ハ苗ニ於ケル產卵位置調査

目的 螟虫ハ苗ノ如何ナル位置ニ最モ多ク產卵スルヤヲ知リ採卵作業上資セントスルニアリ

成績

苗ノ根際ヨリノ距離	2寸	3寸	4寸	5寸	6寸	7寸	8寸	9寸	10寸	11寸
採卵數	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
採卵%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



百個	〇、三%	三三	一一〇	二〇七	二四二	一五一	八八	三六	三八	〇、三%
苗葉ノ先端ヨリノ位置	第一葉	第二葉	第三葉	第四葉	第五葉					
百分率	六四	五二	二四五	七九	一一					
個數	七%	五六	二七	九	一					

採卵總數九一一塊苗表面産卵八九六塊裏面一五塊即チ根際ヨリハ五六寸ノ距離、苗ノ先端ヨリハ第二葉及第三葉特ニ産卵多シ

一、螟蛾發生期調査(螟虫試験地)

螟蛾發生ノ狀況ヲ知ランガ爲メ誘蛾燈二燈(燈火ノ位置地上ヨリ一間半ノ一燈ヲ第一號燈トシ地上ヨリ約二尺、本田移植後ハ葉上ニ七八寸保ツヲ第二號燈トス、何レモ十燭ノ電球ヲ利用ス)ヲ設置シテ調査セリ、今其概要ヲ示セバ次ノ如シ

第一回發生

第一號燈	初	二	三	盛	三	二	終
五月十一日	五月二十日	五月二十六日	七月十日	六月二十三日	六月	七月二十八日	七月二十八日
(雄蛾二)	(雄蛾一)	(雄蛾一)	(雌蛾七三)	(雌蛾四〇)	飛來セズ	(雄蛾一)	飛來セズ
飛來セズ	飛來セズ	飛來セズ	飛來セズ	飛來セズ	飛來セズ	飛來セズ	飛來セズ

第二回發生

第一號燈	初	三	二	三	二	三	期
八月十六日	七月二十三日	八月二十七日	七月二十七日	九月	九月	七月二十八日	七月二十八日
(雌蛾二)	(雌蛾二)	(雌蛾五)	(雌蛾二)	(雌蛾三)	(雌蛾二)	(雌蛾二)	(雌蛾一)
八月十三日	七月二十三日	八月十八日	七月二十八日	九月	九月	七月二十九日	七月二十九日
(雌蛾二)	(雌蛾一)	(雌蛾一四)	(雌蛾三)	(雌蛾三)	(雌蛾二)	(雌蛾三)	(雌蛾三)

第三回發生

第一號燈	初	期	盛	期	終	期
八月二十五日	八月二十八日	九月	九月	九月	九月	七月二十八日
(雌蛾三)	(雌蛾三)	(雌蛾三)	(雌蛾三)	(雌蛾三)	(雌蛾三)	(雌蛾三)
八月二十日	九月	九月	九月	九月	九月	七月二十八日
(雌蛾二)	(雌蛾一)	(雌蛾一)	(雌蛾一)	(雌蛾一)	(雌蛾一)	(雌蛾一)

之ヲ前年度ト比較對照スレバ第一回ノ二化螟虫ハ初期四日遅ク盛期二十五日遅ク終期七日遅クシテ發生期間ハ三日長カリキ三化螟虫ハ初期十日遅ク盛期七日遅ク終期ハ二日早クシテ發生期間ハ八日短カリキ、第二回ノ二化螟虫ハ初期五日遅ク盛期二日早ク終期十日早クシテ發生期間ハ五日短カリキ、三化螟虫ハ初期四日遅ク盛期六日遅ク終期ハ同日ニシテ發生期間ハ四日短カリキ、第三回ノ三化螟虫ハ初期三日遅ク盛期四日早ク終期五日早クシテ發生期間ハ二日短カリキ、尙ホ各回ノ飛來數ハ第一回ノ二化螟虫千八百三十六蛾ニシテ前年ヨリ九十六蛾少ク三化螟虫ハ八蛾ニシテ五蛾少カリキ

第二回ノ二化螟虫ハ四百八十一蛾ニシテ五十三蛾多ク三化螟虫ハ二十二蛾ニシテ九蛾多カリキ

第三回ノ三化螟虫ハ四十二蛾ニシテ前年ヨリ十一蛾少カリキ

之ヲ要スルニ本年度ノ二化螟虫ハ前年ヨリ發生期間稍々短ク發蛾數モ少カリキ三化螟虫ハ發生期間稍々短ク發蛾數モ少カリキ

半旬期各發生期調査比較對照表



化期	發生期	年年別	二號		三號		四號	
			一號	二號	一號	二號	一號	二號
第一化期	初	大正十三年	五月中旬上半期	五月中旬下半期	五月中旬上半期	五月中旬下半期	五月中旬上半期	五月中旬下半期
全	盛	大正十三年	六月中旬上半期	六月中旬下半期	五月上旬上半期	五月上旬下半期	六月上旬上半期	六月中旬上半期
全	終	大正十二年	七月下旬下半期	七月下旬上半期	六月下旬上半期	六月下旬下半期	六月上旬上半期	六月中旬上半期
第二化期	初	大正十三年	八月中旬上半期	八月中旬下半期	七月下旬上半期	七月下旬下半期	七月上旬上半期	七月中旬上半期
全	盛	大正十二年	八月下旬下半期	八月下旬上半期	八月下旬上半期	八月下旬下半期	七月中旬上半期	七月下旬上半期
全	終	大正十三年	九月上旬上半期	九月中旬下半期	八月下旬下半期	八月下旬上半期	七月下旬下半期	七月下旬上半期
第三化期	初	大正十三年			七月下旬下半期	七月下旬上半期	七月下旬下半期	七月下旬上半期
全	盛	大正十二年			八月下旬下半期	八月下旬上半期	七月下旬下半期	七月下旬上半期
全	終	大正十三年			八月下旬下半期	八月下旬上半期	七月下旬下半期	七月下旬上半期
全	終	大正十二年			九月下旬上半期	九月下旬下半期	八月下旬下半期	八月下旬上半期

一二、螟虫卵寄生蜂寄生歩合調査 其一  
 螟虫卵ニ對スル天敵即チ寄生蜂ニヨツテ螟虫卵ノ孵化ヲ如何ナル程度迄防止スルカラ知ランガ爲メ螟虫試驗地所在地附近ヲ四部ニ分テテ調査セリ、第一化期螟虫卵ニ對スル調査成績左ノ如シ  
 螟虫卵、寄生蜂寄生歩合調査 (二化螟虫卵)

北 部 (三 浮 井 郡)	中 部 (八 三 山 郡)	南 部 (三 池 門 郡)	最 北 部 (朝 筑 倉 郡)
採集卵塊數 六七塊	採集卵塊數 一四〇塊	採集卵塊數 一〇五塊	採集卵塊數 三七塊
卵一卵塊平均數 七八粒	卵一卵塊平均數 三八粒	卵一卵塊平均數 一〇五粒	卵一卵塊平均數 八六粒
寄生歩合 八、〇五	寄生歩合 七、五七	寄生歩合 六、四〇	寄生歩合 九、四五
寄生卵ノ一卵塊平均歩合 三、七五	寄生卵ノ一卵塊平均歩合 三、二六	寄生卵ノ一卵塊平均歩合 二、六一	寄生卵ノ一卵塊平均歩合 四、六六
總卵粒數ニ對スル寄生歩合 三、一一	總卵粒數ニ對スル寄生歩合 二、五一	總卵粒數ニ對スル寄生歩合 二、二六	總卵粒數ニ對スル寄生歩合 四、五一
螟虫孵化歩合 一、五五	螟虫孵化歩合 五、〇四	螟虫孵化歩合 〇、九一	螟虫孵化歩合 〇、七二

螟虫卵寄生蜂寄生歩合調査 (三化螟虫卵)

中 部 (八 三 女 郡)	最 北 部 (朝 筑 倉 郡)
採集卵塊數 一四〇塊	採集卵塊數 一一三塊
卵一卵塊平均數 三八粒	卵一卵塊平均數 三七粒
寄生歩合 七、五七	寄生歩合 七、〇七
寄生卵ノ一卵塊平均歩合 三、二六	寄生卵ノ一卵塊平均歩合 三、四二
總卵粒數ニ對スル寄生歩合 二、五一	總卵粒數ニ對スル寄生歩合 二、六四
螟虫孵化歩合 五、〇四	螟虫孵化歩合 四、六五

螟虫卵各發生期寄生歩合調査 其二

八女郡水田村ニ於テ二化螟虫卵發生初期、盛期、終期、ニ採卵セシモノニ付各寄生歩合ヲ調査セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ

初 (六月四日採卵)	盛 (七月一日採卵)	終 (七月十三日採卵)
採集卵塊數 六九塊	採集卵塊數 一八塊	採集卵塊數 一四塊
卵一卵塊平均數 七九粒	卵一卵塊平均數 七五粒	卵一卵塊平均數 九〇粒
寄生歩合 六、六七	寄生歩合 八、三三	寄生歩合 六、四三
寄生卵ノ一卵塊平均歩合 二、一七	寄生卵ノ一卵塊平均歩合 一、七七	寄生卵ノ一卵塊平均歩合 一、七四
總卵粒數ニ對スル寄生歩合 一、五五	總卵粒數ニ對スル寄生歩合 一、五三	總卵粒數ニ對スル寄生歩合 一、一五
螟虫孵化歩合 一、二〇	螟虫孵化歩合 一、七八	螟虫孵化歩合 一、二〇











品種名	坪調査數	總莖數	莖蝕數	二化	三化	計	二化	三化	計	總計
福井密粒	十五坪(七、五坪二區)									
關取	全									
三寶	全									
福晚六四號	全									
關八號	全									
長崎早稻一號	全		出穂							
岡八號	全									
白笹	全									
竹成	全		出穂							
曲玉	全									
早稻神力	全		出穂							
三井神力	全									
信州金子	同		出穂							
福晚七〇號	全									

計	大金	大倉
全	全	全
西東	西東	西東
二六	〇一	四一
全	全	全
充七	〇〇	四四
全	全	全
三三	〇一	一三
全	全	全
二二	〇二	九八

附記、前表中出穂トアルハ調査ノ際ニ既ニ出穂セシモノナレドモ被害ノ爲メニ未ダ白穂トナラズシ  
 テ葉鞘部ノミ加害セラレ居リシヲ以テ之ヲ葉鞘變色莖トシテ計上セリ  
 (四) 秋期ニ於テ刈藁刈株内ニ潜伏セル螟虫數ノ多少並ニ刈藁ヨリ螟虫ノ被害莖數ヲ調査セシニ左表ノ  
 如キ成績ヲ得タリ

品種名	坪調査數	總莖數	莖蝕數	二化	三化	計	二化	三化	計	總計
福井密粒	三、八坪 二區坪	三〇本	一七本	死一	二五	三六	死二	四四	八〇	一四四
關取	全	二九二	一三五	死一	三三	四八	死二	四八	九六	一四四
三寶	全	二四六	一五五							
福晚六四號	全	三三〇	二〇九	死一	四〇	五五	死二	四八	一〇三	一五五
關八號	全	二四六	一七九	死一	二五	四〇	死二	三〇	七〇	一四〇



品名	坪數	總莖數	莖蝕數	二化	三化	計	二化	三化	計	總計
福井密粒	全	二〇七	一四一	三三	〇〇	三三	二七	〇〇	二七	二〇七
關取	全	二九〇	八六	二六	〇〇	二六	二〇	〇〇	二〇	二九〇
三寶	全	二四六	七〇	二四	〇〇	二四	二二	〇〇	二二	二四六
福晚六四號	全	三三〇	一四〇	二八	〇〇	二八	二二	〇〇	二二	三三〇
岡八號	全	二四八	一〇三	三六	〇〇	三六	二八	〇〇	二八	二四八
長崎早稻一號	全	三六六	一〇七	三七	〇〇	三七	三三	〇〇	三三	三六六
白笹	全	二七三	一〇〇	四六	〇〇	四六	三三	〇〇	三三	二七三
竹成	全	一八九	一〇三	三三	〇〇	三三	三三	〇〇	三三	一八九
曲玉	全	二四六	七六	二二	〇〇	二二	二二	〇〇	二二	二四六
早稻神力	全	三三九	一〇三	四〇	〇〇	四〇	二五	〇〇	二五	三三九
三井神力	全	二七〇	一〇七	二二	〇〇	二二	二二	〇〇	二二	二七〇
信州金子	全	三三〇	九五	〇〇	〇〇	〇〇	三三	〇〇	三三	三三〇
福晚七〇號	全	三三八	九三	三三	〇〇	三三	二七	〇〇	二七	三三八

(五)

螟虫越冬後即チ春期刈藁刈株潜伏螟虫數調査用トシテ田圃ニ保管セシヲ秋期ノ調査ト同様施行セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ

品名	坪數	總莖數	莖蝕數	二化	三化	計	二化	三化	計	總計
長崎早稻一號	全	三六六	一〇七	三七	〇〇	三七	三三	〇〇	三三	三六六
白笹	全	二七三	一〇〇	四六	〇〇	四六	三三	〇〇	三三	二七三
竹成	全	一八九	一〇三	三三	〇〇	三三	三三	〇〇	三三	一八九
曲玉	全	二四六	七六	二二	〇〇	二二	二二	〇〇	二二	二四六
早稻神力	全	三三九	一〇三	四〇	〇〇	四〇	二五	〇〇	二五	三三九
三井神力	全	二七〇	一〇七	二二	〇〇	二二	二二	〇〇	二二	二七〇
信州金子	全	三三〇	九五	〇〇	〇〇	〇〇	三三	〇〇	三三	三三〇
福晚七〇號	全	三三八	九三	三三	〇〇	三三	二七	〇〇	二七	三三八
大倉	全	二五〇	一〇九	三〇	〇〇	三〇	二九	〇〇	二九	二五〇
黃金稻	全	三三九	一〇四	三三	〇〇	三三	二七	〇〇	二七	三三九







全	全	全	信州金子	全	全	全	三井神力	早稻神力	全	全	全	全
全	西摘探	全	東摘探	全	西摘探	全	東摘探	西不摘探	西摘探	全	東摘探	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
10,236	9,700	10,118	10,033	10,185	10,196	11,330	11,212	9,800	9,600	7,900	8,155	11,277
五,333	四,744	五,433	不明	六,008	六,181	六,866	七,200	四,811	四,600	三,944	四,008	六,811
二五五,九	二四八,〇	二四三,〇	二五五,一	二九〇,八	二九二,六	二九〇,八	二九二,六	二四二,三	二四三,六	二五五,六	二五三,九	二八二,三
三六二,三	三七九,三	三七三,一	不明	三九九,九	四〇四,九	三九一,七	三九四,九	三七三,〇	三七六,三	三七四,九	三七四,九	三七〇,五
五,二〇	四,九八	五,四四	不明	五,六〇	五,六四	五,五八	五,八八	四,九一	四,七九	四,九八	五,〇一	五,九六

全	全	曲玉	全	全	全	竹成	全	全	全	白笹	全	長崎早稻一號
西摘探	全	東摘探	全	西摘探	全	東摘探	西不摘探	西摘探	全	東摘探	全	西摘探
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	七,五坪
10,290	10,180	10,955	9,885	10,330	10,733	10,677	11,009	11,933	14,411	13,333	10,000	9,755
六,五五	五,九八	七,四一	五,〇〇	五,300	五,四〇〇	五,四四一	六,四四	六,七三	七,一六	六,四九	五,一五	不明
二八三,九	二七五,〇	二七六,六	二四九,九	二五五,二	二五三,九	二六二,二	二六三,六	二六六,〇	二五五,九	二五六,六	二五九,四	二四九,九
三七〇,五	三九八,二	三九九,九	三八五,二	三八八,五	三七七,八	三七九,三	三九一,七	三九三,三	三八七,〇	三九六,六	三八九,二	不明
六,〇四	五,五四	六,七七	五,二〇	五,二二	五,一三	五,一四	五,一六	五,二〇	四,九七	四,八七	五,一五	不明



福晚七〇號	東摘探	七五坪	二、六五	七、三七	二八二、三	三七二、〇	五、八三
全	全不摘探	全	二、一八	六、九六	二七五、八	三七七、七	五、七一
全	西摘探	全	二、一二	七、五八	二八四、八	三三三、八	六、八二
全	全不摘探	全	二、〇六	七、三〇	二八三、九	三七二、〇	六、〇五
大倉	東摘探	全	二、〇〇	六、四三	二七五、〇	四〇四、九	五、三四
全	全不摘探	全	二、二六	六、五五	二六八、八	三九九、九	五、三〇
全	西摘探	全	二、二九	七、一八	二七〇、三	四〇一、五	五、五六
全	全不摘探	全	一、二五	六、八二	二六五、八	三七七、八	五、一九
黃金稻	東摘探	全	一〇、七五	六、〇三	二八六、五	四〇六、六	五、六一
全	全不摘探	全	一〇、二一	五、八八	二八〇、六	四〇一、五	五、六五
全	西摘探	全	一〇、九二	六、四五	二七九、八	三九八、二	五、七二
全	全不摘探	全	一〇、三五	五、三一	二七七、四	三七二、〇	五、一三

一五、螟虫對插秧期比較試驗

插秧時期ノ差異ニヨル螟虫被害(心枯莖數、葉鞘變色莖數)ノ程度ヲ知ラントシ改良神力種ヲ供用シテ試驗ヲ行ヘリ

成績

(一)心枯莖數ヲ調査セシ成績左表ノ如シ

試驗別	調査坪數	調査月日				計
		七月三十日	八月五日	八月十三日	八月二十一日	
六月二十六日插秧區	二畝歩	二二三本	三三四本	五〇五本	三九元本	一〇九二本
六月三十日插秧區	全	一七五本	四〇九本	六一九本	二七元本	一三三三本
七月十日插秧區	全	二二本	一六本	一〇二本	八五本	二二四本

(二)葉鞘變色莖數ヲ調査セシ成績左表ノ如シ

試驗別	調査坪數	調査月日			計
		九月二日	九月十日	九月十七日	
六月二十六日插秧區	二畝歩	三三本	三三本	三三本	九八本
六月三十日插秧區	全	一九本	三三本	三三本	七〇本
七月十日插秧區	全	三本	三本	三本	六本

以上各調査成績ニツキ觀ルトキハ插秧期ノ差異ニ對スル本年ノ螟虫被害程度ハ第一化期ニ於テハ六月三十日插秧區、六月二十六日插秧區、七月十日插秧區ノ順位ヲ示シ第二化期ニ於テハ六月二十六日插秧區、六月三十日插秧區、七月十日插秧區ノ順位ヲ示セリ

(三)各區ノ收量ヲ調査セシニ左表ノ如シ



試驗別	調查坪數	畝步	粗容	量	支米容量	一升粗重量	一升支米重量	粗摺歩合
六月二十六日播秧區	二	畝	升	五七、七六	二七、四	三七、〇	五、七	割
六月三十日播秧區	全	畝	升	五八、九三	二九、二六	三九、〇	五、七	割
七月十日播秧區	全	畝	升	五九、二二	二八、五、六	三九、一、七	五、六	割

一六、採卵及被害莖摘採ニ關スル效果比較試驗調查表

苗代及本田ニ於ケル採卵並ニ被害莖ノ摘採ハ二化螟虫驅除法トシテ如何ナル程度ノ效果アルヤヲ知ラムトシ左ノ五區ニ分チテ試驗セリ

記

- 第一區 苗代採卵 本田採卵 (第一化期)被害莖摘採 (心枯、葉鞘變色莖)
- 第二區 苗代不採卵 本田採卵(第一化期)被害莖不摘採(心枯葉鞘變色莖)
- 第三區 苗代採卵 本田不採卵(第一化期)被害莖不摘採(心枯、葉鞘變色莖)
- 第四區 苗代不採卵本田不採卵(第一化期)心枯不摘採、葉鞘變色莖摘採
- 第五區 苗代不採卵本田不採卵(第一化期)被害莖不摘採(心枯、葉鞘變色莖)

備考 苗代不採卵區ノ苗ニハ一坪ニ一塊ヲ附シ孵化蝕入セシ苗ヲ本田ニ播秧

成績

試驗別	區別	調查坪數	粗容	量	支米容量	一升粗重量	一升支米重量	粗摺歩合
第一區	西東	二〇坪	升	三六、三七	二〇、八九	二八、五、六	三八七、〇	五、八〇
第二區	西東	全	升	三一、五、四	一八、八、九	二九、九、九	三八七、〇	五、八〇
第三區	西東	全	升	三三、四、三	一八、四、三	二八、九、〇	三八八、五	五、五、一
第四區	西東	全	升	三三、〇、四	一八、〇、〇	二八、九、〇	三八七、〇	五、八〇
第五區	西東	全	升	三三、七、七	一八、三、七	二八、三、三	三八七、〇	五、八〇

以上ノ成績ヲ觀ルニ各區ノ各調査事項ニ於テ多少ノ差異ヲ生ゼシモ概括スルハ粗容量及支米容量ハ第一區最モ多クシテ第二區最モ少ク粗重量モ第一區最モ重クシテ第五區最モ輕シ

支米重量ハ第二區最モ重クシテ第四區最モ輕シ、粗摺歩合ハ第四區最モ多クシテ第二區最モ少カリキ之ヲ要スルニ本年ノ試驗成績ハ第一區即チ完全驅除區比較的成績可良ニシテ第二區即チ本田採卵區及ビ第五區(標準區)成績不良ナルガ如シ

一七、麥萎縮病豫防試驗

目的 麥萎縮病豫防上土壤消毒、種子消毒土壤ノ乾濕ハ如何ナル效果アルヤヲ知ルニアリ

試驗地 八女郡水田村

經過及成績 本年度ハ試驗地ニ發病全クナク從テ效果不明ナリ。猶縣下全般ニ發病ヲ認メザルハ氣象狀態ニ因ルモノナルカ追テ調査スベシ

一八、梨鋸蜂驅除試驗

試驗地 早良郡樋井川村

目的及經過 梨鋸蜂ヲ驅除スル目的ヲ以テ砒酸鉛、デリス石鹼、カンブラ合劑、除虫菊石鹼、上島殺虫劑ヲ夫々開花前及開花中ニ二回撒布セルモ鋸蜂ノ發生甚ダ少ク效果ニ付キ比較調査困難ナリ

カンブラ合劑及上島殺虫劑撒布ハ稍々被害果少キヲ認ム

一九、野鼠チフス菌配布



縣下郡農會及町村農會、個人ノ請求ニヨリ本年度ニ於テ配布セル野鼠チフス菌培養量及驅除施行圃地面積左ノ如シ

培養量	驅除面積
二百七十三立	四千九十五町步

二〇、べだりあ瓢虫配布

本場ニ於テ飼育蕃殖セルべだりあ瓢虫ヲいせりあ介殼虫驅除ノ爲メニ各郡市町村農會、學校、個人ノ請求ニヨリ配布セル頭數ハ千二百頭ニシテ驅除面積一町九反三畝、一市十四ヶ村ナリ  
瓢虫放飼ノ結果各年いせりあ介殼虫ノ發生減シ瓢虫飼育上食餌ニ不足ヲ來シ辛ウジテ配布スルヲ得タリ

# 雜之部



# 雜之部

## 第一 見習生ノ養成

見習生規程ニヨリ甲種二十名乙種十一名ヲ入場セシメ學理及技術ニ就キ一ケ年間養成シ修得セシモノニ對シテハ夫々修業證書ヲ授與シタリ其人名左ノ如シ

甲種

朝倉郡 安川村  
 三潞郡 久間田村  
 朝倉郡 安川村  
 朝倉郡 西川村  
 鞍手郡 三輪村  
 朝倉郡 浮羽村  
 浮羽郡 浮羽村  
 宗像郡 南郷村  
 京都郡 今元村  
 朝倉郡 朝倉村  
 田川郡 後藤寺町  
 朝倉郡 安川村  
 京都郡 犀川村  
 糸島郡 一貴山村

藤田 尾善五郎  
 長田 野中茂一  
 田代 津繁  
 在田 籠津益次  
 田村 山松茂五  
 村有 賀正  
 古有 島任太  
 福島 賀正  
 大福 島任太  
 中山 島任太  
 中川 島任太  
 浦中 島任太



水稻新品種試驗

麥新品種試驗

粕屋郡 大川村	荒卷 梅吉	宗像郡 東鄉村	吉田 辛六
遠賀郡 島門村	柴田 想太郎	鞍手郡 新人村	川原 達雄
嘉穂郡 幸袋町	市吉 要子	朝倉郡 安川村	久保 正五郎
筑紫郡 太宰府町	有吉 伊八	早良郡 入部村	草場 淺吉
糸島郡 前原町	波多 江惣六	三井郡 農會農場	深町 初太郎
浮羽郡 農會農場	吉村 頼道	三潞郡 木佐木村	北島 茂八
八女郡 農會農場	古園 井宇作	山門 郡	農會 農場
三池郡 銀水村	矢野 斗一	企救郡 會根村	矢田 部安太郎
田川郡 伊田町	杉本 久守	京都郡 豐津村	進悅 藏
築上郡 黒土村	廣津 守		
粕屋郡 大川村	山野 敏郎	宗像郡 東鄉村	中村 政一
遠賀郡 島門村	柴田 想太郎	鞍手郡 笠松村	有吉 清茂
嘉穂郡 幸袋町	市吉 要子	朝倉郡 三奈木村	宮原 金太郎
筑紫郡 太宰府町	有吉 伊八	早良郡 原村	松尾 幾次郎
糸島郡 前原町	波多 江惣六	浮羽郡 農會農場	椿市 三郎
三井郡 北野町	深町 初太郎	三潞郡 三潞村	立石 儀太郎
八女郡 農會農場	西村 敏功	山門 郡	農會 農場
三池郡 銀水村	矢野 斗一	企救郡 會根村	野口 茂

第二 委托試驗擔任者

乙

三池郡 銀水村	嘉穂郡 津屋崎町	宗像郡 鎮西村	嘉穂郡 鎮西村	三井郡 三國村	浮羽郡 江島村	遠賀郡 南門村	三潞郡 川口村	嘉穂郡 桂川村	浮羽郡 船越村	三潞郡 三潞村	築上郡 八津田村	三潞郡 大溝村	築上郡 八津田村	京都郡 犀川村	福岡郡 住吉町	鞍手郡 劍吉村	鞍手郡 木屋ノ瀬町
桃原	花田	柴田	藤吉	原田	古賀	石橋	川原	高瀬	小橋	高橋	福田	二宮	安增	近藤	安增	近藤	近藤
龍親	喜重	保良	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重	喜重
雄利	三人	範策	種繁	松郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎







事項別	回数	日数	回数	日数
農事講習會	二九	八二	六	二
農事調查會	六〇	九七	一	七
農事講話	三四	五〇	一	六
農事視察	五七	八八	一	七
農事試驗	五九	八五	一	六
病蟲試驗	二九	四八	一	五
委託試驗	二九	四八	一	五
實地指導	一六	三六	一	四
採種獎勵	一四	三〇	一	三
農事獎勵	二五	四〇	一	四
綠肥獎勵	二八	四四	一	四
品評會	三二	四八	一	五
其他	三五	五七	一	八
計	三八五	六八八	一二三	二一八

第五印刷物

左記印刷物ヲ調製シ參觀人其他へ配付セリ

- 業務年報
- 九州農業案内
- 麥作の手引
- 綠肥の栽培法
- 馬鈴薯の栽培法
- 試驗場概覽
- 米作の概覽
- 藝莖作の概覽
- 改良農具利用獎勵ノ菜
- 葱頭の栽培法
- 業務概覽
- 稻作の概覽
- 蘭作の概覽
- 甘藷の栽培法
- 茄子苗の仕立法

甘藍の栽培法  
黒土、赤土、砂土の改良法  
病虫防除要覽

花卉園藝要覽  
土壤肥料便覽

堆肥の作り方  
鶏の飼ひ方

第六 種苗、種畜、種禽、種卵ノ配付

種別	数量	種別	数量
小麥種子	四八、九〇三	豚子	一、四二二
大麥種子	六、九二〇	禽	四三頭
稈麥種子	二、七六〇	卵	二八四羽
甘藍種子	七、三二六	藍種	三、〇九一個
福岡白菜種子	〇、一三〇	藍種	〇、二六〇
葱頭	〇、九一〇	藍種	一五、一四二本
其他茄子、胡瓜、南瓜、蕃茄、青刈用大豆、ザイトウキツケン等ノ優良種苗ヲ配付セリ	三五、二五〇本	藍種	六、七七五株

本園 藝分場 第八、文書收發

二四四  
一一六  
三、八五三  
三七五



第九、參觀人

一八、一六四人

二、三八一

四〇一

第十、職員異動

(自大正十三年九月一日至大正十四年十月末日)

異動年月日	異動事項	職名	氏名
大正十三年十一月十五日	依願免職	助手	田浦
全	任用	全	大倉
大正十四年一月十五日	依願免職	農林技手	角田
全	任用	農林技手	高野
大正十四年一月二十日	依願免職	縣書記	漢野
全	任用	縣書記	高野
全	任用	事務囑託	漢野
全	任用	農林技手	清人
全	任用	農林技手	熊水
全	任用	全	春田
全	任用	分場長	久米
全	任用	助手	渡邊
全	任用	助手	大補
全	任用	全	西本
全	任用	全	福島
全	任用	全	川原

第十一、建物

五月二十三日	六月一日	十月九日	十月二十三日
全	全	全	全
依願免職(分場)	長野縣へ轉任	任用(分場)	依願免職
農林技手	農林技手	農林技手	主事補
杉本喜久男	志摩三郎	內山義雄	川邊英太郎

一、本場建物

建物名稱	館	室	所	室	室	室	室	室	室	室	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍
一、本館	二、分析室	三、第二分析室	四、小使室及便所	五、病虫害研究室及標本室	六、種蠶研究室	七、見習生教室	八、同宿	九、溫室	〇、厩	一、豚舍	二、雞舍	三、養雞舍	三、雞舍	二、雞舍	一、雞舍	一、雞舍	一、雞舍	一、雞舍

(二棟)

坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	
六五坪	三、一、五坪	九	一五、五	三〇	三〇	一四	三〇	九、六六	一七、五	二四、五	二二、五	一〇	六五坪	昇降口三	三、一、五坪	廊下二	九	一五、五	廊下二



一四、	一五、	一六、	一七、	一八、	一九、	二〇、	二一、	二二、	二三、	二四、	二五、	二六、	二七、	二八、	二九、	三〇、	三一、	三二、	三三、	
解	網	硝	農	收	倉	種	堆	家	耕	化	見	井	貯	定	綠	農	病	其	園	
化	子	具	納	肥	藝	倉	肥	運	夫	學	習	水	溫	肥	具	豚	他	園	園	
室	室	室	室	舍	庫	庫	舍	場	舍	置	場	戶	器	室	室	室	室	八	棟	
三	二一	二一	一七、五	一二〇、二五	二四	二一	三〇	九〇	二七、五	六	三	六ヶ所	一ヶ所	一ヶ所	一八	四二	三	三六、七五	三	
坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪	坪

一、	二、	三、	四、	五、	六、	七、	八、
收	同	堆	廐	耕	肥	井	其
納	下	肥	夫	料	他	四	棟
舍	家	舍	舍	舍	溜	戶	棟

第十二、面積

一、	二、
本場	園藝分場
內	內
總面積	面積
六七、八〇三	二〇、四一〇
三三坪	三、〇二〇
一六、五	五、五〇〇
二四	八、五〇〇
六、五	
一〇	
二ヶ所	
二ヶ所	
四、五	
三九、〇一一	
一八、二〇三	
四、一一九	
六、四〇〇	
田	
畑	
畑	
畑	



三、螟虫試驗地面積  
內譯

田物敷地

八二三  
二、四二七  
一一、〇〇四  
一〇、七一一  
二二三

一五八

第十三、大正十三年度豫算

經常部

六九、一六一圓

農事試驗場費

內譯

一一、四五二圓

一三、四四六

二、五六四

一一、五四六

三、七一〇

二、五五五

四、〇四一

七、〇九四

一二、一二七

六二六

俸給

雜給

場費

試驗費

原種圃費

米麥採種圃及種子配付監督費

綠肥改良增殖試驗費

螟虫試驗費

園藝分場費

修繕費

臨時部

二九七圓

內譯

二九七

農事試驗場費

設備費

第十四、現在職員

本場

擔任

場長心得 農藝化學

探種圃監督 藝

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

園藝 藝

種綠肥 藝

種綠肥 藝

畜產 藝

綠肥 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

昆蟲病 理

職名

農林技師

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

氏

田口

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

名

雄

廣

道

一

衛

雄

信

駿

巴

藏

彦

太

太

太

太

太

太

太

太

太

太

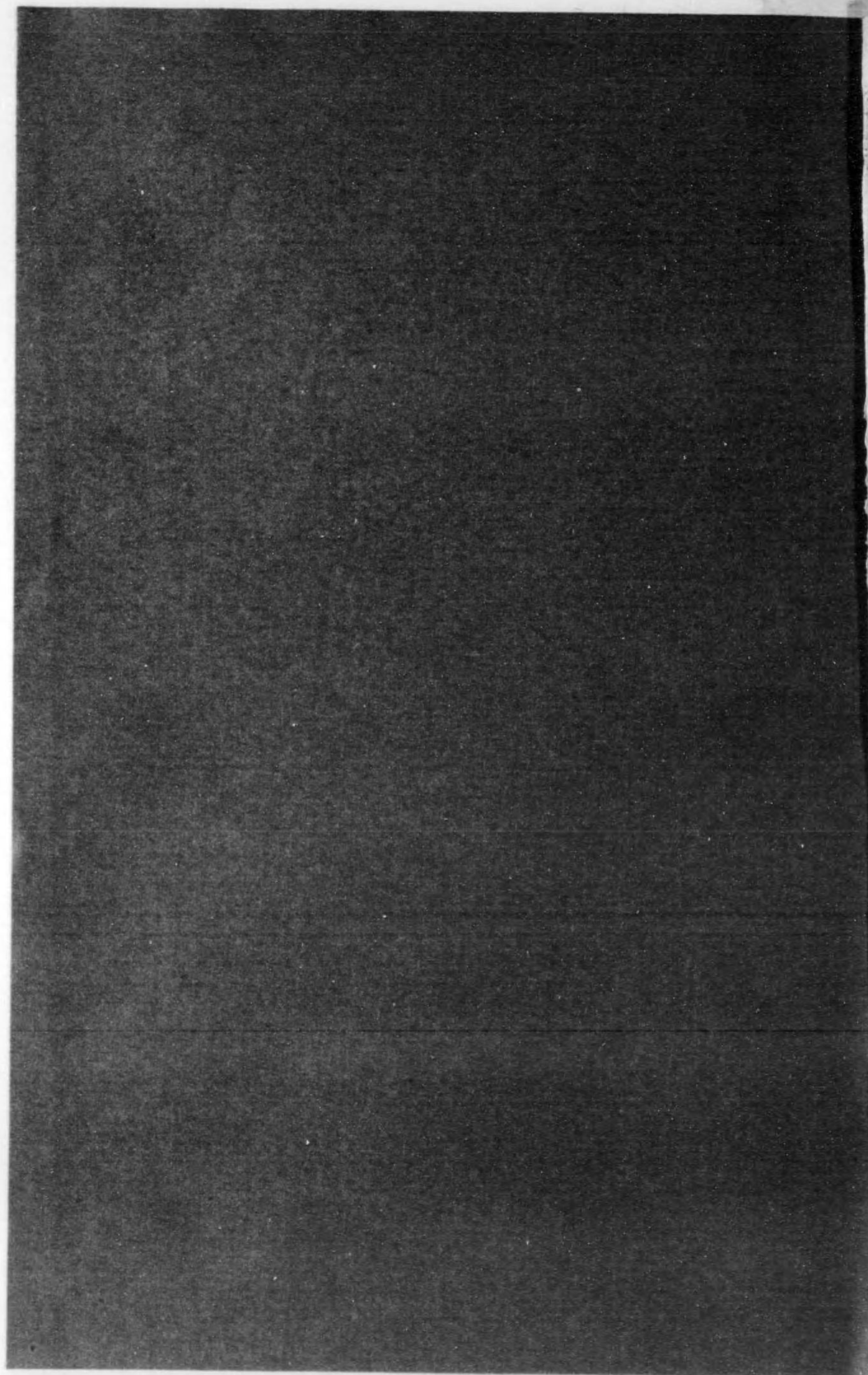
太

一五九











1424

3324



終